

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	商店街（代表者）	・8月初旬より9月にかけて、当地域で国際大会及び全国大会等が予定されているため、随伴者も含めて来街者が増加する。また、8月は当地の最大イベントである夏まつりに加えて協賛イベント等も多数予定されており、多数の業種で売上の増加が見込める。
		観光名所（従業員）	・当地において、大規模な野外イベントが予定されているほか、外国船籍の豪華客船の入港が前年よりも多く予定されており、観光への波及が期待される。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・7月より初秋にかけて、複数回的大型イベントが計画されており、道内外からの集客が期待される。宿泊、飲食関連、土産等には好影響が現れる。
		商店街（代表者）	・飲み屋、カラオケ店などで来客数が増加し始めるなど、若干ながら上向き始めた様子がうかがえる。ただ、全般的には、北海道ではまだ景気回復の実感が薄い。
		一般小売店〔土産〕 （経営者）	・原油の値上がりで漁業も農業も経費が増えていることに加えて、天候不順の影響もあり、周りからあまり良い話は聞かない。しかし、客との会話から、物価の上昇に対する不満よりも現政権に対する期待の方が高いことを感じる。
		百貨店（売場主任）	・夏のクリアランスセールが分散しているが、6月下旬も好調に推移している。定価品の売上が前年比107%と回復していることが大きい。セール品の動きも良く、客が使い分けて購入している様子がうかがえる。
		百貨店（売場主任）	・高額品が売れるなどの新政権の経済対策の効果は感じられないが、季節に見合った天候となり、これまでみられていた買い控えも収まり始めている。
		百貨店（販売促進担当）	・新政権の経済対策による影響は落ち着き始めたものの、顧客の購買に対する意欲はまだまだ高止まりしている。この傾向はこのまましばらく続くため、クリアランスセールも例年以上に盛り上がりを見せることになる。
		スーパー（店長）	・衣料品や寝具関係は天候に左右されやすいが、食品はずっと安定して売れている。今後については期待も込めて良くなる。
		家電量販店（経営者）	・秋から年末にかけて、消費税増税前の駆け込み需要が生じることになる。
		乗用車販売店（営業担当）	・7月の参議院選挙後に、消費税増税等と連動して駆け込み需要が生じることが期待される。
		高級レストラン（スタッフ）	・今後の予約状況についてみると、7～8月の来客数が伸びることが予想される。緩やかに伸びる傾向にあるため、今後はやや良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・7～8月の予約状況も引き続き好調に推移しており、外国人客、国内客問わず集客が回復している。しかし、旅行需要は強いものの、新たな貸切バス規制により大型ツアーバスが非常に不足していることで催行できないツアーも出ている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・コンサート、イベント、スポーツ大会の開催により週末は高稼働となる。平日も旅行会社の企画商品を含む一般団体予約が入り始めている。
		旅行代理店（従業員）	・ビートやたまねぎの生育が回復してきており、今後は農業関係者の動きが回復してくる。
		旅行代理店（従業員）	・9～11月は連休があるため、やや良くなる。また、海外旅行では景気が良くなると込み合うハワイへの予約状況が好調である。
		旅行代理店（従業員）	・全体的にお金が動いている。船旅などの高額な商品に客の興味が向いている。
		タクシー運転手	・少しずつ客との会話の内容が良くなっており、夜の繁華街への人出も多くなってきているため、大いに期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		タクシー運転手	・函館競馬が開催し、開催期間も長いいため、今後に期待が持てる。また、大型イベントがあり、当地への人の流れが期待できることからやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・夏季商戦の激戦にともない、客に価格的なメリットを感じてもらえるようになるため、今後についてはやや良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・例年どおりお盆時期まではピークが続く。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が期待できる。
		商店街（代表者）	・今の気候と季節のずれの影響により、夏物の売行きが良くなるチャンスである。ただし、逆に秋の立ち上がりが遅くなることが懸念される。
		商店街（代表者）	・参議院選挙の結果によって、どのように動くかは分からない。参議院選挙の結果次第で景気が良くなったり悪くなったりする。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから、売上は一進一退を繰り返しており、今後に変化があるとは思えない。しばらくは今の状況が続く。
		百貨店（売場主任）	・長期3か月予報によると、7～8月は気温の高い日が続くため、夏物クリアランスの動きが活発になる。その後の初秋物も含めて衣料品の展開に期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・大きく変動するような要因がない。買上客数は好転しているものの、客単価が前年割れしているため、相殺されており、全体的な押上げの力強さに欠ける。
		百貨店（役員）	・景気とは関係ないが、消費税増税を意識した消費者の動向がみられる。例えば、エアコンを買いたい客が、来年は消費税が上がっているため、今買いたいというような問い合わせが続いている。
		スーパー（役員）	・今後、一気に夏らしい天候になれば、来客数が増加し、客の利用率が上昇すると期待しているが、円安の影響やそれにとともに物量が不足してきそうな商品も多く、不安もある。
		スーパー（役員）	・小麦粉や食用油の値上がりが報道されていることに加えて、電気代も9月から値上がりする見込みである。値上がり報道により消費者マインドはなかなか良い方向にいかない。
		コンビニ（エリア担当）	・早朝と夜間の来客数が減少しており、特に21時以降の減少が続いている。また、たばこの減少も続いている。客層をみると、土木関係者の動きが鈍い。
		コンビニ（エリア担当）	・依然として日々の来客数が目に見えて戻っている状況にはない。天候による増減はあるが、基本的にはここ数か月同じような傾向が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	・良くなる要因がない。
		衣料品専門店（店長）	・北海道の場合、これといった良くなる要因が全く見当たらないため、今後も変わらない。
		衣料品専門店（店員）	・来街する一般消費者よりも、昔からの固定客、得意客が多く来店している。
		家電量販店（店員）	・天候が良くなり、気温が上がることで、白物家電がよく売れることを期待している。
		家電量販店（地区統括部長）	・早めの夏到来の影響で季節商材の需要が前倒しであるため、2～3か月後はその反動が若干出てくることが懸念されるが、その一方でテレビの需要が回復傾向にあり、相殺してほぼ横ばいの需要となる。
		乗用車販売店（従業員）	・商用車については、落ち込みがみられないため、今後も変わらない。個人需要の回復については期待を持ちたい。
		乗用車販売店（従業員）	・今が頭打ちの景気とみているため、大体似たり寄ったりの状況で推移する。
		自動車備品販売店（店長）	・円安による燃料費の高騰の影響で車利用が控え目となる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・医薬品のインターネット販売の自由化は当業界にとっては歓迎できない懸案材料である。
高級レストラン（経営者）	・新政権の経済対策による景気回復の動きはまだまだ北海道の末端までは下りてきてはいない。本格的な観光シーズンになれば来客数は増えてくるだろうが、それが景気回復とはつながらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		高級レストラン（スタッフ）	・円安でアジア人観光客は順調のようだが、仕入価格の高騰や参議院選挙を控えて、やや景気高揚感に水を差される格好となっている。	
		スナック（経営者）	・人が出てきていない。	
		旅行代理店（従業員）	・4月来、海外旅行の取扱額は前年割れが続いており、第2四半期においても好転の兆しが見えない。	
		タクシー運転手	・現在の状況から、景気の回復を実感するには、まだまだ時間を要する。販売量、受注量においても極端な上昇を描くような状況にはならない。	
		タクシー運転手	・前年と比べて問い合わせ件数がある程度増えてきているが、今後2～3か月の見積りや問い合わせ件数の状況からみて、あまり変わらない。	
		通信会社（社員）	・抜本的な景気対策を打たない限り変わらない。	
		観光名所（職員）	・政府の示した成長戦略の実現性への疑問や身近なところでの景気回復を実感できないため、今後も変わらない。	
		パチンコ店（役員）	・景気が変わる要因がない。	
		美容室（経営者）	・よほど突発的な状況が起きない限り、今後も同じような動向で推移する。	
		住宅販売会社（経営者）	・株価も為替も踊り場を迎えているため、2～3か月先はまだもみ合いが続く。	
		住宅販売会社（従業員）	・現在の分譲マンション市場は好況が続いており、今後も同程度の好況が継続する。長期金利が多少上昇しても、現金購入客の比率が高いため、影響は小さい。一方、消費税増税前の駆け込み需要が徐々に増えてくるが、供給戸数が増加する可能性は低いため、今後、販売戸数が大幅に伸びる可能性も低い。その結果、当分の間は、現状程度の好況が続く。	
		やや悪くなる	商店街（代表者）	・株価の急激な変動が続いているため、消費マインドが安定しない。
			スーパー（店長）	・景気上向きの実感があまりないことに加えて、7月1日から食料品等の値上げが始まる。今後については、ますます売上が厳しくなる。
			スーパー（企画担当）	・輸入原材料の価格上昇の動きが強まる一方、店頭での価格競争は激しさを増しており、価格転嫁のできる状況ではない。客の購買動向も慎重な姿勢で推移しており、食料品を中心とした買回り品に高額消費や買上点数の増加等はみられない。
その他専門店〔造花〕（店長）	・来客数及び客単価が下落傾向にある。			
悪くなる	○	○		
企業動向関連 (北海道)	良くなる	建設業（従業員）	・建築工事労務者の不足により入札不調が続くなか、工事費見直しや工期延長が受注の条件となり、工事が先送りされる事態が続いている。	
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要に加えて、総体的な景況感の改善により、今後についてはやや良くなる。	
		金属製品製造業（役員）	・民間物件及び官庁物件の発注件数が比較的多くなってきている。	
		建設業（経営者）	・土木、建築ともに、公共工事の発注量がかなり増えている。民間建築については、作業員不足の問題からある程度選別せざるを得ない。今後、採算性、工程の面でかなり厳しい状況になることが懸念される。	
		輸送業（支店長）	・関東圏のプロジェクトが遅れており、そのずれ込みによる動きがみられる。また、製品価格値上げ前の駆け込み需要による大きな物量を期待している。	
		金融業（企画担当）	・観光関連は円安による外国人観光客の増加が見込まれるため、堅調に推移する。住宅投資は消費税増税前の駆け込み需要から着工戸数が増加する。一方、公共工事は最盛期を迎えるが、人手不足で消化不良の恐れがある。	
		コピーサービス業（従業員）	・社会情勢の変化がようやく形になって現れている。	
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・自治体の大型のシステム開発案件が出てきたことによる特需が生じており、継続性のあるものとは言えないが、短期的には上向きとなる。	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・客先の仕事量が7月以降急激に増加するとみられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・政府が立案する成長戦略により変わってくる。
		輸送業（営業担当）	・道内では、6月に入ってから晴天が続いており、農産物の生育遅れが解消傾向にある。
		司法書士	・新政権の経済対策が中小の業界にまで浸透しているのか、あるいは都市間の格差によるものかどうかは今一つ明確でなく、景気回復の実感が無い。
		司法書士	・新政権の経済対策も中央の大企業だけが恩恵を受け、地方の零細企業への効果は当面期待できない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・人手不足がネックになっている取引先が散見される。今後、景気が上向いたとしても、それに対応できる体制が整えられないとの危惧がある。
	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・いくつかの受注案件について、2～3か月後になくなる、又は減るなどの不安定要素の話が出始めている。
		通信業（営業担当）	・新政権の経済対策の効果がまだ具体的に実感できない状況である。一方で、米国の金融緩和に対する出口政策の発動時期の不透明感や中国の景気減速等による企業の慎重姿勢、海外からの旅行者の減少などの影響を受け、この先の道内の景況感は今よりもやや悪くなる。
		司法書士	・消費税増税は予定通りに実施されるであろうが、諸物価の値上げが個人の所得の上昇までには連動せず、建物の新築は今後も増加に向かわない。
	悪くなる	—	—
	雇用 関連 (北海道)	良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）
やや良くなる		人材派遣会社（社員）	・建設や医療関係がけん引しており、求人依頼が増加している。また、改正高齢者雇用安定法の施行により、企業にとっては人件費の負担が大きくなるにもかかわらず、企業からは若い人材の求人が拡大しており、企業が新たな展開を始める予感がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・人手不足感が全業種に広がりを見せており、米国の大手金融機関の破たんのような事態が起きない限り、若干の右肩上がりは続く。
		職業安定所（職員）	・大規模な経済対策の効果で全体的には景気は上昇していくが、円安により企業間、業種間の格差が大きくなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・各大学の就職担当者や就職情報誌などの企業との情報交換でも、ほぼ上向きとの認識で一致している。例えば、企業の店舗数拡充、中途採用数拡充などがみられ、全体的に上向き傾向にある。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・良くも悪くも変化の要因が見当たらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人の動きからは先の景気は読みにくい。この夏の天候や参議院選挙次第である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・現状では下げ圧力は少ないとみられるが、実際の政策の動き次第では、上げにも下げにも変化する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・農作業の繁忙期を迎えるため、派遣を中心とした求人がこれまでどおり期待できる。
		職業安定所（職員）	・就職件数は前年比で13.7%の減少となった。
	職業安定所（職員）	・円安傾向に一服感が出始めており、先行きは不透明である。	
やや悪くなる	—	—	
悪くなる	—	—	

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向	良くなる	コンビニ（店長）	・気温にもよるが、夏期は年間売上のピークなので期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (東北)		タクシー運転手	・病院を中心に営業しているが、病院の看護師は通勤に自分で車を運転してくるのだそうであり、タクシーにとってはマイナスである。また、老人が乗ってくれない。老人はいなくなっており、若い人は自分で運転する。皆が車を買いはじめたり、1家に1、2台の時代になっている。タクシー業界を除き、世の中の景気は良くなるのではないか。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・観光客入込数が増加する季節になるので、「あおもりバル街」や「街コン」といった、商店街、専門店、飲食店が連携をした企画が目白押しである。各小型店、物販、飲食が力を合わせて実施することが今後の景気を左右していく。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ねぶた祭りやお盆で人が集まるので、今よりは良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・客の買物を見ていると、欲しい物、必要な物はもちろんだが、今必要ではないけれども、いいなと思うようなものをプラスして購入していく、プラスワンの買上が多くなっている。今後3か月はこのままの良い状態が続くのではないかと。
		百貨店(企画担当)	・既に高額商品の動きには、来年度からの消費増税前の購入要素もあり、今後、秋には各アイテムで消費者意識が徐々に購買動向に表れてくるとみられる。また、全体的にこの夏の賞与を含めた賃金アップの効果も期待したい。ただし、原材料の価格上昇に伴う、店頭での値上げの動きもあることから、不透明な要素もある。
		コンビニ(経営者)	・工事関係者の減少があり、昼のピークの売上は一服しているが、朝夕の近隣の会社員、主婦層の買物客が増加している。特に、夕方にかけての主婦層の買上点数に増加が見られ、景気好転先取りの明るさが見えている。
		コンビニ(エリア担当)	・ファストフーズや酒類の販売増加により、夕夜間の来客数伸長が見込まれる。
		コンビニ(エリア担当)	・当社も新規出店が増加しているため、全体では売上が見込める。
		衣料品専門店(経営者)	・参議院選挙では自民党が圧勝し、消費税率のアップが決定すると予想している。よって、駆け込み需要により、当面景気は良くなる。
		衣料品専門店(経営者)	・消費税率が上がる前に、買物をしようという感覚が広がると予想する。
		家電量販店(店長)	・一般企業のボーナスの支給額によるが、即決する客が増えてきている。
		家電量販店(店長)	・家電メーカーの新製品などの話題性のあるものが売れている。例えば、ノンフライヤーや布団用掃除機といった話題の商品は価格がやや高くても売れており、入荷待ちの状態である。良い商品はまだまだ売れてくる。また、4Kテレビを始め、単価の高いテレビなども売れてきている。エアコンもしかりである。省エネということがキーワードで、良いものが売れているので、徐々に景気は向上していくと予想している。
		乗用車販売店(経営者)	・エコカー補助金の反動減を新型車効果でカバーできてきた。また、追加で新型車が投入される秋に向かって更に販売増が期待できる。
		乗用車販売店(店長)	・都心に本社を置く一部の法人の間ではアベノミクス効果が表れ始めている。支社のリース車を燃費の良いハイブリッド車に代替する動きも出始めており、地方大都市にも景気上昇の気配が表れ始めている。
		乗用車販売店(店長)	・3か月後は半期決算などがあるため、販売量の増加が見込める。
		自動車備品販売店(経営者)	・取扱項目の一部だけで8月末まで仕事の予定が入っているが、全体とすれば非常にバランスを欠いた内容となっている。その他は前年と比べても異常なほど落ち込んでいる。しかし、予定が入っているものは当社の売上の約50%を占めている。
		住関連専門店(経営者)	・消費者の財布のひもが固い時期とは多少違っている。収入は増えていないのだが、皆がそういう暮らし方に慣れてきており、そんなに財布のひもが固くないようである。多少景気は良くなっていくのではないかと。
		その他専門店〔パソコン〕(経営者)	・消費増税前にとこの動きが出てきているため、その影響で市場の動きが幾分活発になると予想される。よって、今までよりは売上が良くなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・6月に入り、衣料品の売上高が伸びてきている。
		高級レストラン(経営者)	・すべてのことが良い方向に向いているようなので、期待も込めて良くなるのではないかと考えている。
		一般レストラン(経営者)	・アベノミクスの影響や夏の大型イベントがあるので、落ち込むことはなく引き続き良くなる。
		スナック(経営者)	・ボーナス時期に入ってくるので、多少は個人の消費も増えるのではないかと。多少でも売上が伸びることを期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・これから暑くなってきて、夏祭りの準備や夏休み等、いろいろな客が来るようになれば、街全体、県全体に活気が出てくる。もちろん、売上も増えていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・「八重の桜」効果及び夏休みを利用しての観光客の増加などで良くなる。
		テーマパーク（職員）	・レジャー施設なので、夏休みのハイシーズンを迎えることと9月の2週連続の3連休に期待している。
		観光名所（職員）	・客が手に取って見ている商品が、これまでよりもワンランク上の商品となっているので、景気もやや良くなるのではないかとみられる。
		美容室（経営者）	・これから汗をかく季節になると、矯正パーマをかける客が増えてくる。また、夏に向けてエステをする方も多くなり、今後、美容業界は来客数が増え、景気が上向き傾向になっていく。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税前の駆け込み需要が止まらない。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・受付件数を増やす取り組みを強めていく。
変わらない		商店街（代表者）	・予約状況からみても、選挙が終わってもしばらくは消費マインドは上向かない。
		商店街（代表者）	・企業収益が上がり労働者の収入が増加していくのは来年になりそうである。現在、日用品が値上がりしているため、このままでは買い控えが起こってくる可能性があり、それが非常に心配である。
		商店街（代表者）	・シャッターの下りていたところが開き、気分的にも活気が出てきている。しかし、商店、商品によっては徐々に仕入れ価格の高騰が出ているようで、今後が心配される。
		商店街（代表者）	・参議院選挙期間中は飲食店を中心に不活発になる傾向がある。当面個人消費が拡大する兆候はなく、あまり期待できない。
		百貨店（売場主任）	・消費税増税の前には一時的な動きがあるが、実生活で景気の回復がうかがえるようになるのはまだ先である。
		百貨店（総務担当）	・地方においては首都圏の景況感が遅れて来るため、夏のボーナスが出た後に我々の商売にどれだけ消費が向かってくるかという部分で、まだ先が読めない。高額品等一部の商品については良い数字が見られるものの、一部に限られており、全体としては景気が良くなっているとは判断できない。
		百貨店（営業担当）	・長期予報では残暑が厳しくなるとの予報であり、秋物の立ち上がりにはやや不安があるものの、全体の基調は変わらず現状を維持するとみられる。
		百貨店（買付担当）	・夏のボーナスが一部増えるという明るいニュースもあるが、個人消費については、まだまだ慎重な見方が強い。
		百貨店（経営者）	・地元の求人倍率に改善は見られるものの、業種が限られており、新たな地場発の産業が増えるという状況にはない。依然として地域経済を活性化する要素に乏しい状況である。
		百貨店（売場担当）	・9月、10月は残暑、天候に大きく影響を受ける月である。一般の婦人プレタやハイグレードブランドではない一般の婦人服では、アベノミクスの効果は全くみられず、客の買い方は相変わらずシビアであることから、大きな伸びは期待できない。
		百貨店（経営者）	・夏季賞与が前年を上回って支給される企業が多いとの報道があり期待しているが、株価下落に伴い一気に売上が止まった。株価の上昇を再度期待したい。
		百貨店（経営者）	・アベノミクスでの景気浮揚を期待したが、ドル円相場は90円台後半へ逆戻りし、日銀の追加対応も見られない。第三の矢の内容を見ると、即効性のある経済対策は期待できない。中国の混乱やマネー市場の巻き戻しの懸念もあり、良くて現状維持である。消費税増税が決まれば、一時的に駆け込み需要は期待できるが、来年に向けて景気悪化が懸念される。
		スーパー（経営者）	・夏のボーナスに期待したいが、全体的には微増とみている。
		スーパー（経営者）	・7月は食料品等の値上げ、電気・ガス料金の値上げ、公務員の減給、求人倍率は上がっても雇用のミスマッチが続き、消費者の可処分所得は増える傾向にない。株価と為替相場の大きな振幅もあり、客に買い控え心理が働いていないかと危惧している。景気回復を願ってはいるが、選挙もあり、今後の経済政策や各企業投資の執行水準・状況を見極めているようにも見える。消費はしばらく現在の傾向で変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・食料品を始め各方面の値上げが相次いでいるが、所得は上がらない。節約志向に拍車がかかっているようである。そんななか、まだまだ価格競争はとどまるところを知らない。価格競争か、価格競争を避けて進むか、企業の方向性が問われるところに差し掛かっている。
		スーパー（店長）	・商圈内の競合店状況は変わらず、商圈人口の増加も見込めないなか、食品スーパーでの景況感の見通しは変わらない。
		スーパー（店長）	・今後、円安による輸入原料の値上がりや電気料金の昼の時間帯の値上げ、さらに8月は食用油やマヨネーズなど油脂類の値上げが予定されている。この様な状況のなか、消費がすぐに回復するとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・競合の状況が変わらないので、現状と変わらない。
		スーパー（店長）	・行楽シーズンになるが、円安の傾向が続くことで、買い控えや、旅行も近くて安いところを選ぶのは変わらない。ボーナス満額での回答が大手企業で出ているのでモチベーションとしては高いが、実際はそんなに変わらない。
		スーパー（物流担当）	・経済状況により一部製造業の業績が上向いているとの情報はあるものの、具体的に所得が上らない限り、消費者の購買意欲は上がってこない。
		コンビニ（経営者）	・来客数がなかなか安定しないので、あまり変わらない。
		コンビニ（経営者）	・コンビニエンスストアを取り巻く環境が、今や安売り合戦になっており、売上の現状維持も難しくなっている。
		コンビニ（エリア担当）	・競争環境変化が一巡するまで、現在の状況は続くことが予測される。
		コンビニ（エリア担当）	・アベノミクス効果が少しずつ消費者まで波及しつつあるものの、まだ具体的な客単価上昇につながっていない。
		コンビニ（エリア担当）	・気候が温かいうちは大きな変化は無いとみられる。
		コンビニ（店長）	・連休明けの景気の悪さは、6月の中旬を越えて落ち着きが見られつつあるので、一応底は打ったとみている。しかし、上がるような要因も無いため、客単価が下がった状態は今後も続くとみられる。
		コンビニ（店長）	・アベノミクスに伴う効果というのは、地方都市ではまだ見られない。低価格志向が強いことから、客の賃金が上がっているとは思えないので変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・参議院選挙に向けて商売は芳しくなくなり、購買力が落ちる。選挙後の国政には、景気回復及び地方が元気になる政策を期待する。
		衣料品専門店（店長）	・一時的に世の中の景気マインドに押されて商品を購入していた消費者も、ボーナス支給を通して現実を直視し、高単価商品の動きが鈍くなっている。そのような傾向はしばらく続くと予想される。
		衣料品専門店（店長）	・夏物ビジネス用品の動きが悪い。また、スーツの販売数が低迷している。
		衣料品専門店（総務担当）	・来年の消費税増税を控え、額の大きな買物については増税前の購買活動が良くなると考えられるが、その他はそれほど変わらないとみられる。
		家電量販店（店長）	・アベノミクスによる日経平均株価が乱高下しているなかでは、先行きはほぼ不透明に近い。消費税増税が近づくにつれて駆け込み需要は若干あるものの、その後の消費マインドのマイナスは否めない。
		乗用車販売店（経営者）	・新型エコカーの受注販売は順調に推移するとみているが、全体の需要としては、昨年のエコカー補助金の反動減で約20%前後の前年割れが当面続くものと考えている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車効果があと2、3か月は続くと予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・半年前、3か月前と比べても、依然、客の動きは変わっていないため、今後3か月で何かが変わるとは考えにくい。
		住関連専門店（経営者）	・来年3月までは消費税増税前の駆け込み需要が出ると予想される。
		住関連専門店（経営者）	・現状からみて、耐久消費財の消費意欲というのは損なわれていないようである。また、消費税増税が来年4月に本当に実施されるのかどうかもここにきて不透明になっているので、もし値上げとなったときには、また、耐久消費財の方にも目が向いてくると思うが、現状では買い控えが見られる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・天候にも大きく左右されるが、このまま不安定な経済状況が続けば、あまり良くなることは期待できない。逆に、経済が悪化するようなことがあれば、消費者の購買意欲に歯止めが掛かるのではないかとこの恐怖感の方が大きい。繁忙期なので売上が大きく落ちることはないが、大きく良くなることもない。
		その他専門店〔靴〕 (従業員)	・メーカーからの値上げ要求は多いが、簡単には売価に反映できない。
		その他専門店〔酒〕 (営業担当)	・国政や地元での選挙が続くが、現在の状況が低調なので大きくは変わらない。地元以外、特に首都圏などの都市部での商売が増えているので、だんだんと地元が低調の影響は少なくなっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・収束を見せていない原発事故の影響が続いている限り、本格的な景気回復は望めない。震災直後の混乱は癒されてきているが、本質的な不安はぬぐい去れない状況が続いている。当面は心理的な不安が続くため、復興はまだまだ道が遠く、このままの水準が続く。
		一般レストラン (経営者)	・当店の客を見ていると、建築に携わる業種は忙しいようだが、その他の業種で忙しい様子は見られない。飲食業も静かな雰囲気はずっと続いている。
		一般レストラン (経営者)	・為替の動きからすると、地域への影響は落ち着いているが、農産物の収穫時期が遅れてしまっているため、景気のバランスが取れていない。
		観光型ホテル (経営者)	・今夏は安近短になるのか、予約の発生が遅く、現在の入込状況はどの月も前年比多少マイナスである。
		観光型旅館 (経営者)	・特段に変化が起きる兆しはない。
		都市型ホテル (スタッフ)	・消費者のマインドは格段に良くなっているが、参議院選挙が終わった後、どういう行動に出てくるのか非常に重要である。政策実行により景気回復を実感できるようになれば、地方でホテル業を営む会社にとってもプラスの面が出てくる。その時のために、消費者のニーズにいかに対応されるか、そういった商品をラインアップする必要がある。
		旅行代理店 (経営者)	・個人旅行の先行契約、団体の先行契約のいずれの動きを見ても、今の状況から急激に回復することはない。ここしばらくは変わらないで推移する。
		旅行代理店 (店長)	・2～3か月では、選挙でよほどのことが無い限り景気動向は変わらない。冬のボーナスで公務員への支給額が増額となれば、個人消費の伸びも期待できる。
		旅行代理店 (従業員)	・先行受注の動きを見ても、変わらないとみられる。
		タクシー運転手	・客からは仕事を求めている話をまだよく聞く。短期雇用しかなく、安定した長期の仕事がないために、就職できずにいるようである。仕事が思うようにならないのでは、景気が良くなることは考えられない。
		通信会社 (営業担当)	・これからボーナス商戦が始まるのでそこに期待はあるが、ボーナスそのものが下がっているため、期待はしているものの結果がどうなるか楽しみにしている。
		通信会社 (営業担当)	・物価が上昇しており、先行きが不安である。
		通信会社 (営業担当)	・現状が変わるような材料に乏しい。
		通信会社 (営業担当)	・一般世帯の収入が伸びていると実感するまでは、消費底上げとはならない。
		通信会社 (営業担当)	・商品の値下げや品質向上による新規加入者の増加を期待したが、予想に反して全く増えていない。新サービスが8月にスタートするので若干の期待値を入れても変化は無いと予想している。
		通信会社 (営業担当)	・アベノミクスがもてはやされているが、効果が地方へ波及するまでには少し時間が掛かるのではないかと。
		観光名所 (職員)	・夏休みは繁忙期であるため、イベント等を開催し誘客を図るが、今の状況をみると厳しい。
		遊園地 (経営者)	・夏の気温や物価の動向が心配されるが、お盆のカレンダーまわりが良いことから、前年並みキープを期待している。
		競艇場 (職員)	・当社のような娯楽施設では、お金の使用を控えている方がまだ多い。2、3か月先もあまり変化は無い。
		美容室 (経営者)	・ここ半年の人の流れからすると、現在の状態が一気に変わるということは考えづらいので、横ばいが続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・先は相変わらず見えないが、短期的には今の状況のままいくのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・当店の主たる客層は、経済的にやや余裕がある年配層である。この客層は年金で暮らしている人が多く、消費税増税、又は円安による物価高がくれば、固定収入以上に支出が増える可能性が高く、出費を削り生活防衛に動くだろう。そうでなくても、物価高になるだろうというマスコミの予測報道ですら心理的影響があり、現実的にマイナス影響があると考えられる。より若年の勤労世代は、健康や医療に自費をかけるという発想がそもそも乏しく、収入が増えても当店へのプラス影響は期待できない。
		スーパー (総務担当)	・来客数の落ち込みが激しくなっている。また、品目別では花、ベーカリー、米の売上が大きく落ち込んでいる。必要なもの以外は買わないという買物傾向が定着したようである。
		その他専門店〔食品〕 (経営者)	・景気回復という言葉だけが一人歩きし、実感がわかないことが継続するのではないかと。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕 (営業担当)	・世間的には景気が回復しつつあるようなニュースを見聞きするが、現実にはまだまだ実感できるものはない。消費の動向がこれからどのように動くのか全く読めず、果たして売上を維持できるのか不安である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・物が売れずに安売り合戦が始まっている。また、石油及び住宅設備関係共に酷い状況である。こういった市場環境の悪化により、数量、単価共に激減している。
		高級レストラン (支配人)	・参議院選挙で自民党が圧勝し、ねじれが解消されても、アドバンテージは大企業に集中し、格差は拡大していくだろう。ホテルの利用も来客数では減少するものとみている。
		高級レストラン (支配人)	・景気上昇が期待ほど伸びず、必要品のみ購入におさまり、娯楽・遊興用途の費用が縮小すると予想される。夏場の財布のひもは固くなるのではないかと。
		一般レストラン (経営者)	・日経平均株価のダウンを見ていても、3か月後は参議院選挙も終わっていることを考えても、景気は下向くのではないかとみている。
		一般レストラン (経営者)	・現実的どころが見えてきて、ぜいたくはしない方がいいのではないかとという雰囲気に戻ってしまうのではないかと。給料が増えるとか、確実に景気が前進しているというのが具体的にわかってくれば別だが、何となく息切れしてしまうような雰囲気があり、少し悪くなるのではないかとみている。
		観光型ホテル (スタッフ)	・選挙が近づくと必ずといっていいほど来客数が少なくなる。また、デスティネーションキャンペーンが終わるといいうこともあり、予約状況がかなり悪くなっている。やはり、秋以降のシーズンまでは本格的な復活は期待が持てない。
		観光型旅館 (スタッフ)	・先付けで団体ツアーの予約が入っているが、不確定要素が大きすぎる。また、その不確定な団体ばかりで客室を多く押さえており、他の個人旅行や団体旅行の予約を受付することができない状態である。非常に大きな問題を抱えている。
		都市型ホテル (スタッフ)	・宿泊部門は海水浴や花火大会等、ファミリー客に期待するも、週末以外はお盆期間も空室が目立つ。レストランは例年帰省客である程度の集客は見込めるが、宴会部門の予約状況にも目立った動きはない。
		都市型ホテル (スタッフ)	・震災被災地復興支援の人の動き、イベント開催等、2年間にわたり特需が続いていた。しかし、来月以降は会合等が少なくなり、客の予約も減り始めている。
		タクシー運転手	・公共料金及び食料関係の価格上昇があるということで、消費者の警戒心が非常に強くなっており、乗客の数も減っている。
		通信会社 (営業担当)	・円安で苦しむ企業が3か月後、危なくなるのではないかと懸念もあり、雇用の不安定が続くと考えられるため悪くなる。
悪くなる		商店街 (代表者)	・アベノミクスの効果は全くうかがえない。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・一般の中小企業ではボーナスのボの字も聞こえてこない。この状態では消費は伸びない。
		一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・現状も悪くなっているし、例年通りだとしても8、9月は売上が伸びず厳しい状態になる。
		スーパー (経営者)	・アベノミクスの効果は依然実体経済には反映されておらず、消費者の部分では手取り、また給与等における上昇が見られない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・春から比べると来客数が減っているのので、これから夏に向けても厳しくなることが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（店長）	・震災後にスーツを作られた方は買換えの周期にも入っていない状況なので、秋物が動くまで、あるいは震災特需の一巡があるまで、厳しい状況が続くとみられる。買換えのサイクルが、前年、前々年に集中してしまったのではないかと思えるほど、スーツやフォーマルといった重衣料が苦戦している。
企業 動向 関連 (東北)	良くなる	建設業（従業員）	・この先2、3か月後には、現在出件中の案件や近々発注される官庁発注の大型案件の受注が確定してくる。
	やや良くなる	食料品製造業（総務担当）	・政府の対策により個人消費は上向くと考えられる。
		繊維工業（経営者）	・円安、株高、政治の安定が続き、景気が良くなることを期待したい。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年これから2、3か月後は売上が伸びる傾向にある。また、民間や役所等からの発注量が増える時期にもなる。
		土石製品製造販売（従業員）	・前年に比べても、取引先の景気も良くなり、人員削減もなくなってきた。賞与、給与と少しずつ上がってきていることから、景気は回復していることがうかがえる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品については、国内向けの生産は減少するものの、輸出環境は為替、数量共に改善が期待できる。
		輸送業（経営者）	・荷主の操業度が増えることを予想している。
		通信業（営業担当）	・政府の経済へのテコ入れ方針は変わってないので、良くなると期待している。
		広告代理店（経営者）	・現在、会社案内等をリニューアルする案件が増えているなど、広告費に予算が回り出している。広告費に予算が付くということは、今後の販促に期待が持てる。
		広告代理店（経営者）	・受注の総量が前年を上回っている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・加工食品の卸売業というのは、景気に左右されるような売行きは望めない。ただ、気候が良いとか、安心感が持てるようになったとか、そういったことが出てくれば、販売に結び付いていく。
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・新規求人数が前年同月比で増加し、新規求職者数が減少する傾向はこれからも続くともみられ、有効求人倍率は過去最高水準で推移する。	
	変わらない	農林水産業（従業者）	・6月は天気も良かったので、果樹は成長の遅れをばん回し、ももは前年より5日くらい早目の収穫になるだろうと自営の関係者が言っている。そして、風評被害も大分少なくなり、販売単価も上がると期待している。
		食料品製造業（経営者）	・牛タン人気が続いているので、中元セール、七夕、お盆と、例年以上に期待が持てるシーズンになりそうである。
		食料品製造業（経営者）	・為替、株価の状況を見ても不安定である。景気が本当に良くなるのかわからない。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅の需要は2、3か月、現状程度に順調に推移する。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・株式市場が安定しないと消費マインドが冷え、広告用のチラシ、印刷物が減少し、結果的に景気は悪くなっていきそうである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・大手企業が良くなるということは、その陰で中小企業への非常に大きなコストダウン要求が来ていて、場合によっては赤字を出してでも対応している状況が今もある。よって、中小企業の景気は現状と変わらない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・景気が上向く、又は悪くなるという、それぞれの要因が共に見当たらない。年末商戦ごろまでは変化が無いとみている。
建設業（経営者）		・物価の上昇や技術者不足が心配である。	
建設業（企画担当）		・生コン出荷制限等による資材不足、技術者・労務者不足による建設コスト高騰等、今後の影響が懸念される。	
輸送業（従業員）		・市場に好転判断材料が乏しい。	
通信業（営業担当）	・見通しが明るくなる要因はないため、予断を許さない状況である。		
通信業（営業担当）	・景気対策が末端まで響くには時間が掛かる。		
金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は無い。		
金融業（広報担当）	・円安による原材料高が続く。		
司法書士	・当初の予想より消費税増税の駆け込み需要による住宅取得が増えていない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	<ul style="list-style-type: none"> ・建設関係の一部の会社は引き続き業績が上昇しているが、他の小売業等は売上が前年比で減少しており、しばらくは現状維持が続くとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コピーサービス業（経営者）	・我々の業界の景気が良くなるまでには時間が掛かりそうである。復興需要等も土木関連の業種が多少潤っているだけであり、我々は建築関連の動きが良くならないと景気が良くならない。現在のような状況はまだ続く。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・地場の工務店は震災関連の需要に満杯だが、工賃や材料費の値上がりから利益が期待したほど上がらない。また、供給量に限度があるため数で確保することも難しい。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・トラック便の減便等での効率化による経費節約が始まったが、状況が一気に好転するような状況にはない。
		金属工業協同組合（職員）	・依然として、良い材料は見当たらない。円安の影響からか材料価格が上昇気味である。また、特殊材が入りにくくなっている。アベノミクス効果はない。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・今後も肥料価格や燃料価格の上昇が懸念される。
		食料品製造業（総務担当）	・相変わらず月間売上が前年を下回る月が続いている。さらに、円安による輸入材料の高騰も見込まれる。
		広告業協会（役員）	・復興需要も一段落し、今後も大型イベントなども少ないことから、広告出稿は少なくなってきた。地方自治体の復興予算をどのような形で広報予算に回せるか、各社は知恵を出し合っている。
		経営コンサルタント	・参議院選挙までは様子見が続く。
	悪くなる	—	—
	雇用 関連 (東北)	良くなる	○
やや良くなる		人材派遣会社（社員）	・通信系企業の派遣事業を2か月後に譲受することから、業容改善が図られ、やや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当県の場合、参議院選挙を始め、市長選挙、知事選挙が相次ぎ、落ち着きを取り戻すのは11月ごろからになると予想される。ただ、その後は復興が加速することが期待され、被災地も新しい段階に入るとみられる。その結果、やや上向きになるのではないかと期待されている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・候補者数に対する選挙関連広告の期待も込めて、やや良くなるかとみている。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・求人に対して人の供給が追いついていない。人数はいても、求職者は一過性のものか長期なのかに注目しており、今一時のニーズには反応しない。将来性の無いものに賭けるほどではない雰囲気なので、潜在的な求職者も現状を離脱せず、こう着状態になっている。
		人材派遣会社（社員）	・引き続き、景気はやや良い状況が続くとみられる。新卒採用において、大学3年生に向けた採用を意識したインターンシップを行う企業が例年に比べると2、3倍に増えていることにも着目している。
		人材派遣会社（社員）	・経済対策の効果の地方波及時期が見えない。求職者確保での好材料も無い。
		アウトソーシング企業（社員）	・現在自治体からの受注が多いので、大きな変動はないとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業の採用に関しては、来年4月の消費税増税も予定されており、慎重姿勢が続く。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で増加し、新規求職者数が減少する傾向はこれからも続くと思われる、有効求人倍率は過去最高水準で推移する。
		職業安定所（職員）	・建設や輸出品を製造している企業では景況感が向上しているものの、輸入価格の高騰の影響を受ける企業では悪化している。
		職業安定所（職員）	・製造業の雇用マインドに強さが感じられず、一部小売業で新店舗開設による募集はあるものの、企業ごとに温度差があり、全体的な活況感が今のところ薄い。
		職業安定所（職員）	・有効求人数はここ1年くらいほぼ同数で推移している。また、7月中旬までに40名前後の希望退職を募っている事業所があるという先行き不安な材料もある。
	職業安定所（職員）	・景気回復の兆しはみられるが、これが継続するのか一過性のものかは、今現在は判断が付きかねる。	
職業安定所（職員）	・求人数の動きは変わらず高水準で推移している。特段求人が増加、減少する要因は見られず、このままで推移する。		
民間職業紹介機関（職員）	・相変わらず、震災復興、福祉・介護、運送といった業種の求人は多く、製造業の求人は皆無に近い。求人職種に偏りがある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・アベノミクスに期待を持っていても、その効果がいつまでも感じられなければ、消費を控えるようになることが予想される。
		職業安定所（職員）	・新規求人数も高水準ではあるが落ち着きを見せており、今後、大幅に増加する要因は見当たらない。企業整備による求職者の増加もあり有効求人倍率も若干低下するとみられることから、状況は下向き傾向と考えられる。
		職業安定所（職員）	・事業縮小により6月末以降に退職が予定されている企業があり、求職者の増加が見込まれる。
	悪くなる	—	—

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・たばこやカウンターのファーストフード、飲料といった当店の売上をけん引する商材が非常に良く売れている。また、7～9月と最大の山場がやってくるので、売れ筋の在庫をしっかりと持ち、好調を更に維持していきたい。
		コンビニ（経営者）	・気温の上昇とともにドリンク系の販売が増えることと、夏に向かってイベントが増えていくことで来客数や販売量も上がっていく。
		乗用車販売店（統括）	・新型車が数種類発売されるため、良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・8月は家族旅行のハイシーズンとなるため、良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・客の省エネ商品への関心が非常に高まっているので、エアコン等、夏物商材への期待ができる。
		百貨店（店長）	・売上が連続して上向いている。
		百貨店（店長）	・ボーナス支給額が増加しており、ポイント2倍のセール時に来客数が徐々に増加している。
		スーパー（統括）	・直近3か月の売上、来客数の動向や、夏の賞与は前年を上回るレベルとの報道などから、お中元セールやお盆商戦での消費マインド改善が期待できる。
		スーパー（商品部担当）	・株価の変動や景気動向に上向き感が見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・来客数が少しずつ増えてきており、客単価もやや上がってきているので、今後いくらかは良くなる。
		コンビニ（経営者）	・7、8月は売上が一番伸びる季節なので期待しているが、競合店が出店してくるというマイナス材料もあり、それを考慮した上で、若干伸びるかと期待感を持っている。
		衣料品専門店（統括）	・これから夏から秋にかけて、納涼祭、秋祭り等の行事が沢山あり、年間を通じて、売上が大体安定する時期である。特に祭り関係で、客となる若い人たちの消費が増える時期でもある。
		家電量販店（店長）	・エアコンの販売が順調に伸びている。節電の意識からか、省エネタイプを購入する客が多くなっている。また、扇風機も省エネ性能の高いDCモーター搭載モデルの動きが良い。梅雨明け本番以降に期待が持てる。
		乗用車販売店（店長）	・消費税増税前に購入を考える客が増える。
		住関連専門店（経営者）	・当社が参加する商業団体、工業団体でも、具体的かつ前向きに設備投資を考えている経営者が増加してきている。銀行等の姿勢も積極さが際立つようになり、経済の大きな動きを感じるようになってきている。
		スナック（経営者）	・少しずつでも全体のお金の流れが改善していってくれば良いと思う。皆が期待感を持っているように思うので、良くなり始めれば一気にいくのではないかと。
		スナック（経営者）	・毎年7～8月は6月よりもプラスになるので期待が大きい。ただし、今年は参議院選挙があるので不安も残る。
		観光型ホテル（営業担当）	・7月中旬以降からの宿泊予約は堅調である。夏が暑いと避暑のために客数も伸びる傾向となるため、暑い夏に期待している。
		都市型ホテル（支配人）	・県の観光物産課や商工会議所を中心に、夏の海水浴客、行楽客の誘致を図っているため、例年の夏よりは集客できるかと期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（営業担当）	・3か月後くらいから年末に向けては毎年客の流れが良くなる傾向があるので期待したい。また、3か月前に比べ全体が少し良くなってきているので、この先3か月も同じように期待したい。
		旅行代理店（営業担当）	・夏から秋にかけて、旅行の申込が増えている。
		遊園地（職員）	・富士山の世界遺産登録が正式に決定し、今後は来客数の増加が見込まれる。
		ゴルフ場（業務担当）	・6月は用品等の売上が若干鈍っていた関係上、入場者を確保できて単価が上昇しなかった。安いプランを出して入場者を確保したからでもある。7月については、前年を上回る入場者の取り込みに成功しており、以後8月についてもそれなりの取り込みができるのではないかと期待している。売上も伴えば良いのだが、まず入場者の確保に全力を挙げているところである。先行きは今のところ明るい兆しも見えつつあるという印象である。
		住宅販売会社（従業員）	・契約は好調だが、技術者、施工業者の不足は深刻な状況である。ただし、これまで設計担当者の採用が難しかったところ、6月に2名採用の目途が立ったことを考えると少し状況が改善されているようである。
	変わらない	商店街（代表者）	・悪いままで変わらない。休日、大型店にはやはり大勢の人が入っている。この先、路面店は商売がますます苦しくなる。5月も1軒が店を閉めた。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・参議院選挙後に動きがやや良くなるのではないかと期待しているが、7月に入って物が値上がりする影響が出て来るのではないかと思うので、総じて変わらない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・現状に慣れてきたのか、消費税がらみの買い急ぎはない。徐々に商品が値上がり傾向になっていく中で消費者の購入意欲が出てくることを期待したい。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・来月大企業の吸収合併がある。かなりのリストラもされているので、その結果がどうなるか次第である。下請などが今までのように潤っていけば景気は上向きだが、下請が切られたりする状態だと、当地域の景気はかなり落ち込む。
		百貨店（販売促進担当）	・一部高額品の動きがあっても、食品等、最寄り品の売上は依然低調である。数か月では一般消費者の可処分所得の増加は見込めず、消費行動の改善には至らない。
		百貨店（販売促進担当）	・中元商戦は年々縮小傾向にあり、期待はできない。一方、今夏のクリアランスは日的にやや前倒しになる見込みから、売上げが期待できる。しかし7月の需要を先取りすることにもつながるため、先が読めない状況である。
		百貨店（店長）	・消費動向という観点からは7月の参議院選挙がマイナスに働くという不安はあるものの、消費マインドは今月同様、さほど下がらないように思う。
		スーパー（店長）	・マスコミ等で報道されているように、メーカーから食品の価格改定の打診が来ている。競争があるため、店では仕入価格が上がってもすぐには対応しないため、売上が変わらなくても、利益はどんどん下がる。
		スーパー（店長）	・曜日ごとの来客数が数か月間ほとんど変わらない。
		スーパー（総務担当）	・この先も変わらず、所得の上昇が実感は無い上に、来年の消費税増税があるので、それほど財布のひもも緩まない。
		コンビニ（経営者）	・どんなに美味しくても珍しいものでもすぐ飽きるからである。
		コンビニ（店長）	・町の中、周囲では悪くなる予想ばかりである。せめて変わらないことを願っている。
		家電量販店（営業担当）	・大きなイベントがないと家電商品の動きは厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクスの施策が地に足が着いておらず、今のところ内需拡大による实体经济の回復に結び付いていないといった面で危うさを感じられることが心配である。地方銀行の支店長との会話の中でも同じような意見が出ている。
		乗用車販売店（経営者）	・地元自治体の大規模公共事業がいくつか予定されているが、それがどの程度景気上昇に貢献するかは不透明である。
乗用車販売店（営業担当）	・新車購入はディーラー志向が強く、中古車中心でオールマイティに販売を目指している当社のような子会社は今後不安要素が一杯である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・これから3か月後は売れる要素の車が出ないことや、客があちこち他の車も見て回っている状況なので、よほどのことがないと変わらない。9月からはおそらく消費税対策で売れるのではないかと思うが、まだ分からない。
		乗用車販売店（販売担当）	・我々は観光地を後ろに控えての商売である。何年か前の福島第一原子力発電所の風評被害もあるが、そのあとまた当地域でも地震があり、付近のホテルや民宿が廃業、休業に追い込まれており、観光地として厳しくなっている。今のところ、今後もそんなに良くなるような状況にはない。確かに多少は良くなってる地域もあるが、地震のあった付近は全くといっていいほどだめなので、ここ2～3か月良くなるということはない。
		自動車備品販売店（経営者）	・今のところ先が全く読めない。
		住関連専門店（仕入担当）	・消費者は漠然とした不安要素を抱えているため、客単価の向上や買上点数の変化は見られず、低いレベルで安定してしまっている。
		高級レストラン（店長）	・多くの人の所得が実際に増えるまではあまり変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・仕入原価の高騰を考えると多少の不安はあるが、今のままの状態が続く。
		一般レストラン（経営者）	・同業者や他の業者の話を聞いても、なかなか大幅に良くなるという要素はなく、まだ景気回復の実感はない。しばらくはこのまま変わらない状況が続く。
		一般レストラン（経営者）	・7月は参議院選挙の影響で来客数が減る。夏休みに期待するしかない。
		一般レストラン（経営者）	・飲食に関して、地方は大手スーパーやフランチャイズ店の時代になってきており、一般の飲食店は減る一方である。その大型店も本当に成り立つのか不思議なくらい消費の動きであり、景気回復が一般飲食店にも反映されるには相当の工夫が必要である。
		スナック（経営者）	・今回はすべて変わらないと回答したが、これ以上悪くならないという意味である。ちまたではアベノミクスと騒いでいるが、なかなか末端までは届かず、本当に良くない状態である。
		観光型旅館（経営者）	・旅館業は周りの景気が良くなってしばらくしてから客が増える傾向がある。現状ではまだ来客数が増えていない。むしろ、少し景気が上向いて残業や休日出勤が増えると来客が減る傾向にある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・飲食業では7～9月は売上が落ちる時期であり、7月に入ると参議院選挙もあるので、しばらくの間はこのままで変わらない。暮れになるまでは厳しい。
		旅行代理店（所長）	・夏の予約動向も今のところ鈍く、当然ながら、秋口の動きは更に厳しいと感じられる。
		旅行代理店（副支店長）	・景気回復と言われているが、地方にはまだその兆候がない。夏から秋に向けての受注も前年同時期のほぼ横ばい状態で、回復兆候とはいえない。為替の安定も不安材料の一つと考えられる。
		タクシー運転手	・同業者が増えたのでしばらくは状況は変わらない。
		タクシー（経営者）	・人の動きが悪いので、この先も変わらない。
		通信会社（経営者）	・地方では高齢化が進む一方で、購買意欲もたかが知れている。高齢者支援も大切だが、子育て世代の支援をもっとしないと政策による一時的な景気回復にしかないのではないかと。子供が増えない限り、景気の安定上昇はないと思われる。
		通信会社（経営者）	・今のところ客の反応が鈍く、上向き要素がない。
		通信会社（営業担当）	・景気は回復傾向にあるものの、個人の給与にはボーナス以外なかなかすぐには反映されないため、しばらくの間は小康状態が続くように思われる。
		通信会社（局長）	・参議院選挙のねじれ解消等の結果にもよるが、現時点では不透明な要素が多い。
		通信会社（総務担当）	・アベノミクスによる経済効果も一部企業にとってはプラスかもしれないが、中小企業ではその影響は薄く、今後もあまり期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・天候不順が続き、夏場にも影響が出ると見込まれるので、現状維持が現実的と思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		ゴルフ場（支配人）	・予約は例年より順調に入っている。大型コンペはないものの、プライベートの年配者の予約が多くなっている。	
		競輪場（職員）	・他場の記念競輪の売上もほぼ同額で推移しているからである。	
		美容室（経営者）	・梅雨が長引けば来客数が減少し、売上も増加にもっていきことができなくなる。夏休みに向かって気温が上がれば髪の毛をカットする人が多くなり、来客数は増加するが、単価上昇につながるとは思えない。	
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・予約状況を見ても、来客数、単価、売上等の予測を見ても横ばいで変わらない。	
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・景気の動向も、まだ不安定である。	
		設計事務所（経営者）	・今後の依頼もある程度ある。	
		設計事務所（所長）	・変化は特にないと思うが、今月動き出した物件がうまく軌道に乗って受注につながってくればよいと思っている。	
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税まで1年を切り、別荘などの住宅関連ではそろそろ駆け込み需要が出始めるのではと予想される。	
		住宅販売会社（経営者）	・不動産を購入しようという消費者の意欲はまだ低く、本当に安い値段の物件ならば関心を示してくれるが、一般的な時価相場の物件には見向きもしない。また、銀行の融資等も表面上は当たりが良いが、実際はまだ融資姿勢が厳しい。	
		やや悪くなる	商店街（代表者）	・当店は学校主体の販売のため、7月の半ば過ぎに学校が休みに入ると暇になる。
			商店街（代表者）	・マスコミ報道では景気が上向きとなっているが、末端の景気は上向いていないと感じている。客の財布のひもは緩んでいない。
			一般小売店〔乳業〕（経営者）	・良くなる要因は今のところ見当たらない。
			コンビニ（経営者）	・収入増の前に支出増に先に直面し、家計が圧迫されそうである。
			衣料品専門店（販売担当）	・今月から来月にかけて夏のボーナスという大きな売上につながる要素はあるが、残念ながら客の気配から感じ取れるほど良くなりそうな雰囲気はない。逆に、このままいろいろな分野で値上げが広がっていくと、また買い控えということにもつながり、お中元の時期や参議院選挙といった非日常的な要素もからんで来るので、夏場ということも含め、今後2～3か月は悪くなっていく要素のほうが多いという印象である。
乗用車販売店（経営者）	・新型車の発売が9月になるため、10月以降でないと販売の増加が見込めない。			
乗用車販売店（従業員）	・客からの受注がコンパクトカー中心になっているため、収益面では減少となっている。			
住関連専門店（店長）	・前月と同様、来客数の減少が主な要因である。また、円安により、輸入品の利益確保が難しくなっている。			
美容室（経営者）	・1か月前まで、「ちょっと景気が良くなるのかな？」と言っていた客が、「周りの話を聞いてそう思っていた、実際には4月の給料も上がらず、何の根拠もなく言っていた」と話していた。現実には手元に余裕のあるお金などないということでは、来店頻度が上がるとは思えない。			
設計事務所（所長）	・消費税増税対応での設計はリミットを過ぎたということで、当地方では、来年4月までは建築関係の景気浮上は難しい。			
住宅販売会社（経営者）	・工事請負契約に対する時限措置の9月末を過ぎると、一時的に需要が落ちる可能性が考えられるため、やや買い控えや様子見が増え、全体的には悪くなる。			
悪くなる	商店街（代表者）	・中小零細企業へアベノミクスが浸透してこない。この層の所得が上がらないことには、商店街はいつまでも苦戦を強いられる。		
	一般小売店〔衣料〕（経営者）	・7月に参議院選挙があるが、選挙中は人の動きも少なくなり、商売的にはやはり難しくなる。		
	スーパー（経営者）	・価格競争は避けられない。		
	コンビニ（店長）	・当店のごく近くにいいよ同業他社の店が開店することになり、これがちょうど2～3か月先になるので、確実に悪くなる。		
	タクシー運転手	・タクシーの利用客はまだまだ少なくなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向	良くなる	その他製造業 [環境機器] (経営者)	・土地を購入してメガソーラーを準備しているので、三本の柱がしっかりでき、良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
関連 (北関東)	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・富士山の世界遺産登録に関連して、外国人を含めた来県者が増加し、それに伴いワインの消費量及び販売量の増加が見込まれる。ただし、資材費の高騰が懸念される。		
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・9月ごろにリニアの駅の場所が発表になるので、相乗効果があればと期待している。		
		一般機械器具製造業（経営者）	・7月より立ち上がる新規品の受注が決定し、旧来品も建設機械部品の数量が増加に転じ、自動車部品も多少ではあるが増量方向に向かいつつある。		
		一般機械器具製造業（経営者）	・夏場以降、建設機械、油圧建機分野において仕事量の増加が予定されており、当社のベースとなる仕事は回復する。しかしながら、回復のペースは非常に緩やかであり、急回復するようなことはない。		
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今まで上がったり下がったりの状況で、アベノミクスではないが、やや良くなるというのは期待を込めた回答である。		
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・少しずつ動きは出ている。貴金属の相場が下がって来ているので、落ち着いてくれれば商品は作りやすい。		
		建設業（経営者）	・公共事業の発注が本格化するためである。		
		建設業（開発担当）	・今後、建設業では10年以上続いている企業数が減少し、従業員数が減っている状況から労務単価の見直しが実施される。この影響で、何年か続いていた工事利益計上が難しい状況からの脱却を計りたい。		
		建設業（総務担当）	・参議院選挙の結果次第となるが、現時点よりは更に予算の効果が出てくる。		
		金融業（経営企画担当）	・アベノミクス、富士山の世界遺産登録などにより期待材料も多い。特に、サービス業においては世界遺産登録で国内ツアーや外国からの観光客増加による売上増が期待できる。また、建設業についても消費税増税に伴う駆け込み需要による新築案件の増加が見込まれる。		
		金融業（役員）	・国、県、市の公共工事が前年比で1.5倍ぐらい出てくるということで、現在設計段階にあるのが秋口には仕事が始まるだろうということで、2～3か月先は受注量が増えていくということが1つである。もう1つ、自動車関連では大手メーカーが今までとは違う工場で7月から新しい機種を生産を始めることである。7月から稼働し、10月には相当な生産量のピークを迎えるだろうということで、一部業種に限っては、こういった経済効果が出ているようである。		
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合い、商談ベースから判断すると、少しではあるが改善の兆候が見える。半期の決算前の投資か、客の投資意欲の変化か、何とも言えない。しばらく様子見である。		
		変わらない		食料品製造業（経営者）	・規制緩和、法人税の減税、所得税減税など、もっといろいろなベンチャー企業やチャレンジ企業がしやすい経済環境を作るようにすれば日本経済が活性化され良くなると思うが、現状の改革程度では、来年の消費税増税とともに日本経済が失速してしまうのではないか。大胆な改革案が発表されていないので、本当に経済成長できるのかどうか半信半疑である。もっと新規投資、起業家マインドをくすぐるような政策を期待する。
				窯業・土石製品製造業（経営者）	・動向は悪いながら、リゾートホテルへのものづくり体験ブース出店の話が進みつつあり、展開に期待が持てる。
窯業・土石製品製造業（総務担当）	・業界全般でこの先3か月くらいは低調に推移する。				
金属製品製造業（経営者）	・今も注文が少なくなっているが、これから2～3か月先についても注文が増える見込みはない。				
一般機械器具製造業（経理担当）	・国内でものを作るようになって、それがどんどん増えれば景気も良くなるだろうが、今のままではしぼむばかりである。				
電気機械器具製造業（経営者）	・当社の決算は6月末だが、11年ぶりに赤字決算という不名誉な形になってしまった。前年の12月までは順調であったが、年が明けてから全然だめでどうにもならない。新規開拓を進めているが、なかなか思うような売上増にはなっていない。非常に厳しい状況である。				
電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の新機種量産が始まったが、生産量が伸び悩んでいる。				
電気機械器具製造業（営業担当）	・工場関係の設備投資が少なく、景気が早急に良くなるとは思えない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業担当）	・政府の景気対策等で物量が増えている状況ではないが、今後、夏場に向かい、天候によって夏物の家電、衣料品などが増えて来る予定である。また、特にインターネット通販向けの物量は増えている。ただし、円安による燃料高は厳しく、荷主への運賃転嫁も難しいので利益は薄くなっている。
		通信業（経営者）	・仕事の量や価格で見ると、マスコミで言われるほど景気の上向き加減は感じられない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・経済団体関係等の景気判断では、「下げ止まっている」、「確実に上向いている」などとされているが、多くの流通業関係者は「半年から1年先の話」や「良くなる前にしばむかも」といった見方で、景気動向が実感としてはまだない状況のようである。
		経営コンサルタント	・市場環境の改善という期待感が徐々に増えてきて、中小企業の経営者は積極的な設備投資に踏み出せないでいる。
		司法書士	・事務所に相談に来る客は少し増えてきている。今が耐え時なのかもしれない。
		社会保険労務士	・受注動向などを見ていると、ここ最近の夏と同じ程度の盛り上がりとなる。
	やや悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・夏場に向けて数量そのものはほぼ例年並みになるものの、原料や灯油が値上がりした状態なので、売上は同じでも内容は悪くなる。端的に言えば販売価格を上げないともうけがなくなる。
		化学工業（経営者）	・7月1日からの電気料金値上げを受け、原材料を仕入れる際の値上げ幅が具体的に出てきた。転嫁をするべく営業的に作業を始めているが、価格改定に費やす時間、エネルギーは大変なものである。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・大手自動車メーカーの3か月見通しでは、7月と比べ、8月が約30%減、9月はさほど変わらず、10月はまた落ち込むという予想になっており、トータルでは3か月前と3か月後の数量はさほど変化はないと見ている。ただし、コスト低減により販売単価が若干下がったことから、収益面がやや厳しくなっている。原材料については、前年度と比べてガス、電気料金共に値上がりしているため、収益状況は厳しくなる。
		不動産業（経営者）	・大手製造業が好転しても、中小は依然厳しく、経費の支出だけが膨らんでいる状況である。
		不動産業（管理担当）	・当社で管理する物件について、オーナーとの間に別の会社が入る仕事が増えている。今後もこのような傾向が続くそうなので、当社の取り分は少なくなり、利益率が下がる。
		広告代理店（営業担当）	・毎年6～8月は広告宣伝費が抑えられる時期である。
	悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・とにかく利益が出ない。資金繰りが大変である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注見込みが乏しく、細かい仕事も少なくなっている。見通しは暗い。
雇用関連 (北関東)	良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・自動車及び携帯電話関連の企業からの増員がしばらく続く予定である。
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・目に見えるほど景気が改善するとは思われないが、横ばいから上向き傾向で徐々に推移していくものと思われる。現状での回答と合わせ、富士山の世界遺産登録の影響も、県内の宿泊、飲食、販売業などで期待されている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・夏物衣料等の出足は、まだ安心できない状態である。食料品関係が主になるギフト商品については出足が良いような状態である。給与所得などは横ばいだが、そろそろボーナスが出て来そうなので、全般的には若干上向くのではないかと皆期待している。
		人材派遣会社（経営者）	・今年に入り、企業からの要請がほとんどない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・株価の乱高下など、先行きが不安定ななかで、地方の景気回復はまだ不透明である。
		職業安定所（職員）	・景気回復への期待感は強いが、最近、変化の歩みが鈍いように感じられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> ・企業に聞いてもアベノミクスの影響等はさほどなく、売上等も前年同期比で変わらないという回答が多い。マスコミの報道などで、アベノミクスの影響により都内では高価な物が売れ出したという話を聞いても、地方ではまだまだなのですぐには変わらないだろうという話が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔専門学校〕（副校長）	・上向き傾向の経済状況が高校生や専門学校生への求人数に結び付いてきているとはまだ思えない。企業側でも動向を見ているようである。また、新卒学生に求めるスキルは依然として高いものと感じている。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・ここ数か月の新規求人は前年同月比で1月が1割減、2月はほぼ横ばい、3、4、5月はそれぞれマイナス5.6%、8.6%、12.7%となっている。対して新規求職者数は4～6月にかけて追加の早期退職実施があったことなどから、4月が前年同月比で7.5%増、5月も6.4%増となっている。求人は減少傾向、求職者は増加傾向という状況はもう少し続きそうである。企業訪問時などに事業主に話を聞いても、新規求人は依然厳しいということなので、状況は変わらない。
	悪くなる	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (南関東)	良くなる	家電量販店（営業統括）	・来店客は引き続き好調に増加している。外国人観光客の来店も伸びている。4Kテレビも徐々に購入する客が増加している状況であり、明るい雰囲気が漂っている。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・経済面に対する政府の方針が非常に明確かつ確であると思うからである。
		観光名所（職員）	・観光地のため梅雨の間は客が少ないと感じている。2、3か月後になると夏休みに入り、客が増えるというのが毎年の実績である。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要で来場者数が大幅に増えている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・富の再分配が末端の商店街にくるまでの道のりはまだ遠い。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・今年の夏は暑くなりそうなので白物家電も比較的高価な物が動いている。業者が少なくなったせいか家の中の細かい電気工事、修理などの依頼もよくある。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・6月後半の勢いが7月に持ち越しそうである。梅雨明けから活発になる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・7、8月の案件が特に多く出てきている。消費税増税前に大きな投資関係をしたということが多い分にあるようである。特に、夏休み等を利用したオフィスやじゅう器の入れ替え等が幾つかあり、増加に転じているような状況である。ただし、路面店のため、天候不順等で店頭では来客数が減ったりするので、極端に良いとも言えないが、徐々に案件が出てきて幾分良くなっている。
		百貨店（販売管理担当）	・不安定な株価や円相場という不安要素はあるものの、2か月連続で来客数が増加していることから、景気を下支えする一般消費者の消費、購買意欲は今後も堅調に推移すると思われる。
		百貨店（店長）	・アベノミクスが軌道に乗れば、夏以降、給与が上昇するためである。
		百貨店（副店長）	・高額品は依然好調であり、消費税増税が近付くにつれて需要が更に高まると思われる。雑貨や食料品のようなデイリー商品も少しずつ好転してきている。ただし、株価の変動次第で停滞する可能性もある。
		百貨店（計画管理担当）	・6月後半からクリアランスセールも立ち上がり、市場が活気付くのではないかと期待している。
		スーパー（店長）	・今のままの業績だと非常に厳しい。来客数は減少しているが、そのなかで唯一の希望は、買上点数や客単価が前年と比べて少しずつ上がってきていることである。そういった期待値を込めて、3か月後はやや良くなる。
		スーパー（仕入担当）	・景気自体は回復の基調にあるが、円安により輸入品の価格が高騰しており、小売価格も上昇し、身の回り品に対する財布のひもはまだ固い。
		コンビニ（経営者）	・これから7、8月と夏場になり、学校も休みになるため来客数が増える。
		コンビニ（経営者）	・客の高品質商品を求める傾向は、継続して推移していく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・本部の取り組み、売場のアイテムの増加、客層に合った品ぞろえがしやすい売場に変更する予定があり、楽しみである。また、近隣にできたレンタルビデオ店が遅くまで営業しているため、夜間の来客数の増加が見込める。
		衣料品専門店（経営者）	・天気次第で変わると思うが、アベノミクスの影響で雰囲気は良くなってきている。また、努力次第で来客数や売上も増加してくるのではないかと。希望が持てるようになってきた。
		衣料品専門店（経営者）	・クレジットカードでの買物客が増えるなど、購買意欲を感じられるようになってきた。
		乗用車販売店（経営者）	・今年はボーナス商戦が期待できそうであり、新車の販売量も増える見込みである。
		乗用車販売店（販売担当）	・参議院選挙の結果によると思うが、現政権が多分圧勝し、政治が様々な形で良くなる。それからアベノミクスでは様々な影響が良い意味で出てきて、やや景気は持ち直しているのではないかと。特に東北復興についてはまだ停滞しているが、そこに従事するダンプカー、クレーン車、ミキサー車などが相当受注を抱えており、東北を中心にどんどん景気は良くなっていくと思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・参議院選挙の結果が出て現政権の基盤が固まり、経済政策に力が注がれると思っている。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後も株価等が徐々に上昇したり、企業等の利益が円安で改善されたりすれば、夏のボーナス等も多少は上回り、少しは良くなる。また、不動産等も動いているようだからである。
		一般レストラン（経営者）	・7月20日ごろ当社の主力店舗の1つが全面改装してオープンする。良くならなければ困る。
		都市型ホテル（スタッフ）	・参議院選挙で現政権がまた勝てば、動きが良くなる。
		タクシー運転手	・来月参議院選挙が終わり、ねじれ国会が解消されるとみており、アベノミクス効果が出て景気は良くなる。
		タクシー運転手	・今年の夏は猛暑になるということで、気温の上昇や、秋のスポーツ祭の開催があるため、需要の増加があるのではないかと期待している。
		タクシー（団体役員）	・景況感と天候に左右される業界でもあるので予測はつかないが、アベノミクス効果の影響も少しずつ出始めると期待する。
		通信会社（経営者）	・株価の乱高下で、一喜一憂していたがこんなものかと落ち着いてくる。そして消費に向かい始める。
		通信会社（社員）	・全体的に加入者数が伸びてきているので、このままの流れでいければ3か月後は目標数字がクリアできると感じている。
		通信会社（営業担当）	・消費者は心理的に景気が上昇するであろうと感じているように思う。
		ゴルフ場（支配人）	・秋口の予約で大きなコンペ等がそこそこ入っている。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・催事の予約が好調に推移している。宿泊施設の稼働、予約状況も堅調に推移している。東南アジアからの旅行者が増えており、外交状況次第で旅行者数が大きく変動する中韓の旅行者と比べ、変動のブレが少ない。
		美容室（経営者）	・政治の動きが良くなったのか分からないが、大分財布のひもが緩んできたようである。
		設計事務所（経営者）	・これから参議院選挙があるが、やはり現政権でなくてはというような声も聞こえている。公的な仕事、今やらなくてはいけないような仕事というのは、これからますます出るのでないか。現在の仕事が大変忙しく、また、これからの1年間において多くの仕事が出るものと期待しており、そういったムードが漂っている。
		設計事務所（経営者）	・取引先の状況から鑑みて、契約に結び付く可能性のある話がある。
		設計事務所（所長）	・官公庁の物件も多少出てきているが、2割以上金額を下げないと取ることができない。しかし、民間の動きも多少あるので、おそらく秋口には良くなるだろうとみている。
		設計事務所（所長）	・土地情報及び計画物件が多少出てきているので、売上につながる動きがあるのではないかと考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		住宅販売会社（経営者）	・正確にはやや良くなることを期待しているという意味での回答である。円安の影響で自動車産業などの輸出関連企業は良いようだが、我々中小企業はまだ不況のなかにいる。大企業だけではなく、中小企業向けの景気対策を期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前に契約の準備をしている客がかなりいる。9月まで駆け込み需要が増えて、その影響で売上が前倒しになる傾向が考えられる。
		住宅販売会社（従業員）	・マンション販売センターへの来客数が増えている。また、客の意欲が高まっている傾向が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が顕在化しつつあり、引き続き受注量の増加が見込める。
		商店街（代表者）	・我々零細企業における商売の環境は、大手の輸出関連企業等とは全く違う状況で、客もあまり良い雰囲気にはなっていない。来年4月に消費税が上がるということで、何かあったら買っておこうというような人は金額の大きいものについては少し早めに買う、あるいは借りる予定がある人については今見て歩いているかと思う。
		商店街（代表者）	・天候不順で、雨が降らない状態もやはり良くないので、普通の状態になってもらわないと商売は良くならない。
		商店街（代表者）	・物販と違って飲食業、特に居酒屋等の客は多少良くなっているようなことを聞いており、実際に前を通ると結構入っているため、多少良くなってくるのではないかと。
		商店街（代表者）	・株価の乱高下が落ち着き、実体経済がどれくらい上向いているかで変化があると思う。7月の参議院選挙の結果も景況に大きく影響する。決断力のある政治が続けば、景気の気分は良いほうに影響する。年末から続く政策の変化は確実に消費に影響しているのがその証明である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・これ以上悪くなりようがないところまできている。テレビ等の家電商品で唯一動いているのがエアコンぐらいのため、とにかく希望的観測も込めて、これ以上下がらず、変わらないという形でいてもらいたい。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・現在、当商店街は工事中で様々なところを掘ったりしているため、客が避けて通っている。良くなるということはあまり考えられない。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・これから先のことだが、本当はやや良くなると思うが変わらないを選択した。参議院選挙があったり、消費税増税の問題も出てきて、末端の方はなかなか今の状態ではないという感じがしている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・新しい需要先が構築されていない。これからも当分は末端の我々に関係する業種へのアベノミクス効果はまず難しいのではないだろうか。アベノミクス効果を期待しているわけではないが、1つの景気上昇の要因としては大切ではないかと考えている。しかし、あまり期待はできない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・一般消費者のムードはまだ上がり切っていないので、あまり上昇しない。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・選挙があると、小売などの商売へは気持ちがいかないので少し難しい。またその結果、政治が非常に不安定になったりすると、今経済的にも不安定なため、やや悪くなるのではないかと。
		百貨店（売場主任）	・一部の高所得者の財布のひもは緩くなってきているが、一般的には給料の伸びがまだ実感されていない。また、株価の乱高下が原因で今一つ消費意欲が出ていない。
		百貨店（総務担当）	・消費税増税前までは、今と同じように高額商品はかなり前年を上回る数字を残せると思っている。ただし、懸念されるのがそれ以外の食料品や婦人雑貨、衣料品等は大きな波が出てきていないので、富裕層の購買意欲は上がっているが、全体としては、依然不透明感があり、消費税増税を境にかなり大きなリスクが出てくるのではないかと。
百貨店（総務担当）	・景気が良くなる大きな要因が見当たらない。2、3か月のスパンでは大きな変動はない。		
百貨店（総務担当）	・一時的な金融緩和等の効果はあるが、具体的な経済再生の動きや、新規産業の芽などの国の意思が感じられない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（広報担当）	・参議院選挙を占う東京都議会議員選挙が与党の圧勝となり、世論の信任を得た形となった。これを受けて今後も与党の景気拡大戦略は続く。また、来年に迫った消費税増税前の駆け込み需要も想定され、百貨店でもそれに対応した商品政策、販売体制の戦略を立てている。従って、来年の消費税増税の反動までは、しばらく現状の好景気の継続が想定される。
		百貨店（広報担当）	・今の景気の動向は雰囲気先行型なので、実態経済の改善には実際の給与所得の上昇などが必要だと思う。しかし、大きな改善は望めないと思うので、あまり変わらない。
		百貨店（営業担当）	・例年より早く関東地方も梅雨入りしたが、比較的天候も安定しており、婦人服、紳士服衣料をはじめファッション雑貨、家庭用品、美術、宝飾、時計と幅広く堅調に推移している。ただし、中国の金融不安から派生する景気への影響が懸念される。
		百貨店（営業担当）	・多少円高にふれてはきたが、依然として全体的な円安は変わらず、メーカーのものづくりに影響がある。価格も今後上げていかななくてはならず、現状維持がやっとなのである。
		百貨店（営業担当）	・先月は若干落ち込んだものの、今月に入り復調の兆しがみられる。お中元ギフトについては若干の前倒し感がみられるものの、贈る件数が増えれば、返礼件数も増えることが予想できるので、売上も現在の伸びは期待できると推察される。今の経済政策の効果が実体として現われるころなので、状況は楽観できないが、ここ数年続いていた悲観的な見方はなく、着実に少しずつではあるが良くなっていく。
		百貨店（営業担当）	・アベノミクスの詳しい内容が発表されておらず、いつまでこの状況が続くのか国民が疑問に思っている。一方で、新党等も今後を100%託すべき状況でもない等、懸念材料が多いなか、参議院選挙の結果いかんと思っている冷静な消費者も多い。
		百貨店（販売促進担当）	・高額商品の動きが一部であるものの、一般の消費者は堅実な消費を続けている。
		百貨店（営業企画担当）	・しばらくこのままの状態が続くと思われるが、株価、為替の不安定さが継続すると影響が出ることも想定される。
		百貨店（営業企画担当）	・高額品の好調は継続しているが、衣料品などその他の品目にも明るさが出てきた。株価は一時大幅に下がったが、底割れすることなく踏みとどまっているため、当面は現状の景気を維持すると思われる。
		スーパー（経営者）	・悪い状態がずっと続いているので、2、3か月先も同じような傾向になる。ただし、今のところ読めないが、夏のボーナスが良ければ多少は変わってくるのではないかと。基調としては変わらない。
		スーパー（店長）	・7月より主力商品で一部原材料の値上げに伴う価格改定もあり、売価も値上げせざるを得ない状況が続くので、景気の回復にはまだ時間がかかりそうである。
		スーパー（店長）	・消費税増税関連での売上の変動はまだこの2、3か月後ではみられないと思うが、客はまだ景気回復の実感がないのではないかと。明確な政策などが出てきて今後の期待感があれば景気は上向くとは思いますが、今のままではあまり現状と変わらない。
		スーパー（店員）	・来客数も伸び、客の様子も好調ではあるが、単価の動きとしては高単価商品と低単価商品に買上動向が大きく分かれている。小売店としては売上、利益確保が非常に難しい販売形態、また販売努力になると思われる。
		スーパー（総務担当）	・株価が上がったり、円安で景気が回復しているような情報が流れているが、実際に身の回りの買物動向を調べても、まだ実感として景気が上がっているというようなことはない。また、特に大きな流行の情報もないなかでは、今の下がったまま推移する。
		スーパー（営業担当）	・まだ好調なベースは変わらないと思うが、特に世界経済のなかで大きな株価の変動、また為替の変動が大きく上下し、それが原因で世界的に経済が悪化すると、日本もそれにつられて悪くなる可能性がある。その点が一番懸念される。
		コンビニ（経営者）	・過去の動きから考えると、景気はあまり良くなるとは言えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・最近では格差社会というが、やはり来店客の中でも、目一杯食費を節約しているような客と、少し高くてもコンビニが便利だからと普通に買物をしている客とを感じるようになってきた。また、どこにも行くところがないのか、当店でお酒を買って、店の脇で一日中ぼーっとしている人がいたりとか、世の中が良い方と悪い方、同時に進んでいるような社会になっているのだと感じている。もう少しみんなで潤っていきけるような社会にしてもらえると、我々の商売も来客数が上がって良くなっていくと思う。
		コンビニ（経営者）	・今の日本の経済政策が浸透すれば、これから真夏に向けての購買意欲も非常に高くなるので、以前よりは伸びる。
		コンビニ（経営者）	・アベノミクスという経済指標によって大手は大分潤っているようだが、末端の中小企業、また勤め人の収入がやや減っているのではないか。これから先は予想がつかない。
		コンビニ（エリア担当）	・株価等の動きが上昇一辺倒から一段落しており、良くも悪くもなく推移すると予想している。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数は回復傾向にあるものの、回復傾向が継続する要因もなく、厳しい状況は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・客層の中心が年金生活世帯である。景気が良くなっても収入は変わらないが、何かにお金を使おうという気持ちを感じられる。
		衣料品専門店（経営者）	・アベノミクスで一部は良いと思うが、本当に末端の商店等の動きはさほど変わらない。これから消費税を含めているいろいろな値上げがあるので、分からないというのが現状である。まだ不透明な部分もあるので、先行きを見守っていきたい。雰囲気だけは良いような気がするが、現場はまだまだである。
		衣料品専門店（店長）	・夏物衣料の買場商品が増えている状況で、来客数がまた増加するとは思えないからである。
		衣料品専門店（店長）	・一部、高額品が動いていることを考えると上昇の兆しは感じられるが、一方、より低価格のものが伸びているため、トータルするとあまり変わらないままなのではないか。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしており、整備は順調に入っているが、販売はあまり芳しくない。2、3か月すると消費税増税前の駆け込み需要が始まると思うので、期待したい。
		乗用車販売店（営業担当）	・今の段階では頭打ちのような気がする。
		乗用車販売店（店長）	・アベノミクスの効果もそれほどなくなり、また、参議院選挙等あるため、様子見の時期が若干続く。
		乗用車販売店（渉外担当）	・実績ベースは4月を除いてここ数か月前年比で10%前後のマイナスだが、受注量は粛々と続いている。エコカー減税、免税の継続や新型車効果もあり、ここしばらくこの傾向が続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・自動車業界に追い風がなく、今後が不安である。
		乗用車販売店（総務担当）	・新規保有が望めないためである。
		住関連専門店（店長）	・アベノミクスの不透明さにより、株価の変動、円安など不安材料がある。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・株価や為替の安定等、先行き不透明な状況が払しょくされないと落ち着かないのではないか。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・食材にお金が回ってくるようになるのは、これからである。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・家庭用ゲーム市場としては特に上向き要素はない。
		高級レストラン（支配人）	・今年後半の受注状況は今のところ前年比プラスの予想である。急な景気回復は難しいが、東京オリンピックの招致でも決まれば良い方向に進むのではないか。
		一般レストラン（経営者）	・新業態、新規出店で街が変わると実感している。人の流れも変わりそうで今は様子見の状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・景気上向きへの期待から実需につながっているような感じはあるが、まだ力強さ的には弱いものがある。参議院選挙が終わってから、どのようになるか分からないが、おそらくこのまま若干横ばいより上向きという程度で年末まで推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（スタッフ）	・街では様々な安い物も売っているが、周りをみても全然動いてない。前より悪くなったような気もする。一般市民もそろそろ気が付いてくるのではないかな。強いことを発信しているが、まだそのような域までいっていない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・サマーシーズンを迎え個人利用主体の宿泊については期待が持てそうだが、近年は動きが直近のため読めない。レストランも宿泊にけん引され販売量が増えると予想されるが、婚礼や宴会は夏枯れの時期となり、先々の予約はかなり厳しい状況である。宴会需要が改善されれば好景気感も実感できるが、程遠い状況のなか、あまり変わらないように思う。
		旅行代理店（従業員）	・現在の状況は前年比での進捗状況とほぼ変わらない。若干マイナス程度である。先行きについても前年よりは少し悪いぐらいで推移している。
		旅行代理店（従業員）	・各業界の業績が上がれば、旅行の新規実施や予算増額の動きも出てくるだろうが、今のところその様子はない。
		旅行代理店（支店長）	・2、3か月後は8～9月になり、この時期は個人旅行の最盛期となる。来月の頭にかけてその予約があるので、それ次第である。団体の動きは鈍く、特に9月は良くない数字が出ているので、全体としては悪くなるということもないが、変わらない。
		タクシー運転手	・来月は参議院選挙が始まる。選挙があるとどうしても景気が落ち込むというのが今までの例なので、あまり期待できない。
		タクシー運転手	・世間一般では、まだ自分の給料が上がってないため余裕がないところがあるので、もう少し時間がかかりそうである。
		タクシー運転手	・今年に入って確かに良くなっているようだが、その要素が見え隠れしている。給料やボーナスが多少でも上がった上で、光熱費や税金が上がるのであればよいが、一部の企業の賃金だけが上がる状況では、多くの客は見込めない。
		通信会社（経営者）	・営業体制を再構築して担当エリアが変わった都下でも獲得量を上げていく予定だが、需要が若干弱くなっている気がする。
		通信会社（経営者）	・アベノミクスも一服し、ここにきて株価の低迷、円高への推移に変わってきたため、景気が良くなるという期待も心理的に停滞し始めている。
		通信会社（営業担当）	・競合他社との価格競争が激しくなっており、販売状況の改善が見込めていない。
		通信会社（管理担当）	・例年、夏季はダウントレンドベースではあるが、目立った上下変動はない。
		通信会社（営業担当）	・世帯当たりのサービス単価は上昇傾向にあるものの、上昇率は鈍っており、横ばいになると思う。
		通信会社（局長）	・為替に左右される業態ではないため、為替相場の変動による景気回復が見込めないと悲観している。
		通信会社（局長）	・経済環境が整うまでまだ時間がかかるものと思われる。また、当社のような業種は革新的な新サービスも伴わないと直接的な販売量の増加に拍車がかからない。そのため4Kテレビの普及時期が最も盛大になる可能性がある。
		通信会社（総務担当）	・景気回復の兆しはみられるが、顕著ではないためである。
		ゴルフ場（従業員）	・政府、国の政策で景気は回復していくのかもしれないが、地方自治、国民への影響はそう簡単にはいかない。
		パチンコ店（経営者）	・先々の消費税増税もあるが、現状は低玉貸しの機械を打つ傾向が強くなっている。やはり客の懐の具合もそれほど良くなっているとは思えないので、この先も今と変わらない状況なのではないか。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	・6月中旬よりボーナス商戦となっているが、客単価の向上がみられない。
		その他サービス [学習塾]（経営者）	・生徒数の動きから、景気はそれほど変わらない。夏期講習のコマercialを出し始めたが、例年や3か月前と比べても、生徒が増えたという感じはない。
		その他サービス [福祉輸送]（経営者）	・参議院選挙が終われば様々な意味で現政権の政策も出始めてくると思うが、それが経済に良い影響を与えるのか、与えないのかについてまだはっきりしていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者） 設計事務所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> ・このままの状態推移し、多少の上下はあるものの景気は横ばいで変わらない。夏場の売上増加もあまり期待ができない。 ・国は様々な政策を打っているが大きな変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		住宅販売会社（従業員）	・景気の良い状況がこのまま続く。木材利用ポイント制度も決まり、当社にとっては更に追い風になる。住宅ローン金利が一部で上がったと話題になっているが、変動金利は変わっていないので特に影響はない。
		住宅販売会社（従業員）	・現状、戸建用地の仕入が難しい状態なので、新しい事業に取り組んでいる。この事業が軌道に乗れば2、3か月先の状況は良くなるほうに転化してくる。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・消費税増税前の駆け込み需要で、建材の受注はまだしばらく続く。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・来店客や、営業の声などを聞いても景気が良くなっているという実態がないような話がほとんどで、売上もあまり良くない。電気料金の値上がりはまだ続いていたり、原材料の値上がりなどで、ますます消費は厳しくなる。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・企業に対しての売上減少に続き、個人用のお茶の売上も減少してくるのでは、と心配でならない。個人客と企業の購入意欲低迷が予測される。
		衣料品専門店（経営者）	・近隣大型店の地区と新規大型店とのセール商戦となるので、既存顧客の動向が気になる。また、長期予報の夏の長さや参議院選挙で落ち着くセールとならないので、売上が読みづらい。
		家電量販店（店員）	・上半期を終えるなかで、前年と比べてみても、現状は前年以下の数字となる。
		住関連専門店（統括）	・景気の動向が定まらず、買い控えが続いている。販売量も伸び悩んでいる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・医薬品のインターネット販売解禁になり、現実の店舗だけでなくインターネット上での競争も増し、ますます状況は厳しくなる。
		一般レストラン（経営者）	・2、3か月先は8月なので我々の商売は売上が一番下がる。8月は2割減になると思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今年の夏から秋にかけては海外旅行や国内旅行に出かけるとの顧客の声が多くある。来店客の行動パターンが読めず、来客が集中し入店できず、売上も限度以上伸びない日がある一方、来客数が半分以下になる日もあり、苦戦している。婚礼は新規客に対して様々な対策を出して減少を極力少なくしており、法人宴席を新規企業より獲得しているが、先の予約状況（人数、売上予想）は前年を1割ほど下回っている。宿泊は今秋も周辺でのイベントが前年並みに予定されており、うち1つは国際的なイベントであるが、詳細が全く不明で宿泊の中心が東京に変更される場合もあり、不安定である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・8、9月の結婚式の予約は、前年に比べてかなり悪い状況になっている。
		旅行代理店（従業員）	・例年国内団体旅行の動きが鈍くなる時期であり、今年もその流れは同じで予約状況は良くない。すでに10月以降の動きが活発化してきている。
		通信会社（営業担当）	・様々な分野で物価が上がるなど、一般消費者の家計状況が好転するとは現段階では想像できない。
		ゴルフ場（支配人）	・様々な物価が少し上昇しているので、客単価は逆にやや下がってきている。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・以前から兆候はあったが、6月に入ってからジュニア層を筆頭に来客数が落ち込んでいる。
設計事務所（所長）	・現状、日本の景気だけが良いような報道が非常に多いが、世界的な状況の影響も相当あると思われる。来年4月から消費税も上がるということなので、それまでは多少の駆け込みで一時的に景気が良くなったように思えるかもしれないが、大きな間違いである。税金が上がってもさらに仕事が出てくるような政策が取れないと、なかなか景気は上向きにならない。		
悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・6月はかなり厳しい売上になってしまっている。客の様子から特売日を待っているようである。余分な買物は控えて、必要な物だけ買物をしている。	
	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・大型ショッピングモールオープンの影響が大きい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔立体 駐車場〕（経営者）	・アベノミクスで盛り上がり、一時的に大企業は良くなったが、今は伸び悩んでいるようである。数か月後には中小企業も良くなると期待していたが、良くなるどころが悪くなってきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (南関東)	良くなる	—	—
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・話はきているという感じはある。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・時期的に繁忙期に入るためである。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・会社の設立印8本のうち3本が、親会社が子会社を作ることでの注文である。今まで1か月に3つ新しい子会社の印が出るということはなかったのが、珍しいというか、少し上向きだと感じている。また、個人の実印や銀行印販売の店売りでは、通常1日大体3本、多くて4本のところ、先日6本の注文を受け、なかでも2名の客は普段出ないような客単価の高い商品を選んでいる。
		金属製品製造業（経営者）	・来年4月の消費税増税前の駆け込み購入がすでに始まったようで、急に受注量が増えている。年度内は忙しさが続くだろうが、来年4月以降の急な落ち込みが気になるところである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラックの場合は、そろそろ良くなってこなければならぬが、材料屋の減産で遅れている。材料が動かないから今月は予想に反して非常に悪かった。しかし、これからはまた良くなっていかねばならない。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・若干勢いは衰えたとはいえ、まだアベノミクスに対する市場の期待は高いと思う。
		建設業（従業員）	・受注量が増えている。
		建設業（経理担当）	・企業の設備投資等ではないが、営業案件が多少増加している。ほとんど社会福祉事業等だが、これからも引き合いが増えそうである。
		輸送業（経営者）	・政府の方針決定や、実業界の取り組みなど様々あるが、実を結んでくれば景気は良くなっていく。長期金利の上昇がどう影響するかが懸念される部分である。
		通信業（経営者）	・アベノミクスに期待している。
		通信業（広報担当）	・株価の調整もそろそろ終わり、徐々にマインドも好転してくる。
		金融業（統括）	・少しずつ景気が良くなっていくように思う。まだまだ一気に上がらないだろうが、株価等も含め、良くなっていく。
		金融業（支店長）	・参議院選挙で現政権が勝利し、政権が安定すればデフレ脱却への期待が高まる。投資家の動きも活発になるのではないかと。
		不動産業（総務担当）	・新築分譲マンションへの来場者は目標数を下回っているが、歩留まりは良く、真剣に購入を検討している顧客が増えている。今後期待ができる雰囲気になっている。
		広告代理店（経営者）	・直近で提案予定の新規案件が通れば、早ければ3か月後から実務が始まる。その希望的観測を含めてのやや良くなるからである。
		広告代理店（従業員）	・取引先で夏から秋にかけて新製品が多くなり、宣伝等に力を入れつつある。
		広告代理店（営業担当）	・エンターテインメント業界の仕事をしているが、大抵、景気の良し悪しは半年～1年遅れて我々のところにやってくる。
		税理士	・参議院選挙後のさらなる経済政策に期待大である。
		経営コンサルタント	・県内の海寄りの商店街の話では、現在の状況は決して良くないが、近隣の人たちの買い方が少し変わってきており、夏には状況が良くなっているのではないかとということである。海水浴客も、少なくとも前年よりは増えるかと確信して、準備していると話している。
	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・受注量からみてこれからも売上増になると思う。	
	変わらない	繊維工業（従業員）	・高額品の消費が盛んになりつつあるような報道があるが、衣料品については消費者は安ければ買う状況で、それだけファッション性が失われてきているということだろうか。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・個人消費が好調になってはきたものの、低価格競争は相変わらずで思うように利益が上がらない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・アベノミクスと言われているが、中小零細企業までその効果が回ってくるのは、まだかなり先である。このままの状況だと更に景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		プラスチック製品製造業（経営者）	・各顧客や業種により成長戦略に乗れそうな取引先と乗れない取引先があり、新企画や受注計画に表れそうのため医療容器などに期待をかけている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・受注額は横ばいで増える傾向は感じられない。製造原価はじわじわ上がる傾向であり、しばらくこの状況は変わりそうもない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社は自動車部品が多いが、数の多い物はここ1、2年で皆外国へ行ってしまった。その状態で考えると増えそうな物はない。また、新規の部品の受注もこのところ驚くほどない。そのためずっと落ちた状態のままではないかと心配である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・仕事の内容、種類を少し変えてみようかとは思っているが、今のところは年間通じて同じような仕事をしているので、変わり映えしない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電気を使えない、企業が出て行く、人口が減る等の原因で当社が日本で商売を続けることは年々難しくなっている。何とか海外マーケットで当社の優れた商品売っていきたくて考えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・首相の政策が実現されないと良くなる見込みがほとんどないので、当分どちらとも言えない。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・毎回同じような答えだが、周囲を見渡しても特別に変わるものが思い当たらないので、このままの状況が続く。
		建設業（経営者）	・景気対策の効果は、我々中小企業までには回ってこない。
		建設業（経営者）	・先がまだまだみえにくく、何か起爆剤がほしいところである。
		建設業（営業担当）	・株価や円の変動により取引先の設備投資に変化がある。それらに対応しながら仕事の受注をしていくが、変動が速く売上が読みにくくなっている。
		輸送業（経営者）	・我々中小企業には今後良くなるか、悪くなるかさっぱり読めないが、せめて現在の景気のままであって欲しい。
		輸送業（総務担当）	・得意先の出荷が今後も輸出は増加傾向、国内出荷は現状維持状態が続く見込みであり、当社の売上の増加にはあまり期待できない。
		金融業（従業員）	・販売の回復よりも、原材料価格や仕入価格の上昇が先行しているとの声が多い。景気回復についても慎重な見方が多く、設備投資意欲は依然として低迷している。
		金融業（支店長）	・各中小企業の受注の方向性については、先行きがみえないことが一番大きい。今は3か月ごとの受注計画なので、増えるにしても設備投資をしてよいのかどうか分からないことと、やはり消費がそれほど増えているわけではないので、売上が上がるとは考えにくい。
		不動産業（経営者）	・先月は土地が値上がり傾向だったが、賃貸市場はまだまだである。
		広告代理店（従業員）	・新しい仕事が見当たらないのは変わらないため、現状維持に力を入れている。
		経営コンサルタント	・アベノミクスは第3の矢が発表されただけでも何も実体が動いていない。資金がたくさん準備されても、投資意欲の湧くような実体経済の動きがなければ結果は出ない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・現状の単価下落傾向と材料費値上げ傾向はしばらく続く。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・インターネット環境整備の受注件数の伸びが落ちてきており、当面の間この傾向が継続する。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・小売店にはこれから売上が伸びるような要素が見当たらない。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・資材の値上げのタイミングが7月を区切りに行われそうなので、ここがポイントとなると考えている。クライアントへの値上げ交渉が難しい状況なので、慎重に進めなくてはいけない。
		化学工業（従業員）	・原料、運送費の値上げの話がきているが、製品の動きは少し減少傾向であり、今後も変わらないようである。
		金属製品製造業（経営者）	・アベノミクスが実現しても中小企業に資金が回るには時間がかかる。中小企業に対する助成金の申請手続き条件が厳しく、文書作りに時間がかかり、使い勝手が悪い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		精密機械器具製造業 (経営者)	<ul style="list-style-type: none"> ・参議院選挙を控え、どこも市況の様子をうかがっている。国民はアベノミクスの反響を心待ちにしているが、市場では今年度では結果が出ないと言われており、来年度まで待てるのかが不安である。この結果により政局が混乱すれば最悪の事態のシナリオになっていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（経営者）	・例年8、9月は天候要因や夏期休暇等による稼働日の落ち込み等で売上が減少する月であり、燃料価格の高止まりによる経費増も改善が期待できず、厳しい状況が続く。
		金融業（役員）	・長期金利の動向や株価、為替の急激な変動は、将来的な安定という点で懸念材料である。中小事業者は、設備投資に踏み出すべきかどうか判断に迷っている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・やや大口物件の解約があり、小口の新規契約も数件あるものの、すべてをカバーできないので、全体的にみるとやや悪くなりそうである。解約と新規契約、両方の動きが出てきた感がある。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・例年ならば3か月先の発注がそろそろ来るころだが、今年はまだ特でない。取引先も景気の動向がつかめないため、発注を控えている様子である。
	悪くなる	建設業（経営者）	・やっと景気回復の兆しがみえてきたのに、ここで消費税増税をしてしまったら元のもくあみになってしまう。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・中国のバブルがはじけそうであり、それまでにアメリカの景気が良くなればいいのだが。
雇用 関連 (南関東)	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・8月のお盆明け以降の予定は今の段階で相当話があるため、それを全部受注できれば相当の盛り上がりがある。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・車、航空機の製造業の求人がけん引しているが、サービス業の求人件数も増加している。業界全体で製造業にとどまらず求人が増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	・参議院選挙の特需が期待できる。また、選挙の結果次第で政治の安定への期待が良い結果を生んでくれることが考えられる。
		人材派遣会社（支店長）	・7月の参議院選挙で現政権が勝てばねじれが解消され、更なる経済成長が見込まれる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・外国人、日本人留学生の採用に向け、イベント開催が多くなっている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・先々の案件に関する問い合わせは順調なので、期待したい。
		民間職業紹介機関（経営者）	・製造業のクライアントが多く、為替変動対応で以前からアジアの発展途上国進出は着実に進めているものの、国内外での状況改善が期待されるため、国内外でも比較的人材強化に力が入っている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・経営者の何人かと話をしたが、株価の乱高下等あり、アベノミクスが本当に浸透しているのか、今後どうなるのか不明なので景気が良くなるとは思えないという人が多かった。
		人材派遣会社（社員）	・受注数はこのまま堅調に推移し、同時に採用が厳しい状況は続きそうである。
		人材派遣会社（社員）	・顧客の需要の堅調さは継続すると見込まれる。
		人材派遣会社（支店長）	・アベノミクスはまだ労働市場の活性化まで効果が出ていないと思う。
		人材派遣会社（営業担当）	・長期的な先行きが見渡せないため、増員に踏み切れず、新規採用にちゅうちょする様子から、9月末決算までは少なくともこのままいく。10月以降の予算計上を増加する企業でもおそらく予算を使い切る動きは取らず、内部留保に努める印象がある。以前ほど人材配置の投資にアクセルを踏む企業は多くないと予測している。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新規の取引がそれほど増えていないためである。
求人情報誌製作会社（営業担当）		・求人数の動きがここ2か月ぐらいずっと横ばいのままである。	
求人情報誌製作会社（広報担当）		・周囲にはアベノミクスによって恩恵を受けているような企業や、景気の上向きを体験している人がみられない。	
職業安定所（職員）		・動きが見受けられない。	
職業安定所（職員）		・金融市場が落ち着くまで時間がかかる。	
職業安定所（職員）		・求人申込時の賃金見込額は現状維持が多く、この賃金水準では手取り収入が増えず、円安による輸入品の値上がりで、家計への悪影響の方が懸念される。	
職業安定所（職員）	・景気改善への期待は高まっているが、管内企業からは賃金への反映についてはまだまだ難しいと聞いている。また、パートや派遣、請負形態の求人増加はみられるが、求職者が採している正規雇用求人の増加には至っていない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・良くなる、悪くなるの判断材料が少ない。参議院選挙関係で一時的に求人数が増加している面はみられるが、継続的なものは見当たらないことと、在職中の新規求職者が多くなってきている感触があるが、大量雇用変動につながる情報がないためである。
		民間職業紹介機関（経営者）	・期待を含め、求人数は増えているが、採用条件を高めに変更したりで採用数の増加には結び付いていない。
		民間職業紹介機関（職員）	・変わる要素が今のところ見当たらない。C I 値も回復してきており、安定的に良い状況は続きそうである。
		民間職業紹介機関（職員）	・一定の好調な状態まで達しているのので、この先、更に良くなるかは不透明である。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・今後の求人獲得予想数だが、新規採用や採用数増加の話は少なく、従来の計画通りに推移しており、大きな変化はない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・近隣企業は自動車部品メーカーが多いが、業績が厳しく人員削減を行なう方向性とのことで、その影響を受け景気は低迷していくように思われる。
	悪くなる	—	—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）	・先行きは、遷宮行事が本番を迎え、当然忙しくなるはずである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・当地は参拝する人の波が絶えず、それを温かく迎える人々等、賑やかである。
		百貨店（販売促進担当）	・アベノミクスの反動により株価安・円高に振れる可能性はあるが、中長期の上昇トレンドは、そう簡単には反転しない。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・今月が今までにない程のどん底であるので、先行きは少しは良くなる。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	・季節要因によるが、暑くなればエアコンが出るため期待している。
		百貨店（販売担当）	・増税が近づいてきており、今のうちに買っておこうという気持ちになることを期待している。
		百貨店（経営企画担当）	・一時期の株価安、円高も落ち着き、消費動向に水を差す状況は幾分解消されてきたと感じる。それと共に夏季ボーナスの時期となり、消費の面でもようやくいくらかは好況さがみられる環境になってきている。
		百貨店（販売担当）	・先々の消費税増税の影響で、購買意欲を更に強く促進し、高額品や耐久消費財を中心に顕著に動いていく可能性が高い。ただし、景気の上昇カーブは雇用の安定と収入の上昇に比例するため、現在の景気上昇ムードの持続には、中間層以下の所得の安定が不可欠である。
		スーパー（経営者）	・当地は式年遷宮を迎え、来客数の順調な伸びが期待できる。
		スーパー（経営者）	・失業率は下っており、仕事の内容を選ばなければもっと下がる。そして勤労者の所得が上がって消費に結び付く。景気は徐々に良くなっていく。
		スーパー（総務担当）	・空梅雨傾向で、夏物飲料やアイスクリーム、そしてビール等の売行きに期待が持てる。
		コンビニ（エリア担当）	・最近の売上回復状況から、今後数か月の間には前年をクリアできる。
		コンビニ（店長）	・梅雨が明け本格的な夏が来れば、飲料水やアイスクリーム等の商品がよく動くようになる。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・日本製の比較的値段の高い商品が動きはじめている。
		家電量販店（店員）	・エアコンや冷蔵庫が最も売れる時期が来るが、最近は上位機種が人気のため、売上の伸びが期待される。
家電量販店（店員）	・暑さの影響や株価の好調さで市場自体に良い変化がありそうである。期待感も込めて良くなると思いたい。		
乗用車販売店（経営者）	・ボーナス商戦を迎え、客の動きも出てきているので今後期待したい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・アベノミクスの経済対策による効果も現れ、消費税増税前の駆け込み需要も見込める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・自動車のオプション部品の相場をみても、売れている感じがする。
		乗用車販売店（総務担当）	・来客数が増えており、前年のエコカー補助金の反動減は予想よりも小さい。
		住関連専門店（営業担当）	・消費税増税前の駆け込み需要と思われる新築住宅、マンション、その他建設工事が増加している。アベノミクスによって気持ちの面での景気回復感の高まりから、特にリフォーム工事が増えている。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・これからボーナスが支給される会社がある。また、夏の異動も始まり、関連商品の購買が期待できる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・政局も株価も安定してきて、経済の先行きにも明るさが出てきた様子が伺える。
		一般レストラン（従業員）	・もともと夏場が忙しく、週末に雨さえ降らなければ客は来てくれる。
		観光型ホテル（経営者）	・当ホテルは、富士山の眺望が良く、このことが知れ渡れば富士山景気でやや良くなる。夏休みの旅行も、どうせ行くなれば話題性のあるところへと思う方が多い。前年と同様の新東名高速道路の開通に加え富士山の眺望という要因から、先行きはやや良くなるとみる。
		都市型ホテル（経理担当）	・今後の式年遷宮によるツアー宿泊客の増加に期待する。
		旅行代理店（経営者）	・3か月後には、オリンピックの東京招致も決まり、それが起爆剤となって景気が良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・富士山の世界遺産決定で、国内・海外からのツアー客が増えてきている。夏の登山客も増えている。
		タクシー運転手	・8月は、祭り、旅行、スポーツ大会やお盆の帰省等でタクシー利用が増えるため、忙しくなる。
		タクシー運転手	・朝、昼の客の利用は変わらず少ないが、夜の繁華街では自動車関連の企業で一時期よりも良い状況である。豊田、刈谷等の名古屋近郊からの客が増えてくる。
		テーマパーク（職員）	・周辺の事業所でもPRには積極的であり、地域の観光が活性化しそうな気配が感じられる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の受注期としては終盤にきている。ここから駆け込み需要が予想されるので、3か月後は上向きと考える。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・企業の設備投資、官公庁工事やマンションリフォームなど全般に見積依頼が来ているので、着工後は忙しくなると期待している。
その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・広告への反響や契約数は順調に伸びているが、夏以降どうなるかは不透明なので不安もある。		
変わらない		商店街（代表者）	・今の不安定状況では変化がない。売上が2%減少しているのに製造原価が3%上昇しており、先行き不安である。
		商店街（代表者）	・夏場は忙しい時期ではないため、業況は先行きもあまり変わらない。
		商店街（代表者）	・株価の上昇や、円安で景気回復していくとの報道が多いが、周りの様子を見る限りでは、そのような実感はない。
		商店街（代表者）	・他人のための商品は売れているが、個人向け商品の数が出ないため、販売量、販売高の増加にはつながらない。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・アベノミクスの不安定さ、生活物資の値上がりで、一般消費に非常に悪い影響を及ぼしている。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・先行きを読むのが難しい。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・消費税増税を意識し始め、客の金の使い方が引き締まってきている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・良くなる要因が見つからない。まだまだ財布のひもは固く、先行きに希望が持てない。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・当地の景気の悪さはいつも述べておりで、羽振りが良いのは一部にとどまり金銭的に余裕のある人は少ない。どの店長も、客層が悪くなった、良い客はどこへ行ってしまったのかと口にしてている。バーゲンの時期に入り、各店舗や他社の営業の仕方に神経を尖らせている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔食品〕 (経営者)	・以前に比べて客に明るさは感じられるが、選挙の結果や電気やガスの値上げによって、景気はまだ一進一退の状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・贈答品店は、個人で十分に使えるお金が増えないとなかなか利用されない。客の様子をみる限り財布のひもは固い状態が続いているため、ここ2～3か月では変わらない。
		一般小売店〔自然食品〕 (経営者)	・小売店の業態変化など、景気に頼ることのない経営努力が必要になってきている。
		一般小売店〔書店〕 (経営者)	・当地のような地方では一流企業もないため、景気の回復感 は遅い。期待を込めて待っているが、まだまだ変わらない。
		一般小売店〔時計〕 (経営者)	・良くなる材料がない。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・景気の動きは、3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔和菓子〕 (企画担当)	・参議院選挙があり、政権がどれくらい安定するか、経済政策が実現できるかなどを見極めないと先行きは分からない。
		百貨店(売場主任)	・選挙を控え、明るい材料も具体的には見当たらないため、 景気の先行きは変わらない。
		百貨店(経理担当)	・株価が不安定な動きをしているため、消費者心理が好転する ようにはまだ思えない。
		百貨店(営業企画担当)	・政治情勢のこれからの動きにも大きく関わるが、海外ブランドの 価格改定による値上げが進むため、今後商況がさらに良くなっ ていくとは考えにくい。しかし、増税前の特需が徐々に出てきて おり、現在の好調は維持できると考える。
		百貨店(販売担当)	・客の様子からは、以前に比べて購買意欲があるように感じら れるが、実際にはなかなか購入に至らない。厳しいという印象 である。
		スーパー(店長)	・この先値上げが目白押しになる。客の動きが全くみえず、先 行きが非常に不安である。消費税率が上がる時に、消費が大き く冷え込む可能性があり、不安が大きい。
		スーパー(店長)	・食品市場では、低価格品へのシフトや、安いもので我慢する といった消費行動が根付いている。プライベートブランド商品 などが伸びており、1品当たり単価の低迷は今後も続き、単 価のアップは望めない。
		スーパー(店員)	・野菜の価格が一定水準で推移しているが、大雨や日照りの影 響がどう出るか予測するのが難しく、少し様子見が必要であ る。
		スーパー(営業担当)	・株価は停滞し、厳しくなるばかりである。消費マインドは そう簡単には上昇しない。
		スーパー(販売担当)	・総合店が増えて、いい材料が何もなく、売上の増加は望め ない。
		スーパー(商品開発担当)	・前年のような前年割れは減ってきているが、急な回復は見 込めない。
		コンビニ(店長)	・このところ変化がみられないが、夏場の飲料の売上増に期 待している。悪い方向に変わりがなければ良しとしないとい けない。
		コンビニ(エリア担当)	・プラスの要素としてコンビニエンスストアのスーパーマー ケット的な利用が広がってきているが、競争激化がそれを打ち 消してしまう。
		コンビニ(エリア担当)	・夏季は天気や気温に大きく左右されるが、現在の主要商品 の動向が鈍く、先行きも大きく改善するとは考えにくい。
		コンビニ(店長)	・当店はビジネス街と繁華街の両方を抱えているが、特に飲 食店の客の動きが悪いと感じる。飲食店に勤める客の動向か ら来客数はあまり変化していない。
		コンビニ(商品開発担当)	・自動車関連など一部の業態では、景気回復により客単価の 上昇が予測されるが、来客数の減少は続いており先行きも変 わらない。
		衣料品専門店(経営者)	・生活必需品が値上げしているため、よほどのことがない限 り衣服にまでは消費がまわってこない。
		家電量販店(店員)	・今後の為替の動きは、政府がというような円安傾向ではな いのではないか。そうなると物価だけが高止まりしてしまう。
		乗用車販売店(営業担当)	・景気が回復しているイメージはあるが実感はない。
		乗用車販売店(経営者)	・良くなる要素が見受けられない。
		乗用車販売店(経営者)	・良くも悪くも、景気を大きく左右するような要因が見当た らない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経理担当）	・前年に比べて給料が微増したといった話は耳にするが、微増程度では大幅な消費増にはつながらず、高額な耐久消費財となるとなかなか手が出ない状態が、まだまだ続くような感じがする。
		乗用車販売店（販売担当）	・第2四半期決算を控え、今月はかなり前倒しで販売したため、7月以降は少し厳しくなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上高は、前年同月比で1.1%のマイナスであり、来客数は、同じく2.2%のマイナスである。
		一般レストラン（スタッフ）	・大手企業はそれなりの業績を残しているが、中小企業にまで好況が行き届くかは分からない。先行きはあまり変わらない。
		スナック（経営者）	・株価の変動の激しさが話題に出ることもなくなった。財布のひもはますます固くなり、地方に好景気が来ることは、数か月先も期待できない。
		観光型ホテル（販売担当）	・宿泊に関しては、ここまでの稼働率を保持していくのが難しいので、近隣の状況をみながら単価調整をして売上を確保していきたい。宴会については相変わらず特段のトピックスがなく、現状維持のままで増加が望めない。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から先行きは変わらないと判断している。
		都市型ホテル（支配人）	・宿泊需要は、5月には良かったものの6月に入って低迷しており、7月以降の予約も弱い。また、宴会需要も夏の予約の入りが悪い。
		旅行代理店（経営者）	・国全体がまだまだ好景気になっていないので、見通しが全く立たない。本格的に経済が動き出すのは、参議院選挙後と思われるので、それまでは好景気を体感することは難しい。
		旅行代理店（経営者）	・第3の矢・成長戦略では、規制緩和やTPPにおける交渉の中身など先送りの問題が多く、明確かつ具体的な政策が示されていない。また、高齢社会の弊害として年金、医療費増大などと相まって、大学の秋入学導入延期のように、本格的な若者育成に取り組んでいないという意見を様々なところで聞いている。
		旅行代理店（従業員）	・これから先の受注は、景気が良くなったと実感できないと旅行にお金を出してもらえない。景気が良くなったとは感じられないため、このままで推移する。
		旅行代理店（従業員）	・旅行需要を大きく左右する要因となるイベント・情勢が見当たらないので、著しい変動はない。アベノミクスにより、少しずつデフレから脱却し旅行代金の値上げが出てきているが、旅行需要にはあまり影響がない。
		タクシー運転手	・長い間悪い状態が続いており、その状況は変わらない。月に1、2度は良くなったかと思うと、明るく日にはしわ寄せが生じて、月平均で見ればいつもと同じになる。
		通信会社（企画担当）	・基本的には回復基調にあると思っているが、不安定な株価、選挙など不安要素もあり、しばらくはぶれ続ける。
		通信会社（サービス担当）	・光回線のエリア拡大に伴う新規申込が増えれば若干良くなるかもしれないが、スマートフォンやタブレット端末の普及によって、携帯会社のWi-Fiでも十分であると、解約も増えるかと思う。
		通信会社（営業担当）	・月間販売数は今後も少なく、現状維持の見込みである。
		テーマパーク（経営企画担当）	・予約状況はやや上向き傾向であるが、この先の見込みとしてはあまり変化はない。
		観光名所（案内係）	・円安で輸入品や電気料金等も値上がりしているため、数か月先は期待できない。
		ゴルフ場（企画担当）	・8月の入場予約では前年同月比をクリアしている。このまま推移すれば、8～9月の入場者数は予算を達成するものと考えている。
		設計事務所（職員）	・物価が上がるという話は良く聞く。アベノミクスでインフレ傾向にはあると思うが、具体的な景気浮揚の兆候はない。
		住宅販売会社（従業員）	・新規に土地を購入する人が増えてきたことで、住宅取得への要望につながる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の影響が現れるまで、横ばい状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・平日の夕方に来店する客は常連客で、6月末からのクリアランスの下見のために来る。クリアランスが始まれば、購買意欲が湧き、売上も上がってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・6月の売上は、前年を大幅に超える予測であるが、要因として、日曜日の1日増し、夏のクリアランスセールの前倒しなどによるところが大きい。その反動として、7～8月の売上は厳しいものと予測される。今のところ、それ以降の景気回復につながる要因は見当たらない。
		百貨店（経理担当）	・これまで時計や宝石等の高額商品が全体の売上を押し上げてきたが、株価や為替の調整局面を受けて勢いが鈍化することによって、その分だけ全体の売上がはく落することが予想される。
		スーパー（店長）	・為替や株価の乱高下が続く、経済が不安定なため、消費者の気持ちが消費に向かわない。
		スーパー（店長）	・7月に入るといろいろな商品の値上がりが続く、少しでも節約しようと食費を抑え始めることが予想される。
		スーパー（店員）	・先月と同様、新規大手店ができて、見通しが悪く厳しい状況になる。
		スーパー（販売促進担当）	・7月初めには近郊に食品SMがオープンし、さらに11月にも競合店のオープンが予定されている。共に1.5キロ圏内に立地し影響が心配される。
		スーパー（営業企画）	・現在の好況感の実態を伴っていないため、参議院選挙後あたりから、生活者の意識は現実的な景気実感に向き、消費行動は堅実になっていく。
		コンビニ（企画担当）	・資金バブルと増税前の駆け込み需要だけで終わりそう。先食いの需要だけでは、消費税増税後の反動が怖い。
		コンビニ（エリア担当）	・主力商品の弁当、パスタなど単価の高い商品の動きが悪い。おにぎり、サンドイッチなどの単価が低い商品に流れている。こういう時は先行きが良くないことが多い。
		コンビニ（店長）	・7月に入ると一部食品が値上げされるため、全体の消費にも影響が出る。
		乗用車販売店（従業員）	・車は必要ではあるが特に乗り換える必要がないと代替サイクルがどんどん長くなっている。年内の新車発売予定もなく、増販が見込める要素が見つからない。
		乗用車販売店（従業員）	・ボーナス支給の時期に入り、これまでイメージ先行であったものが、ある程度、懐具合の回復具合が形となって現れた時に、購買意欲が新車に向かってくれるのか不安が大きい。ボーナス商戦が活気付くことを期待したい。
		乗用車販売店（従業員）	・客との会話では、消費税が上がる前に車を買換えたいという言葉が増えてきている。ただ、実際に購入に結び付くかは測りかねる状況である。また、若い世代を中心に、定期点検などを受けず車検だけで済ませる客も増えてきており、収益は減少している。
		乗用車販売店（従業員）	・良くなる要因が一切みえないため、しばらくは厳しい状況が続く。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・経済は上向きであるが、目立った効果が表れていない。中間層の所得が上がれば購買意欲も伸びる。
		高級レストラン（役員）	・消費税増税の影響で、耐久消費財の購買は一時的に上向き一方、飲食業ではその影響が一段落する1年から1年半後くらいまでは、下げ止まらなるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・今の政府の方向として、一部のものしか優遇されない。末端のものにとっては、なかなかそこまでいかない。
		スナック（経営者）	・例年この時期は盆休みもあり悪くなるため、今年も期待できない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・選挙が終わり増税などの話題が出てきた時に、悪い方へ軸がぶれていく。
		都市型ホテル（経営者）	・経済の回復、成長への期待の高さに実績が伴えば良い。
		都市型ホテル（営業担当）	・株価の低迷や円安の影響が景況に出ているように思われる。消費税増税に向けて暗いムードがある。
		旅行代理店（経営者）	・参議院選挙を控えて、少し手控えている感じがする。選挙が終わらないと経済対策の効果が出にくいのではないかと。
		テーマパーク（職員）	・景気はすぐには良くならない。
		パチンコ店（経営者）	・業界全体が薄利多売に向かっている。
		理美容室（経営者）	・総理は農業所得を上げるといっているが、農村部での客との話では、上がらないだろうとの声がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美顔美容室（経営者）	・夏休みで出費が増え、また子供が家にいるため来店が減る。
		美容室（経営者）	・現状はボーナス等の臨時収入で景気が上向いているだけである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
	悪くなる	美容室（経営者）	・不景気で将来が不安である。		
		住宅販売会社（経営者）	・食品の値上がり等でローンに充てる金額が少なくなるため、家を購入しにくい。		
		美容室（経営者）	・高齢者の客が多いため、これから夏に向かい外出を控え、一段と悪くなる。		
		理容室（経営者）	・物価が上がるといふ話がちらほら出ているが、景気が良くなるとはまだ思えない。		
		設計事務所（経営者）	・案件の極端な減少、単価に対する酷い査定など、ここ4～5年のなかでは最悪の状況である。		
企業 動向 関連 (東海)	良くなる やや良くなる	—	—		
		食料品製造業（経営企画担当）	・為替も株価も変動するのは当たり前であり、根本の部分では明るさを取り戻しつつあると感じられる。生活者の景気回復への期待感が、活発な消費動向につながることを大いに期待したい。		
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・消費税増税前の駆け込み受注を狙って広告投資が活発になりそうであり、住宅関連企業からの受注が増加する見込みである。		
		化学工業（総務秘書）	・参議院選挙でねじれが解消されるのを見届けて景気は上向く。消費税増税後はある程度批判が出るだろうが、その必要性や中期的な財政再建プランを分かりやすく説明できれば、好景気は維持できるのではないかと。		
		窯業・土石製品製造業（社員）	・若干ではあるが、自動車関係、電気関係で景気回復が感じられる。		
		一般機械器具製造業（営業担当）	・極端な円高状態が解消されたため、商品価格が適切な状態になっている。これまで設備投資を控えていた携帯電話、ノートパソコンなどのEMS（電子機器受託製造サービス）ユーザーが、凍結していたプロジェクトを復活させたり、古い設備の更新を積極的に進めている。		
		電気機械器具製造業（企画担当）	・海外において強気の受注予測の地域が多く、年末にかけての売上増が期待できる。		
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・選挙が終わって景気浮揚策が効果を現すと期待している。		
		建設業（経営者）	・若干の懸念材料はあるが、このまま上昇気味に推移すると思われる。ただし、消費税増税で景気が腰折れする可能性は大である。		
		輸送業（エリア担当）	・円安傾向で為替が安定し、競争力が上がり中部地区の製造業から出荷が増加する。		
		輸送業（エリア担当）	・到着量の伸びに対し、現有戦力での対応は難しく、新規に人材を募集している。しかし、急な募集で集まりにくく、時給を大幅に上げてでも人材を募集している。		
		金融業（従業員）	・自動車産業の大手においては、景気は上向きと従業員や役員が知っている。子会社になると、まだ目に見えるものはさほどなく、景気が良くなっている状況は掴めない。		
		金融業（企画担当）	・参議院選挙での与党の勝利による国会のねじれ解消で、アベノミクスの成長戦略の実現性が高まると期待され、株高となって個人の資産効果による消費拡大が見込まれる。		
		金融業（法人営業担当）	・自動車メーカーの想定レートを上回る円安を背景に、今後も自動車・同関連部品の生産が増加するとみられる。		
		不動産業（開発担当）	・消費税増税前の駆け込み需要が期待される。		
		企業広告制作業（経営者）	・参議院選挙までは景気回復のムードは続くと思われる。メディアによる報道の影響が大きい。		
		経営コンサルタント	・円安、株価高による効果が、日銀によるETF（上場投資信託）、リート（不動産投資法人投資口）等の買上によって今後も続けば、景気が持ち直すかもしれない。		
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・短期や長期の案件があって、当面忙しい。		
		変わらない		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・景気回復への期待感ばかりが大きく、実態として回復とはほど遠い状況は、あまり変わらない。
				化学工業（人事担当）	・企業の業績が良くなっているといっても為替相場の影響で今後どのようになるか分からない。給与についても大幅に昇給した会社はわずかである。それらの動向次第で上にも下にも動くので、変わらないと見込んでいる。
窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工数の推移による。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		鉄鋼業（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・秋口から仕事が出るという「噂」はあるが、具体的な仕事が決まっているわけではなく、客からは「先がみえない」という声しか聞こえない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いも少なく、それほど変化はないと考える。
		金属製品製造業（従業員）	・今年度の物件動向がまだ見通せないの、楽観はできない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・上半期は、受注量、販売量とも高めの水準を維持しながら推移している。
		電気機械器具製造業	・大企業ではこの夏のボーナスが前年比大幅増との報道が多いようだが、中小では大幅減あるいはゼロのところも見受けられる。経済の実態として、現段階では景気が良いとはいえないのではないかと。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新規の金型等の話も客先から聞かず、ここ2～3か月では状況は変わらない。為替がまだまだ不安定で、今後の相場次第でどう転ぶのかが分からない。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・客先の生産スケジュール上、しばらく上向きが続く。
		建設業（営業担当）	・下水道の整備が進めば浄化槽等の仕事が減ってくる。減少するなかでどれだけ仕事ができるかであり、今は上向き下向きの判断はできない。
		輸送業（経営者）	・発注をみると、景気の上向きを当て込んだものがない。
		輸送業（従業員）	・景気好転ムードが沈静化し回復の実感が伴っていない。トラック業界は、燃料価格の高止まりで苦しい経営が続いている。燃料価格の荷主への転嫁が、一部荷主までにとどまっている。先行きが全く不透明である。
		輸送業（エリア担当）	・主要な客先によっては異なるが、荷動きがなぜか緩慢で、耳よりで良い話は聞こえてこない。
		輸送業（エリア担当）	・売上が伸びる会社は、これまで円高の影響を受けていたところだけで、輸入企業では無理である。一方で、輸出は伸びてこないため国全体の利益は上がり、いかに支出を削るかで四苦八苦している現状である。どの会社でも利益を生むのではなく削り出すことを続けている。
		通信会社（法人営業担当）	・3本の矢・成長戦略が効果を発揮するのはまだまだ遠い先と感じる。それにもかかわらず、年明けの消費税の増税、景気が回復する前に直接家計に響く諸物価の上昇などが心配される。
		不動産業（経営者）	・アベノミクスといわれているが、具体的な効果と身の回りへの波及は感じられない。一時的な経済イベントに終わらないように願いたい。
		不動産業（管理担当）	・名古屋駅前地区の開発案件が多くなっており、事務所の引き合いもあるが、これ以上は開発案件が増える見込みがない。
		広告代理店（制作担当）	・景気が良いのは一部の企業だけで、数か月後の新規受注の予定もあまり出てきていない。
		行政書士	・全体的には変わらないと思うが、建設資材や住宅部材を運ぶ業者は、名古屋駅周辺の建設などで年内は忙しいとっている。
		公認会計士	・住宅ローン金利などの長期金利が上がり始めると、中小企業の金利負担が増加し、一段と収益性が厳しくなる。また、円安による原材料高や燃料高が中小企業の収益性を悪化させる。
		会計事務所（社会保険労務士）	・株や為替の動向に一喜一憂しながら、堂々巡りが続いている。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・受注量は上がったたり下がったりの繰り返して推移しそうな気がする。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・全体的には金融緩和によって安心感と株価高をもたらす良い環境が続くが、利益が出るのはまだ先で、給料が上がるには、まだまだ半年以上の時間が必要である。
やや悪くなる		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・中部地区では段ボールの販売競争で価格低下が見受けられる。取引先からの見積り依頼もその多くは既存製品の価格見直しであり、新規品の見積り依頼は少ない状態である。
		印刷業（営業担当）	・自分の会社、協力会社、客先のすべてが悪い状態である。末端をみると相当良くない。ここに目を向けず、何をもって景気が良くなったかといっているのか分からない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・円の先行きが不透明で悪化の方向が考えられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業 (経営者)	・取引先の景気見通しがあまり良くなく、受注量が減り、売 上が落ちる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		新聞販売店〔広告〕(店主)	・スマートフォンの普及も一因として、若者のネット社会に新聞は対応しきれていない。新聞から情報を入手しようとする人は確実に減っている。		
		会計事務所(職員)	・最近の景気動向は、政府の誘導策だけでなく世界の状況に左右されるようになってきている。中小企業にも直接影響するわけでないが、大手企業を通じて余波を受けることは確実である。		
	悪くなる	—	—		
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社(営業担当)	・急激な株価上昇があったため売りが先行するなど変動はあるが、取引先の見通しには、緩やかな上昇を期待する発言が多い。		
(東海)	やや良くなる	人材派遣会社(経営企画)	・関東の自動車系顧客で、凍結していたプロジェクトが再開しつつあるとの情報等がある。		
		人材派遣会社(社員)	・NISA(少額投資非課税制度)需要に関連した証券業界の活況が見込まれる。		
		アウトソーシング企業(エリア担当)	・為替の影響を受けるが、今後も状況的には良い方向に進むと予想する。		
		職業安定所(職員)	・新規求人は前年同月比で少し増加している。事業主都合による離職者も減少を続けているため、時間はかかるが少しずつ良くなる。		
		職業安定所(職員)	・前年と比べ、新規学校卒業者の求人予定の事業所も多くなっており改善が見込まれる。		
		職業安定所(職員)	・求人数が増加傾向にある。		
		民間職業紹介機関(営業担当)	・期待を込めてであるが中小企業の支援がキープポイントと考えられる。中小企業では景気の回復はまだ実感できておらず、今後の中小企業の動向が、全体的な景気回復を左右すると考える。		
		学校〔専門学校〕(就職担当)	・語学等に特化した学部・専攻の出身でも一般採用されるケースが増えている印象があり、底上げ的な雇用回復の兆しを感じる。		
		変わらない		人材派遣会社(経営者)	・ハローワークに求人を出しても、求職者が出てこない。Webで広告を出しても、応募者は40～50代が多く、求人とのミスマッチが続いている。
				人材派遣会社(社員)	・2～3か月先の予約状況があまり良くない。例年に比べても良くない。
人材派遣会社(社員)	・求人企業の正社員採用(中途採用)は引き続き堅調に推移している。				
人材派遣会社(営業担当)	・自動車関連など製造業での特需でここしばらくは増加したが、先行きは横ばいであろう。				
人材派遣会社(営業担当)	・期待につながるような大きな材料があまりない。				
新聞社〔求人広告〕(営業担当)	・唯一良かった株価も下がり(戻り)、中小企業には恩恵はなく、消費税増税や商品値上げなどマイナス要因も多く不透明で危険な状況といえる。				
職業安定所(職員)	・新規進出企業からも充足可能性の相談がある一方で、20～30人規模の企業整理についての相談もあり、景気が上向くと判断するには、今しばらく様子を見る必要がある。				
職業安定所(職員)	・景気動向は一部で改善との報道はあるものの、中小零細企業については、まだまだ仕事量の増加に至ってはいない。				
職業安定所(職員)	・株価と為替が少し落ち着いている状況ではあるが、製造業の求人伸びがみられない。参議院選挙の結果によっては状況が変わる可能性もあり、様子見であると思われる。				
職業安定所(職員)	・求人数が伸び悩んでいる。また、正社員の求人数も増加していない。				
やや悪くなる		民間職業紹介機関(営業担当)	・転職希望者の動きはそれほど大きな変化がみられず、求人企業とのミスマッチがあり、採用数が増えてきている感がみられない。		
		人材派遣会社(支店長)	・身の回りの景気としては、客先のシステム更改プロジェクトの終了と直近3か月に派遣契約から直接雇用への切替えが発生するため、やや悪化することが予想される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる	住宅販売会社（従業員）	・今後の販売額が一定量読めていること、また、来場や問い合わせなどの客の動きも増えている。9月までは確実に販売額は増えそうである。今後の反動減までに、取れるだけ取ろうと宣伝広告に力を入れている業者も多く、客もそれに動かされている。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・前月に引き続き、フリー顧客による高額商品の購入が継続しているため、今後2～3か月先はやや良くなると思われる。
		百貨店（営業担当）	・今年の夏季賞与関係も、前年よりは若干上乘せというところも出てきており、また、客の買い方自体が、今までの価格ありきというところから、多少良いもの、多少ぜいたくをしたいといったような思考が見受けられる。したがって、今後は客の単価も上がり、販売件数も増えるような予測が立てられる。
		スーパー（店長）	・周りの競合店の状況を考えると、現在の体制になって1年が経過し、この環境の中で今までの数字を踏まえると上向きになってくるものと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・期待を込めてやや良くなる想定している。福井県と、富山県や石川県の客の比率は、実績からみると9対1くらいである。石川県や富山県の客の方が反応やフットワークが良く、素早いと感じている。福井の客は成り行きを任せていると感じている。
		家電量販店（店長）	・季節的要因もあるが客の買上率が高く、単価も前月より上がっているため、今後2～3か月先の状況はやや良くなる予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の波及や消費税率引上げの要因により、少しずつ販売量が増えていくと思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・低気温や天候不順などによる5～6月の衣料品の買い控えの振り戻しで、バーゲンセール期間の売上に期待が持てる。消費税率引上げ前の大型駆け込み消費や秋以降の一時的な販売量の増加も想定される。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数がやや増加していることもあり、景気は上向きつつあるのではないかと感じている。
		旅行代理店（従業員）	・アベノミクス効果が表れてくる。
		タクシー運転手	・景気が上向いていくかどうか不安であったが、ここへきて上向きが実現するだろうという期待が大きくなっている。
		美容室（経営者）	・6月の現況が続いてほしいとの願望も含み、今後2～3か月先の状況はやや良くなる予想する。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要により、やや良くなると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・商談件数の契約までの期間が早くなってきている。確実に受注増加が見込める環境になってきている。
	変わらない	商店街（代表者）	・アベノミクスの影響はみられず、デフレ傾向は根強い。
		商店街（代表者）	・郊外に県内初出店の大型ディスカウント店がオープンしたが、連日にぎわっているようである。まだまだ地方では、低価格商品の売上が主流と思われる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数や客単価も増えてきているが、来月には参議院議員選挙もあるため、今後2～3か月先の状況については、今のところどのようになるかはまだ分からない状況である。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・7月には参議院選挙があるため、同月は今月に引き続き、人の動きが鈍くなる。
		一般小売店〔事務用品〕（役員）	・われわれの仕事は景気が良くなった時に、物が売れるといった業界であるため、2～3か月後には、まだそのようなところまではみえてこないように思われる。今年度末において、そのような需要見込みがあればいいと考えながら日々営業をしている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔書籍〕 (従業員)	・変わらないというか、分からないというのが現状である。 今後の政府の動向次第で、良い方、悪い方どちらにも転がり そうに思える。それだけ今の政治の影響は大きいと感じる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・クリアランスセールの上立ち上がりからやや苦戦しているため、今後2～3か月後に今よりもいい状態になるかは、今の状況からはとても考えづらい。
		百貨店（一般顧客訪問担当）	・来客数は変わらないと思われる。
		スーパー（店長）	・景気は上向きといわれているが、食品販売関連ではその傾向は感じられない。原料高の影響もあり、現実には変化が無いものと考えている。
		スーパー（総務担当）	・飼料の値上げの影響により、既に仕入原価が前年同月より値上がりしている精肉のような値上げ予備軍の価格が高騰する場合には景気が悪くなると思われるが、今までの推移から、2～3か月後の状況は変わらないと想定される。
		スーパー（店舗管理）	・一般消費者の所得がなかなか上がらないなか、現状よりさらに景気が上がるとは考えられない。
		コンビニ（経営者）	・新商品のファーストフードの中には好調な商品もあるが、単独の物だけであり、全体的に売上を引っ張るような商品は無く、客単価および来客数の下落が止まりそうな感じがしない。
		コンビニ（経営者）	・この業界は、夏は特に天候に左右されるので、イベントのある日に好天に恵まれるかどうか勝負となる。今後2～3か月はそれに尽きるため、分からないといった方が本音である。
		コンビニ（店長）	・ここ数か月売上は変わらないが、利益率が前年同月を下回っている。その反面、来年は最低賃金の引上げなどにより人件費の負担も増えると予想される。身の回りでは外的要因や売上などの変化がほとんど無いにもかかわらず、利益率が悪くなったことにより、前年同月に比べて資金面で苦労している。コンビニは弁当やおにぎりなどの食料品やたばこなどの嗜好品の利益率は良くはなく、そのような商品の売上が減少せず、利益率の高い雑貨品や飲料の売上が減っている。雑貨品などはコンビニで購入するよりディスカウントショップで購入する方が安いので、そちらに流れているのではないかと感じている。こうした状況は今後2～3か月先も変わらないと予想される。
		コンビニ（店舗管理）	・輸入食材がこぞって値上がり基調である。売価への転嫁もできず、泣くしかない状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の回復が確実なものとは思えず、まだまだ不安要因が多く、客は買物に対して、慎重に構えているものと思われる。
		衣料品専門店（総括）	・我々の商売は一般の客をターゲットとしている。自分も含めてであるが、まだまだ賃金が上がるなどの傾向が肌で感じられない。
		家電量販店（店長）	・前年からのテレビの落ち込みも、4Kテレビ効果で売上をカバーできるようになりそうである。
		家電量販店（管理本部）	・給与を含む消費者購買力が向上した様子を感じることはできない。
		乗用車販売店（役員）	・参議院通常選挙の結果にもよるが、今年後半の景気動向は上向き傾向になると思っている。来年4月導入予定の消費税率の引上げなどもあるため若干の上下は想定され、景気の動向は上向き加減が求められているが、今後2～3か月先の状況は変わらないと予想される。
		自動車備品販売店（従業員）	・チラシセールでも計画の集客が見込めない状況で、来客数も減少しており見通しは暗い。
		住関連専門店（店長）	・消費者の給料自体が上がっていかないと、根本的な改善にはつながっていかない。新築需要も一時的だと考えられ、その後は恐ろしい状況になることも予想される。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気が良くなってほしいが、良くなる気配が無い状況が続いている。我慢することが必要だと思っている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・日頃の消耗品の売行きからみると、安い商品が売れているので、このままでは景気は変わらないと予想する。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・買上点数は多いが低価格品中心となっている。また、新商品はリニューアルが中心であり、新たな需要は期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・法人利用の減少を、シニアプランや女性向け飲料の充実などの個人利用の増加により補う営業を行っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店長）	・今月の動きが来月以降も継続するかを見極める必要がある。
		観光型旅館（経営者）	・前年は東北支援や東京スカイツリー、今年は伊勢神宮や富士山の世界遺産登録などがあり、旅行者の目が北陸に向いていないように思われる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は、7月、10月、11月は前年同月比92～97%となっており、それ以外の月は115～117%で推移している。したがって、上半期は前年を上回るが、下半期はまだ不透明な状況にある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・前年のように大型のコンベンションは無いものの、予約は好調を維持している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今月の様子をみていると、先の状況をなかなか読み切れない。
		旅行代理店（従業員）	・出雲大社や伊勢神宮の遷宮、東京スカイツリー開業1周年、歌舞伎座開場、富士山世界遺産登録とイベントが目白押しで環境が整っているが、団体の企画見積提出依頼および受注数が止まっており、まだ何も変わっていない。
		タクシー運転手	・夜の繁華街を中心として利用客が増えてこないのでもまだまだ厳しいように思う。
		通信会社（職員）	・依然として様々な不安材料を抱えており、現状より大幅な改善は期待できないとの意見が大勢を占める。
		通信会社（社員）	・ちまたでいわれているアベノミクスの効果については、もう少し先になると考えている。特に地方においては、より時間が掛かると思われる。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売や夏商戦に入り、ある程度の販売量の増加は見込まれるものの、起爆剤が少なく季節変動の範囲内と考える。
		通信会社（役員）	・スマートフォンやタブレット端末の普及により、動画視聴環境が多様化しているなかで、自宅リビングにおいてテレビを見る機会が減少傾向にあり、多チャンネル契約の減少につながっている。
		通信会社（営業担当）	・在庫状況は改善してきたが、販売状況が改善するような商品力が無いため、今後2～3か月先もこうした状況は続くと思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・購入意欲はあるが個人所得は上がらず、購入者の範囲に限られるため、購入にも限度があるのではないかと思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・今月同様、駆け込み需要により住宅を計画している客が存在すると思う。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・ますます客の駅前へのシフトが加速しているため、今後2～3か月先の状況はやや悪くなると予想される。
		スーパー（総務担当）	・円安の影響で燃料費、食品などの値上げがこれから発生するため、景気の先行きは見通せない。
		スーパー（統括）	・近年、北陸においては、コンビニエンスストアやドラッグストアの素早い出店があり、現状も当該状況が続いている。そうした異業種間を超えた食品関係の競争が激化するなかで、客においては、利便性や価格により業態を分けて買物をしていることより、食品スーパーは厳しい状況になると思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・6月に入りショールームへの来客者数が減り、新車の受注も減少しているため、今後2～3か月先の状況はやや悪くなると予想される。
		スナック（経営者）	・国家間の関係が変化しつつあるため、油断を許さない気配を感じるとともに、客自身も支出が増えているため、明るさを感じられない。
		競輪場（職員）	・近隣に別競技の公営競技発売施設がオープンしたため、売上が分散すると予想される。
		その他レジャー施設（職員）	・夏休み特別教室への参加者が伸びなければ、当然、夏以降の会員増は期待できず、下期の売上に大きく響く。
		悪くなる	—
企業動向関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・現在の為替水準が続けば、下期に向けて純輸出の拡大が期待できる。
		繊維工業（経営者）	・輸出の引き合いがあり、為替さえ安定すれば先行きに期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（総務担当）	・今後受注量が増える予定であり、増産体制に入る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・年末に向けて3～4か月後には消費税率引上げの影響が出るかもしれないので、当該時期の状況はやや良くなると予想される。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・国内では、「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業費補助金」の承認が終わり、本格的な受注が出てくる。北米や欧州からの引き合いが増えており、受注が期待できる。
		建設業（経営者）	・アベノミクスの2本目の矢の財政出動や公共事業の増加への期待は、4～6月は例年と同様に年度初めの設計段階から先に進まず、肩透かしを食らった感じであった。しかし、公共事業費の全体予算は増えているため、7月以降、発注者は施工者に負担を押し付けないように計画的に工事を発注し、ワンデーレスポンスで着実に工事が施工され、工期の短縮が図られることにより、経済効果が発揮されるように、多少はなると想定される。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・来年の消費税率引上げに向け、駆け込み需要が予想できるが、一過性のものとみている。
		司法書士	・住宅関連のほか、会社設立の相談および営業目的や役員追加の相談が増えたため、今後2～3か月先の状況はやや良くなると予想される。
		税理士（所長）	・食料品や小物を中心とした小売業関係において、円安の影響を受け輸入価格が上がってきているが、販売価格への転嫁が難しい面がある。今後個人消費が大きなカギを握っていると思う。関与先でも販売業の低迷がまだ目立っているが、今年の夏の賞与がこれから出てきて、いい形で伸びてくれば、春闘でも賞与のアップが期待されているので、個人消費に良い影響を与えると思っている。
		変わらない	金属製品製造業（経営者）
一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量は大きく減ることは無いと思うが、原材料価格の上昇など利益圧迫要因が出始めている。		
建設業（総務担当）	・官公庁工事の発注量が増加傾向にあるが、技術者の早急な確保が困難であることから、入札に応募することが難しく、現状維持が限界である。		
輸送業（配車担当）	・今後、極端に現状が変わるとは思えない。		
通信業（営業担当）	・同業者による活動が活発化しており、市場が狭まっているように見え、こうした状況は今後2～3か月先も変わらないと想定される。		
金融業（融資担当）	・これまでの景気の上向きは、期待感によるものが大きいと思われる。実体経済が更に上向きになるには、もう少し時間が掛かる。		
やや悪くなる	食料品製造業（役員）		・当業界の外部環境は円安による素材価格や燃料費関係の高止まりが続いており、かつ今まで据え置かれていた素材品目でも値上げの要請がきている。しかし、最終製品価格については流通の動向をみると値上げを行なえる状況にはなく、このままでは収益に影響を与える状況になりそうである。
	精密機械器具製造業（経営者）	・当社の生産量はほぼ横ばいの予定であるが、当社の取引先の材料や部品のサプライヤーの話では、全体的な受注量はかなり低水準であり、少なくとも例年増産時期になる2～3か月先までは、かなり厳しい状況が続くと予想しているメーカーが多いようである。	
	不動産業（経営者）	・この先については期待感があつたような気がしたが、いろいろと皆さんに何うとそれほど忙しくなくなるという話が多かった。	
悪くなる	—	—	—
	雇用関連	良くなる	—
(北陸)	やや良くなる	○	○
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・専門職や経験豊富な人材が求められているなかで、求職者とのマッチングが厳しく、今後2～3か月先もこうした状況は続くと思われる。
		人材派遣会社（社員）	・足元の景気が回復している一方、先行きの見通しは不透明であると客先から聞かれる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・従業員の大量採用などの話が出てこないため、今後2～3か月先の状況は変わらないと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	・求人広告の広告主との会話のなかでは、まだまだ景気の上向き実感を得られているところが少ない。ただ、県内では新たな求人媒体の進出などもあり、こういったところに求人広告が分散していることも考えられる。全体として、求人広告の数は増えているとの話もあるが、今後景気が目にみえて良くなるかはまだまだ不透明である。
		職業安定所(職員)	・新規求人は増加傾向にあるが、希望者の多い製造業の求人の伸びが少なく、販売やサービス関係の求人が多くを占めている。
		職業安定所(職員)	・今月の新規求人数は前年同月比11.3%増加した。求人事業所からは人手不足、燃料高および原料高などの声も聞かれる。また、製造業の求人は同28.5%減少し、忙しくなるのはまだ先になるという声が聞かれる。この流れに変化は無いように思われる。
		職業安定所(職員)	・アベノミクスによる効果が表れるのは、まだまだ先と考えている企業が多い。
		民間職業紹介機関(経営者)	・県内の医薬品業を除いて、製造業における生産増の情報あまり無い。求人が活発になる時期は、まだ少し先になると思われる。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

7. 近畿(地域別調査機関：りそな総合研究所(株))

(-：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる	コンビニ(経営者)	・梅雨も明け、3か月予報では猛暑といわれているため、飲料水やアイスクリーム、クールめんなどが売れる見込みである。
		コンビニ(店員)	・今年は例年よりも気温が高くなると予想されているため、飲料やアイスクリームなどの売上増加が見込まれる。
		都市型ホテル(客室担当)	・夏休みの予約状況も好調で、前年比で40%増となっている。ボーナス支給時期も近づき、今後は本格的に夏の旅行の動きが出てくる。
		通信会社(社員)	・新しいセットトップボックス(受信装置)を使った新サービスを検討中であり、これらのサービスが新たな顧客層の刺激につながる。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕(管理担当)	・これからギフトシーズンに入るので、法人関係が良くなっているとすれば、少しは上乗せが期待できる。
		百貨店(売場主任)	・近隣の市では政策として、65才以上の人に対して、今までは5と0のつく日だけが100円でバスを利用できたが、平日が100円と変更になる。それによって来客数が増え、食料品を中心に上向きになる。
		百貨店(サービス担当)	・今後も来客数の増加は期待できるが、2回、3回と来店してもらえる環境づくりと、催事などの強化が課題になる。
		百貨店(店長)	・政権の安定化により経済の安定化が見込める。
		百貨店(マネージャー)	・政治経済の安定化が徐々にみえてきたほか、消費税率アップの前に消費が活発になるとの声が、店頭で聞かれ始めている。
		スーパー(社員)	・今年は例年よりも天候が安定しており、夏物衣料・雑貨・飲料などの売行きが堅調である。イベントやチラシへの反応も良いなど、客の購買意欲の高まりが今夏の消費増につながる。
		コンビニ(経営者)	・プレミアム商品はまだまだ売上が伸びる可能性が高いと思われ、客単価の上昇が期待できる。
		コンビニ(広告担当)	・公共料金の値上げや物価の高騰などもあるが、アベノミクス効果で少しは良くなるように期待したい。
		家電量販店(店長)	・消費増税により、冷蔵庫・洗濯機・エアコンなどの生活必需品については、事前の買換え需要が発生する。
		家電量販店(企画担当)	・暑くなってくるため、販売の増加につながる。
		乗用車販売店(経営者)	・賞与などが前年よりも少し増えるようなので、個人消費に回ることを期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車の発売では売行きも好調で、まだこの波は続きそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・梅雨が明ければ、お盆休みまでの間に、客足が回復する。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・1品単価は下落が続いているが、客単価は戻ってきており、売上が伸びている。
		観光型ホテル（経営者）	・イベントの多い時期に入るため、人の動きが出てくることを期待している。
		観光型旅館（経営者）	・夏休みは格安航空会社（LCC）を利用して、安近短ではなく、安遠短か安遠長の旅行が増える傾向も考えられる。
		都市型ホテル（総務担当）	・法人による宴会の開催件数が増加傾向にある。また、客室の予約率も高水準を維持している。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行が増加している。
		タクシー運転手	・もう少しすると梅雨のシーズンも明けて、暑い時期に入ってくる。夏休みになり、タクシーの利用が昼間にも増える。夜についても上向きの雰囲気が三宮近辺やホテルで見受けられる。これから暑い時期になるとタクシー業界は上向く。
		タクシー運転手	・企業関係のハイヤー予約が安定して増加傾向にあり、一般客も増加しているなど、全体的に回復感がある。
		通信会社（企画担当）	・現状の期待感が実体経済に波及することを期待している。
		観光名所（経理担当）	・3月のリニューアル効果が持続し、今月も好調である。このまま秋口まで販促や広告を行いながら持続させたい。
		観光名所（経理担当）	・今月は梅雨入りした割に、中頃まで天候は良好であったが、中々売上は思っているほど伸びていない。例年のように中高生の団体やPTAのグループ、大学のサークルの客が多く来場し、ガラス作りの体験教室にもぎわっているものの、物販の方はまだ少し売上が厳しい。景気の回復は掛け声だけで、実感はまだまだ乏しい感がある。一方、バスツアーの客よりも、電車や自動車で来る客の方が多くなっており、営業面ではありがたい傾向がみられる。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージのため服を脱ぐので、毎年暖かい時期になると来客数が増えるため、良くなる。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・景気の先行きに対する期待感が高まっているため、生命保険の加入を検討する客は増える。
		住宅販売会社（総務担当）	・今後、ますます消費増税が近づくにつれて契約量が増える。
その他住宅〔展示場〕（従業員）	・消費増税の関係で、現行税率が適用となるのは注文住宅で9月末までの契約という条件があるため、それまでは契約数が増加する。		
変わらない		商店街（代表者）	・アベノミクスもあり期待が先行しているが、地元企業においては給料アップやボーナスの話があまり聞かれないなど、動きが悪い。
		商店街（代表者）	・百貨店や商業施設の間では、売上の先取り化が進む。マーケットが縮小するなかで競合の激化も進むなど、悪循環が続くため、どこも厳しい状況である。
		商店街（代表者）	・近隣に大手スーパーが乱立しており、なおかつ新規オープンもあるため、前途多難である。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・顧客の様子からみて、まだまだ経費を抑える傾向があるため、良くなる兆しがみえてこない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・少しだけ状態が上向いたまま推移している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今月の売上の状態からみても、来客数と売上のどちらも伸びることはない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・本格的な夏になると、衣料品の売行きが悪くなる。景気が停滞しているとは思わないが、上向いているという実感を得るにはまだ至っていない。参議院選挙後にどのような動きになるかは分からないが、大きな変化があるようには感じられない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・アベノミクスの効果もまだまだ末端には届いていない。
		一般小売店〔自転車〕（店長）	・仕入商品は徐々に値上がりしているが、客は少しでも安い物を選ぶ。状況はずっと変わらないため、まだまだ景気が上向くようには思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔酒〕（社員）	・大阪地区に関しては、梅田地区、阿倍野地区での商業施設の開業というトピックスはあるが、其他地区の物販部門では景気の回復による売上の増加は見込めない。また、輸入関連では円安の影響が大きく、値上げが必須となるなど、厳しい環境が想定される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔コーヒー〕（営業担当）	・各地で飲食店の新規出店があり、やや盛り上がりを見せているが、これが継続するかどうかは楽観視できない。一過性の好調ではなく、シーズンを通した需要があるかどうか注目したい。
		百貨店（売場主任）	・富裕層を中心に引き続き高額品の消費の伸びが期待できるものの、食料品やガス料金などの生活必需品の値上げや、収入の増加も部分的であることから、大きな景気の好転は期待できない。
		百貨店（売場主任）	・参議院選挙までは好調が維持できそうである。
		百貨店（企画担当）	・今年に入ってから同業他社との競合は激化しており、今月の状況から好転するとは思えない。自店に関しては、景気好転による売上増というプラスと、競合激化によるマイナスの両面を抱えており、当面は現状維持となる。
		百貨店（企画担当）	・アベノミクス効果が、そろそろ落ち着いてきているように感じる。株価、為替も上げ下げはあるが、一定の水準で安定し始めているように感じる。
		百貨店（営業担当）	・富裕者層の中でも、下のランクの顧客も徐々に高額品を買うようになり、買うまでのスピードは遅いものの、そろそろ出てくる。値上げ前の駆け込み需要にも期待できる。
		百貨店（営業担当）	・セール期間が前倒しとなるため、7月は厳しくなると予想されるが、全体的には今の傾向が続く。
		百貨店（売場マネージャー）	・株価や為替の動向にも左右されると思うが、一般消費者の動きは依然として慎重である。特に、衣料品はトレンドにもよるが、増加傾向ではなさそうに見える。
		百貨店（売場マネージャー）	・アベノミクスの行方を様子見している感が強い。ボーナスが増えた企業は一部にとどまり、世間一般も全体的に様子見となっている。
		百貨店（商品担当）	・高額品は好調であるが、一部の富裕層を中心にした動きであり、全体的に好調とは言い難い。
		百貨店（服飾品担当）	・店頭動きは今月に入ってやや弱含みになってきており、株価や為替の激しい動きなど、不安定な要素が反映されている。ただし、決定的に悲観的な要素もないことから、横ばいで推移する。
		百貨店（外商担当）	・株価が乱高下しているため、消費者心理も不安定になっていると考えられるが、来客数、売上共に前年を上回る状態が続いている。景気そのものは底堅く、このような状態がしばらく続く。
		百貨店（商品担当）	・景気回復の所得への波及や、来春の消費税率アップをにらみ、年末にかけて消費は安定する。ただし、不安定な株価や円相場といった不安材料もある。
		スーパー（経営者）	・厳しい競争がしばらく価格のみならず、様々な意味で続く。大型店ができたことで、近隣との競争が一段と激しくなってきた。
		スーパー（経営者）	・輸入関連商品の値上げ情報が入ってきている。景気動向に与える良い要素、悪い要素が交錯していて、どう動くのかが予測しにくい状況である。
		スーパー（経営者）	・周辺では残業が増えたという話や、賃金が増えそうだという話があり聞かれず、商品の値上げが先行する。ただし、家庭内に在庫がある商品の価格転嫁は簡単には進まないと思われ、収益圧迫の懸念が高まっている。
		スーパー（店長）	・輸入関連商品の価格上昇が、じわじわと押し寄せる。また、ボーナスも一部の大手企業を除いては良い状態になく、いったん上向いた購買意欲も減退する。また、来年の消費税の増税に向けて、消費者の商品に対する見極めは厳しくなるため、それに対応して販売方法をどの程度変えられるかが、企業ごとの好不調の境目になる。
		スーパー（店長）	・外的要因によるプラスが見込まれる一方、当店を取り巻く環境は依然として好転しているとはいえない状況が続いており、現状から大きくプラスに向かうとは思えない。
		スーパー（店長）	・例年、晩夏・初秋期は購買意欲が高くない時期であり、現状維持であれば良い方である。
		スーパー（店長）	・競合店の出店計画が多く、業界は競争が激しくなる。来客数は維持できても、買い回り客が多くなって単価が上がらないため、厳しい状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・店頭で感じる客の購買動向は依然として堅実で、大きく変化する気配が感じられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経理担当）	・気温や天候に左右される部分も大きいですが、消費の地合いは悪くない。バーゲンやイベント、販促策への反応も良くなってきており、仕掛けの工夫により需要を引き出せる状況になりつつある。
		スーパー（広報担当）	・消費の傾向はしばらく変わらないと予想しているが、原料価格の値上げなどの懸念材料がある。
		スーパー（販売担当）	・競合先との価格競争もあり、商品単価が下がる傾向にある。商品単価が下がっている分、客の買上点数が増えても、売上トータルとしては昨年の金額に達しない傾向が続いており、今後もこの状態が続く。
		スーパー（開発担当）	・政府の景気対策は効果が出ているとは思えない。株価も為替も落ち着いてきているほか、中小企業で働いている者としては、状況にあまり変化はない。
		コンビニ（店長）	・為替や株の動きをみると、大きな意味での経済は動いているようだが、身の回りに関してはほとんど何も変わっておらず、今後3か月ぐらいでは変化が表れない。
		コンビニ（店員）	・気温の上昇に伴ってアイスクリームや飲料の販売数は増えるが、パンや弁当は落ち込みそうである。全体的に売上が伸びることはない。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・まだまだ消費者は出費を控えようとしており、低価格品を求めている。
		乗用車販売店（経営者）	・製造業と小売業に分けると、小売業は上り調子ではない。
		乗用車販売店（経営者）	・新車購入、車検の予約が少なく、すべての仕事の受注量が少ない。
		乗用車販売店（販売担当）	・アベノミクス効果が社会に波及し、客である中小企業の社長などの景況感が良くなれば、輸入車の販売量も増加する。
		乗用車販売店（販売担当）	・受注台数も前年並みであり、新しい材料にも乏しいため、しばらくはこの状態が続く。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・為替の変動と株価の乱高下は続くと思われるが、金の価格は高いままとまっているため、宝飾業界としてはこのままで推移する。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・梅雨が明けると、殺虫剤や日焼け止め、制汗剤、飲料水などの動きが良くなる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・新規店の営業状況次第である。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・参議院選挙後の株価次第でムードが変わる。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・先日決まった皇室用のティアラを製造するメーカーでは、売上が増加するかもしれないが、ティアラ自体は実用性があまり高くないため、便乗販売は難しい。
		高級レストラン（支配人）	・季節変動によって観光客が増えても、特に外国人旅行者はレストランでの消費行動には結びつかない。
		一般レストラン（経営者）	・賞与支給額も中小企業では改善されず、生活感としてはまだ楽観視できない状況にある。
		一般レストラン（経営者）	・生活食材の値上げなどで財布のひもが固くなり、外食の機会は少なくなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・株価が上昇し、消費がやや活発になっているが、景気好転の実感はあまり感じられない。今後は、このままずっと上向き傾向が続くとは思わないが、一気に落ち込むこともない。
		スナック（経営者）	・企業関係の客というよりも、個人営業の客が来店しており、前向きな雰囲気を感じる。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・企業業績には先行きの不透明感が強く、賞与なども増えにくいいため、期待感はあるが財布のひもは固い。株高などで一部の高級品の販売量が伸びているとも聞くが、日常の喫茶需要にはその恩恵は感じられない。
		観光型ホテル（経営者）	・消費の第一線を占めるような業種については、アベノミクスの効果は表れてきていないので、大きな期待は持っていない。
		都市型ホテル（支配人）	・株価の乱高下や、不安定な為替相場など、現在の景気も本物ではない。円安による原材料価格の高騰、梅田地区、阿倍野地区の商業施設のオープンによるオーバーストアのほか、雇用情勢の悪化などもみられる。また、パートなどの定時社員が採用しにくい状況であり、時給が上昇しているため、企業収益も圧迫される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・梅田地区の商業施設の開業と共に、大阪駅周辺の宿泊施設の稼働率が上がっている。本町エリアの需要も高まってきているが、婚礼部門の収入は落ち込んでおり、低予算での婚礼を希望する客が目立っている。一方、宴会部門では定例開催の会合に加え、講演会、会議の予約が戻ってきており、予約率が上昇している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の先行予約は好調であるが、直近の宴会や会議は低価格化が進んでおり、収支が合わなくなってきている。食堂も食材原価が軒並み値上がりしており、7月から部分値上げを試みるが、動向は不透明である。一方、宿泊は予約の間際化が顕著であり、先が読めない。
		都市型ホテル（マネージャー）	・先の予約状況は、特に大きな特殊要因もなくほぼ前年並みに推移しており、宿泊、宴会共に間際需要がどれだけ伸びるかが大きなポイントとなる。間際需要についても、現状から極端な増減があるとは思えない。
		旅行代理店（経営者）	・円安となっていることで、下半期の海外旅行の価格が上がる懸念もあり、中国、韓国向けの改善も期待できないなど、海外旅行の先行きが不透明である。国内旅行の好調で、合計では前年を上回ることを期待している。
		旅行代理店（店長）	・旅行に関しては、それほど単価が上がっているようにも思えない。来客数は多くなっているが、景気が良くなっている感じはなく、旅行や余暇に関する予算はまだ増えていない。
		通信会社（経営者）	・地方経済や一般消費者といった、実体経済の回復にまでは至っていない。
		テーマパーク（職員）	・企業が業績を上げて、国際社会での日本経済の地位が上がっても、給与所得者の所得が増えるわけではないが、現状は成長している実感があまりない。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況を考慮すると、特に良くも悪くもなく、これから急変することも考えにくい。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の交流戦は終わったが、夏休み期間中に6試合が予定されているほか、コンサートも開催されるので、多数の来場を予想している。
		美容室（経営者）	・周囲で閉店の動きが増え、売上も伸びず、気持ちが落ち込むことが多い。様々なアイデアを出してキャンペーンを行っても変化がないなど、今は静観の時かもしれない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・まだまだ現状は景気回復とまではいえないため、少し明るい兆しが出てきた状況を維持し、今後に期待したい。中国経済が悪化するリスクも控えており、企業、投資家にとっては不安材料も多い。ただし、何とか様々な問題をクリアして状況を好転していかなければならず、この踊り場を乗り越えれば、少しずつ景気は良くなっていく。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕 （エリア担当）	・書籍の売上は順調な推移となってきているが、全体的な売上は、まだまだ前年割れが続いている。
		住宅販売会社（経営者）	・消費増税前の受注から、増税後の住宅ローン減税に焦点を置いた受注にシフトしつつある。本格的な景気回復とはいえないが、徐々に閉そく感から解放されつつある。
		住宅販売会社（経営者）	・現状を当面維持していく。
		住宅販売会社（経営者）	・経済政策の効果がまだ表れているようには思えない。目に見えて景気が回復しているという安心感が得られなければ、良くならない。
		住宅販売会社（従業員）	・足元ではアベノミクス効果への期待感は薄く、現在の状況が継続する。
		住宅販売会社（従業員）	・分譲予定のマンションに対する事前の問い合わせが増えており、しばらくの間は好調な状況が続く。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・実際のところ、実体経済が良くなっているかどうかは疑問である。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・マンションの施工コストの上昇により、販売予定価格を上げざるを得ない状況が少しずつ出てきている。おう盛な購入意欲と相殺され、今後は横ばいの状況が想定される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕 (経営者)	・衝動買いが何件かみられ、明るい兆しを感じることもある一方、修理の値段でちゅうちょする客も少なくない。比較的財布のひもを緩めている人と、そうではない人の格差を感じないわけにはいかない。まだまだ見通しが明るいとは思えない。		
		一般小売店〔珈琲〕 (経営者)	・アベノミクスによる効果は表れているものの、一般消費財については効果がみられない。		
		一般小売店〔貴金属製品〕 (従業員)	・参議院選挙の結果待ちで、株価が動かない。		
		一般小売店〔花〕(店長)	・商売柄、6～8月は厳しいほか、ボーナスカットなどで今後はますます厳しくなる。		
		百貨店(売場主任)	・今月は店のオープン効果があり、売上は好調であったものの、その好調がどこまで続くかは不透明である。むしろ今後はいったん落ち着き、売上、来客数などはペースダウンする。		
		百貨店(販促担当)	・急激な株価上昇の後に急落し、購買に対する前向きな動きがやや冷え込んでしまった感がある。実態として所得増加などの具体的な動きがあまりみられないなか、夏のクリアランス時期についても、必要な物のみ購入するという近年の傾向が続くそうである。また、夏休みには新規施設への流れが強まることも懸念される。		
		スーパー(店長)	・競合店の出店計画もあり、更に厳しくなるのではないかと予想している。		
		スーパー(企画)	・原料高や円安の影響により、7月以降は目にみえる形で食品を中心に店頭価格の上昇が進む。月給やボーナスの増加が消費に回ればよいが、電気料金の値上げや金利の上昇といった生活に関する出費の増加懸念から、貯蓄に回る可能性がある。参議院選挙もあることで、政治や経済の先行きに対する不安感は依然として大きい。		
		衣料品専門店(経営者)	・物価上昇が顕著になってきているが、家計の収入は現状維持であるため、消費については悲観的にみている。		
		乗用車販売店(経営者)	・特に、景気を左右するほどの良い材料があるわけではない。その上、ブラジルやトルコなどの新興国のデモや、中国経済の財政危機などが心配である。今後は、アベノミクスで少し株高・円安が進んできた動きに調整が入る。		
		住関連専門店(店長)	・アベノミクスへの期待感が不安に変わりつつあるなか、消費が一時的に減る要因となる参議院選挙も控えており、世の中の勢いが止まりやすい要素が目立つ。		
		その他小売〔インターネット通販〕(企画担当)	・消費増税の議論の本格化が予想され、購買が一層慎重になることが予想される。		
		一般レストラン(経営者)	・お盆休みや夏休みに入るので現状維持は難しいと思うが、なるべく悪くならないように営業活動を進めたい。		
		一般レストラン(経理担当)	・景気が良くなることで、疑心暗鬼な部分もあるが、客の間にはまだ少し期待が残っているため、まだ一進一退の状態が続く。これから参議院選挙が始まるが、結果次第でどう変わるかは不透明である。		
		観光型ホテル(経営者)	・7月は元々年間でも一番動きが悪いが、参議院選挙と地域の知事選も重なり、ますますマイナスの影響が強まる。		
		観光型旅館(経営者)	・公共料金の値上がりの影響が夏場には顕著に出るため、出控えや買い控えて景気が良くなることは期待できない。		
		旅行代理店(広報担当)	・参議院選挙が終わり、消費増税が決定されると、耐久消費財を購入する客が増加する。その動きが収まるまで、旅行需要は悪化する。		
		タクシー運転手	・夏祭りや催し物があるので、多少良くなる期待はあるが、見通しは厳しい。		
		悪くなる		スーパー(店長)	・ファミリー層などの客が大型ショッピングセンターに取られる。
				スーパー(企画担当)	・当店から半径2キロ圏内に、競合店が出店予定である。
衣料品専門店(経営者)	・昨年よりも売上が悪い状況が続いているので、商品を仕入れられず、今後セールになっても売上が期待できない。プレセールも良くない状況である。				
乗用車販売店(経営者)	・ボーナス月ということもあり、もう少し小売が伸びないといけないが、伸びていない。どちらかといえば、仕入業者の間だけで商品が回っているような状態で、出口がみえない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店員）	・今の景気は、輸入に関して非常に厳しい。単価の低い商品を取り扱っているため、少しの円安でも非常にづらい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・物価が上昇しているのに対し、賃金は増えていない。また、電気料金や生活必需品の値上がりもあるなど、アベノミクス効果には実感が無い。
企業 動向 関連	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・新規事業が開始となり、売上、利益共に増える。
		金属製品製造業（営業担当）	・新規製品の立ち上げが数点あり、引き合いも活発なため、秋からは売上が増える。
(近畿)	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・梅雨が明け、昨年と同様に真夏日や猛暑日が続けば、飲料水の売上也連動して伸びてくる。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達量が多く、忙しい。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・住宅業界では、家電量販店が住宅メーカーを傘下におさめるなど、住宅、エネルギー、家電の複合戦略で顧客の満足度を上げ、売上の拡大を図っている。今後は企業の分離ではなく、目的を持った異業種同士の統合で顧客満足度を上げていく動きが増える。
		金属製品製造業（経営者）	・市場は様子見の状態であるが、円安により輸入品が減少している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・結果はまだあまり出ていないが、今は業務が多忙であり、手ごたえは大いに感じられる。3か月後はやや良くなるという消極的な期待ではなく、自力で良くするという気概であり、手ごたえもある。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・参議院選挙の結果にもよるが、アベノミクスの効果が消費者の購買意欲の向上につながることを期待している。
		建設業（経営者）	・少しずつではあるが、消費税率が上がるまでに建てたいという案件が増えてきている。
		建設業（経営者）	・今後も受注の見込みがあり、漸増傾向が続く。
		金融業（営業担当）	・政治の動向や参議院選挙の結果により、大きく変わる。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・アベノミクスの効果が具体的に出てくる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・購読数も折込広告も減少傾向とはいえ、大幅な落ち込みでもない。購読の予約が獲得できているほか、7月の参議院、県知事の選挙戦に向けた広告にも期待できる。
		広告代理店（営業担当）	・今月末から夏のセール時期に入ってくるが、各店とも販売を強化していくので良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・問い合わせと注文が先々まであり、見通しが立ってきている。
		経営コンサルタント	・各種助成金の効果で景気が上昇するか否かについては、これを利用している企業もみんな懐疑的である。ただし、このチャンスを活かそうと行動を起こしているため、若干であっても景気は良くなる。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・梅雨明け後は恐らく昨年並みの猛暑が予想されるため、駅構内ではコンビニを中心にソフトドリンクなどの売上が大幅に伸びる。一方、大半を占めるスイーツ関連の店舗は、昨年と同様に苦戦を強いられることになる。梅田地区にオープンした大型商業施設については問題が山積しているが、今しばらくは他府県からの集客が期待できる。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・円安、株高のほか、輸出企業の好調が給与面にも波及することが期待され、消費は緩やかに改善していく。
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・米国の金融当局による出口戦略の提示は、長い目でみれば景気浮揚の証拠である。
その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・引き合い件数が増加している。		
変わらない		食料品製造業（従業員）	・新製品の売上は良いが、既存品は良くない状況が続いている。既存品の売行きは販売価格に大きく左右されるが、一部で原材料の値上げもあるため、廉価販売ができない状況にあり、その辺りの影響も出ている。
		食料品製造業（経理担当）	・株価や円相場の乱高下が激しいことや、電気料金の値上げが大きく影響してくる。
		繊維工業（団体職員）	・受注量が減少するなか、原料価格や電気料金、外注加工料の高騰などで採算が悪くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（総務担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、中国工場や中国での協力会社から多くのソックスを輸入しているが、円安の影響を受け、利益率が大幅に下がっている。今後、為替の水準が変わらないとしても、国内の得意先との売買金額を上げることができないため、利益の確保が難しい状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（経営者）	・問い合わせ案件に大きな変化はなく、当面の景気は変わらない。
		化学工業（管理担当）	・為替や株価が安定する見通しが立たない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・参議院選挙後の評価は、もう少し先になる。現状をみると商品の買換えサイクルが長くなっており、需要がなくなることはないが、供給過多の状況はしばらく続く。必要な物や、なくてはならない物、価格が高過ぎない物が低いレベルで安定する。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・資材の値上がりで困っているが、一般的なムードが黒から明るい色に変わりつつあるため、相殺すると変わらない。
		金属製品製造業（管理担当）	・太陽光発電関連は、今後2年間は現状維持となる。購入時の補助金が継続するかどうか、今後の売上に影響を及ぼす。
		電気機械器具製造業（経営者）	・世界的に経済の不透明さがあるため、景気の方角感がなかなかつかみにくい。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・本格的な夏の暑さによる、夏物商品の更なる荷動きの増加は期待できるが、トータルの状況は変わらない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・受注が伸びず、引き合いも増えていないので、今後も悪いまま、横ばいで推移する。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・相変わらず、仕事の予定が少ない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・今後も住宅分野の活況は続くとみられるが、全体としては落ち込みを感じるなど、読みきれない状況である。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・アベノミクスで設備投資減税が導入されたとしても、実際にどのような効果を企業にもたらすのかが不透明であり、急速に設備投資が出てくるかどうかは予測できない。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・新製品の開発はなく、受注量にも変化がない。
		建設業（経営者）	・厳しい価格競争のなか、今後の技能労務者不足の対応に苦慮しており、板挟み状態となることが予想される。
		輸送業（営業担当）	・中小の工場は荷物の増減がないものの、レジャー用品の工場では受注が多く、好調である。
		輸送業（営業担当）	・配達件数が増える要素はないため、今の状況が続く。
		輸送業（営業所長）	・少しは景気が良くなっていると感じるが、中小企業にはまだまだ及んでいない。
		不動産業（営業担当）	・神戸から企業が流出していることもあり、神戸の就業人口が減少してきている。それに伴い、事務所や住宅の賃料が下げ止まっておらず、将来的には景気が横ばいか、悪化する可能性がある。
		広告代理店（営業担当）	・しばらくは変化する要素がみられない。
		司法書士	・今月は案件がいくつかあるが、これが偶然なのか継続性があるのかが分からない。特に理由がないため、偶然と考えるべきか、判断に迷う。
		コピーサービス業（店長）	・観光客の増加などへの期待は大きいですが、不透明な部分も多いため、おおむね標準的な推移となる。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・アベノミクスの効果がまだ感じられない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・現在、景気が回復中でやや良くなっているため、それ以上の上昇は考えられない。今の動向で推移することを望む。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・商品が動くためには、工場の設備や商品の見積が出てくるはずであるが、今はそれもないので動きが感じられない。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・アベノミクスが浸透するかどうか不透明である。
	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・物の値上がりが販売価格に転嫁しにくいと、収益が圧迫される。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・季節的にはお中元用のケースが活発に動く時期であるが、非常に少ないようである。
		化学工業（企画担当）	・円安の影響などで、今後ますます原料価格は高騰するが、製品の販売価格に転嫁しきれずに利益が圧迫される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後数か月の動きでは、投資計画に弾みがつくような状況ではない。産業全体での投資が増えなければ、鉄鋼関連の投資も上向きにくい状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業 (設計担当)	・投資家は良いのかもしれないが、物価の上昇に収入が ついてきていない。
	悪くなる	○	○

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (近畿)	良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・アベノミクスの効果で、低迷していた景気が回復して行くのではないかと期待感がみられる。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・先行きの見通しは明るい、IT関連については先送りされており、参議院選挙の結果次第となる。
		人材派遣会社（経営者）	・求人が増え続けている。
		人材派遣会社（支店長）	・6月ということもあるが、求人数、求職者数共に増えてきている。夏に向けて集中的に短期オーダーも増えてくるため、良い流れにはなっている。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が増加しており、有効求人倍率も上昇傾向が続くと考えられる。ただし、有効求職者数の減少の勢いは弱く、高止まりで推移している。
		職業安定所（職員）	・しばらくは企業の活動が活発になる。
		職業安定所（職員）	・徐々にではあるが、景気は上向いていると感じる。
		民間職業紹介機関（支社長）	・転職者の中には、現職企業からの引き留めで転職を取りやめる人も多くなっている。若干ではあるが、雇用状態や賃金の改善が見込めるかもしれない。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	・参議院選挙次第ではあるが、しばらくこのまま不安定な状況が続く。
		人材派遣会社（役員）	・当面は盛り上がり欠ける。参議院選挙が終わってからの政局や、成長戦略の具体策による部分が大きく、即効性はあまり期待できない。
		人材派遣会社（営業担当）	・円安頼みの景気回復には持続性がない。成長戦略を政府がしっかり描いてほしい。産業空洞化を防ぐために、法人税率引下げを実施し、雇用の流動化を進め、実質的な経済成長を実現しなければならない。
		アウトソーシング企業（社員）	・退職者はいるが、入社してくる人がいない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・参議院選挙後の状況がまだみえてこない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今後も特に変わらない。住宅業界には消費増税前の駆け込み需要などのプラス材料があるものの、ほかの業界はマイナスのままとなる。新聞広告全体でも前年並みとなる見込みである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・梅田地区や阿倍野地区の開発による活性化が進んでいることは確かであるが、大きな実感がない。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・株価、求人共にこの半年は順調に推移してきたが、いずれも動きが鈍くなっており、調整局面に入っているように感じられる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は高止まりの様相をみせているが、企業の採用意欲は幾分上向き気味の感触がある。企業からは、水準が米国の大型金融機関の破たん前に戻りつつあるという声が多く聞かれるが、思ったほど良くなっていないとの声も多い。設備投資や人件費のアップにつながるの、まだ先のようなのである。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設部門を中心とした日雇い労働市場は、労働者不足の制約があり、更なる拡大は厳しいというのが、末端の事業者たちの声である。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・経済に少し不安があり、社員の賃上げなどに行き着く前に、景気が悪化する可能性も懸念される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・景気の好転を大きく実感できる要素がない。
学校〔大学〕（就職担当）		・参議院選挙後は活発な動きになることを期待している。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・景気については先行き不透明感が出てきた。このことが雇用面にも出てくることを心配している。	
悪くなる	—	—	

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	商店街（代表者）	・参議院選挙で与党が躍進すれば政治が安定し、アベノミクスの3本の矢の効果が現れて景気は良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(中国)		一般小売店〔茶〕(経営者)	・今年はお雲大社遷宮で来客数が好調で、神有月と言われる10月に観光客が激増する。その反面、来年の景気に不安がある。
		百貨店(営業担当)	・景況感の回復、客の企画への好反応等、セールへの期待感が高い。
		スーパー(店長)	・来客数が伸びており、アベノミクスが始まって初めての夏のボーナスということで期待している。
		スーパー(店長)	・気候に左右されるが、消費動向はやや上向きなので、来客数の伸びが続けば売上は回復する。
		スーパー(店長)	・身のまわり商品を中心に売上が伸びつつある。夏商戦に期待する。
		スーパー(総務担当)	・客単価が徐々に上がっており、期待できる。
		スーパー(業務開発担当)	・夏物の季節商材がいつもより早く動いており、飲料・冷菓・デイリーフーズを中心に伸びている。
		スーパー(営業システム担当)	・来客数は前年と同様であるが、各店舗で客単価が上がっている。ボーナスの時期も近づき、消費者の購入意欲が高まる。
		コンビニ(エリア担当)	・しばらく停滞していたが、盛夏期を迎え、上向き傾向が続くと思われる。
		コンビニ(副地域ブロック長)	・売上が改善傾向にある。
		乗用車販売店(業務担当)	・新商品の投入で販売に勢いがつく。
		乗用車販売店(副店長)	・各社の中間決算を迎え、商戦機運が高まる。
		自動車備品販売店(経営者)	・期待するしかないが、東京だけでなく地方でも一刻も早い景気回復を願う。
		住関連専門店(営業担当)	・家具の値上がり前に買おうとする客が増える。
		その他専門店〔海産物〕(経営者)	・2、3か月後の秋の団体予約は例年より好調である。景気がやや良くなると期待したい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(支配人)	・アベノミクス効果が停滞気味で、可処分所得増加の実感がないことから、購買意欲の向上には至っていない。参議院選挙で与党が大勝し、具体的な経済対策によりボーナス増額等につながれば、夏商戦以降の上昇が期待できる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(運営担当)	・ここ最近の株価の乱高下で景況感の悪化が懸念される。参議院選挙の結果次第であるが、安定的な政権運営が見込めれば懸念も払しょくされ、設備投資にもつながる。
		一般レストラン(経営者)	・景気が良くなる業種も、悪くなる業種もあると思うが、景気対策の効果は出てくる。
		一般レストラン(経営者)	・参議院選挙の結果、安定的な政権運営が実現されれば、いざれ給与・ボーナスの家計収入が増える期待が大きい。建設業界等、一部産業での残業代増加なども消費につながり、客の財布のひもも緩み、客単価上昇が期待できる。
		一般レストラン(外食事業担当)	・ボーナスが入り、夏休みに入って外食の機会が増える。現状より売上は良くなる。
		スナック(経営者)	・期待もあるが、良くなってもらいたい。
		都市型ホテル(スタッフ)	・夏休み、盆休み等の宿泊の予約は例年より早くから問い合わせが入ってきている。
		都市型ホテル(企画担当)	・市内での学会開催やイベントなどが多くあり、その影響から宿泊者の先行受注が前年比で増加している。
		都市型ホテル(企画担当)	・4～5月はひろしま菓子博の影響で好調となった。7～9月は広島デスティネーションキャンペーンが開催されるので期待している。
		旅行代理店(経営者)	・アベノミクスではまだ地方向けの対策が出ていないが、今後に期待する。
		通信会社(企画担当)	・スマートフォン、タブレット、宅内無線化の商材等、関連サービスは堅く伸びていくと思われ、当面その上昇は続く。
	通信会社(工事担当)	・前年と比較して申込件数が増加傾向にある。	
	テーマパーク(業務担当)	・夏休み、お盆期間で人の動きも出てくると思われ、家族連れを対象としたイベントを開催し、来園者の増加を見込んでいる。	
	競艇場(職員)	・サマータイムレースの実施で電話投票の売上が見込める。	
	設計事務所(経営者)	・消費税増税の影響で受注増が見込める。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・耐震改修の受注がしばらく続きそうであり、同時に消費税増税前の需要が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（販売担当）	・消費増税増税前の駆け込み需要が期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・客の様子からは、積極的に自分に投資したり、日用買い回り品を購入するような動きが感じられない。
		商店街（理事）	・何か社会的な流れがないと客は動かない。
		商店街（代表者）	・仕入れ業者や周りの商売人と話しても悪い話は聞かないが、実態の景気はどうも芳しくない。
		商店街（代表者）	・景気は変わらない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・名刺、ゴム印注文が少なく、営業活動の盛り上がりも期待できない。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・先月までは景気が上昇基調のように言われていたが、5月末からトーンダウンした。しかし、客は気持的に変わらず、節約志向には戻っていないように思われる。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・これ以上は悪くなりようがないので、変わらないと評価するが、ただ良くなる兆しはない。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・高齢者の生活にゆとりが出ている。
		百貨店（営業担当）	・4月から同じような状況が続いており、良くなる要因が見当たらない。ボーナス後の購買意欲に期待したい。
		百貨店（営業担当）	・客の様子から景気の判断はつかないが、催事を行えば高額商品が動くので、悪くなる様子はない。
		百貨店（販売促進担当）	・夏のセールが6月末に前倒しでスタートし、7月以降の売上には悪影響となる。ギフトについても、大手企業の業容縮小の影響が想定され、消費が上向くとは考えづらい。
		百貨店（売場担当）	・セールスタート時期の分散化により、売上の大きな山が期待しにくい。セール商品の供給先の在庫もタイトな状況が続いている。
		百貨店（売場担当）	・百貨店が一つなくなっているのが既存店の売上が伸びるのは当たり前で、景気自体が良くなっているわけではない。ただ下げ止まっているようには感じる。
		百貨店（電算担当）	・出雲大社遷宮の効果で、出雲空港や出雲大社近くの売店では売上が好調である。本店は、雑貨や美術品は好調であるが、衣料品はクールビズでワイシャツは売れるものの、前年並みである。全体では依然消費は停滞している。客を呼ぶ催事が必要である。
		百貨店（販売担当）	・今後、現状より景気が良くなる見込みはない。前年よりクリアランスセールが前倒しでスタートするため、売上の推移に注視したい。
		百貨店（営業推進担当）	・末端の小売ベースの段階では、まだまだ変化は出てこない。
		スーパー（店長）	・景気が良くなる材料はない。
		スーパー（店長）	・来客数は、前年並みで推移すると思われる。円高の影響から輸入商品、特に海老などは単価が上がり、販売点数の減少が心配される。
		スーパー（店長）	・来客数増が見込めない。
		スーパー（財務担当）	・地場企業社員の所得改善がみられないため、節約志向が今後も続く。
		スーパー（管理担当）	・客単価の低下は、なかなか回復の兆しがみえない。
		スーパー（販売担当）	・先月と比べて来客数は増えたが、売上に変化はなく、今後も期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・前年、今年と当地では工場の移転や閉鎖があり、そこに勤めていた人たちの受け皿が見つからないと聞く。楽観視できる状況ではない。
	コンビニ（エリア担当）	・気温の上昇に伴って販売数量が伸びない傾向が続く。	
	衣料品専門店（経営者）	・先が見えない。	
	家電量販店（店長）	・太陽光関係は好調であったが、買電価格の値下げで売上は勢いを失っており、地上デジタル化以降のテレビの販売低迷をカバーできない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・映像関連商品の売上低迷の出口がみえない。デジタルカメラ、ビデオムービーはスマートフォンの高性能化により販売量、単価ともに下降しており期待できない。太陽光発電の需要は高まりつつあるが、販売競争が激化し、パネルの単価も下落傾向にある。
		家電量販店（企画担当）	・世間の注目を集めるような新製品が出てこない限り景気が良くなるとは考えられず、今のような状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（統括）	・前年のエコカー補助金の影響が9月まで続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・ここ数か月、じわじわ良くなった感じはあるが、まだ明らかな変化はない。ただ、消費税増税までに自動車を購入したい客は増えている。
		乗用車販売店（店長）	・好調に推移しているが、これ以上伸びることは考えられない。
		乗用車販売店（総務担当）	・商品ラインナップが増え、客に好評である。同業他社と商品の性格が異なるが、良い印象を持たれている。商品力で販売台数減をカバーしたい。
		乗用車販売店（営業担当）	・大きな変動はない。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・良い要素が見当たらない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・先行きの不安から、消費には消極的であり、都市部のような景気回復の様子は全くない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・アベノミクスで気分は明るいだが、給与が増えない。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・バーゲンが一段落して動きが鈍くなるので、売上の増加は見込めない。
		高級レストラン（スタッフ）	・今の良くない状況が続く。
		一般レストラン（エリア担当）	・宴会予約組数の減少や1組当たりの客数減で、単価も低い状態が続く。
		都市型ホテル（総支配人）	・9月までの先行予約をみると、各月とも前年に比べ10%以上高くなっており、今後も観光客の入込は好調に推移する。
		旅行代理店（営業担当）	・短いスパンで効果的な経済政策があると思えない。
		タクシー運転手	・アベノミクスはひと休みの状態である。
		タクシー運転手	・良くなる要素がない。
		通信会社（社員）	・提供する通信サービスに関して、新たな申込に関する問い合わせに変動がない。
		通信会社（通信事業担当）	・新規契約へのきっかけとなる、問い合わせ自体が少なく、なかなか見込み客がつかめない状況が続いている。
		通信会社（総務担当）	・景気高揚の傾向が見受けられない。
		通信会社（広報担当）	・為替市場ほど、一般の景気に変化はない。ボーナス満額回答の企業は多いが、もともとのボーナス額が過去より減っていることから、あまり消費に動きはない。
		テーマパーク（管理担当）	・景気動向が大幅に動いているとは思えず、来館者数の動向に変化がない。
		テーマパーク（営業担当）	・参議院選挙前でもあり、消費税増税などの話題が増えれば、レジャーは節約される。
		ゴルフ場（営業担当）	・四半期ではオフ期に入り、天候にも左右されるが、予約状況は例年どおりである。
		美容室（経営者）	・どこの店も不景気のまま推移する。
		美容室（経営者）	・景気がすごく良くなることはない。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・客のほとんどが年金を主な収入として生活しているので、よほど支給額が変わったり、物価が上がったりでもしない限り、客の生活は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・税負担増加の予兆に対して警戒感が強くなってきている。
		設計事務所（経営者）	・消費税増税後の住宅取得等優遇制度が発表されたので、現在の状況が大きくは変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・景気回復が実感できないと言う客がまだまだ多い。
		住宅販売会社（営業担当）	・好況感はあるものの、これ以上さらに上積みがある要素は見当たらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・オーバーストア、デフレ、インターネット販売、少子化という業界にとっては厳しい状況が続く。今後は消費税増税もあって、客は必要なものしか購入しない傾向が強くなる。
		百貨店（購買担当）	・クリアランスセールが始まって売上は期待できないし、秋になって消費動向は厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・衣料品は好調に推移しているが、家具・日用雑貨の買い控えは顕著で、来客数の減少に直結している。当店は特に生活雑貨の売上構成比が高いため、今後さらに苦戦を強いられる。
		衣料品専門店（経営者）	・将来への不安感が購買意欲を下げている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		家電量販店（店長）	・8月は夏休みで来客数は増加するが、エアコンなどの売行きが悪くなる。	
		家電量販店（販売担当）	・エアコンの購買時期が終わる。	
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・富士山が世界遺産になったことで、西日本への観光客の入込が悪くなり、売上が期待できない。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・先月から販売量、来客数ともに落ち込んできている。景気が回復したように思えたが一時的なもので、この様子だと良くなるとは思えない。	
		観光型ホテル（支配人）	・景気回復の期待が大きかった反動がマイナスに作用するのではないかと。恩恵が回ってくるのが遅い中小企業が主の地方においてはなおさらである。	
		美容室（経営者）	・景気は一度は落ち込むのではないかと。その後持ち直すかと期待したい。	
	悪くなる	商店街（代表者）	・地元商店街を守ると頑張ってきた店主が、自分の給料すら確保できない現状を自己責任で終わらせてほしくない。	
		自動車備品販売店（経営者）	・大型店舗量販店の海外安値商品が一般消費者にかなり認知され、国産メーカーの売行きがどんどん悪くなっている。安値競争が激化する。	
企業 動向 関連 (中国)	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車の立ち上がりがあり、仕事は忙しくなる。	
	やや良くなる	木材木製品製造業（経理担当）	・やや良くなると思うが、個人所得の上昇次第である。	
		化学工業（経営者）	・設備投資に対する減税策等により、全体として景気は上向いてくると思われるが、中国経済に対する不安感も引き続きぬぐえない。	
		化学工業（総務担当）	・自動車産業の好調による素材の需要増を期待する。	
		鉄鋼業（総務担当）	・自動車は4～6月で生産台数増が見込まれ、建材分野も堅調で、総じて当期比較で増加する見込みである。	
		電気機械器具製造業（総務担当）	・先行きに若干不安定さはあるものの流れがあり、景気を刺激する要素は十分感じられる。	
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・客が生産能力を高める計画を持っている。	
		輸送業（業務担当）	・周りの他業者も受注が増えてきたと言っている。希望であるが、このまま荷動きの増加が続いて欲しい。	
		輸送業（支店長）	・やや良い状態を維持する。	
		金融業（自動車担当）	・自動車部品メーカーは、現状の為替水準であれば完成車メーカーの輸出は堅調なことから、高水準の受注継続が期待できる。	
		金融業（貸付担当）	・いわゆるアベノミクス効果で誰もが景気回復に対する期待感を持っている。市場の動きまで意識している人は少ないかも知れないが、景気が良くなるという思い込みが消費に向かえば景気の好循環が生まれる。消費税増税前の需要にも期待している。将来に不安を持つ人も貯蓄ではなく、消費に回すような政策を本気で考えて欲しい。	
		広告代理店（営業担当）	・現状は横ばいで推移しているが、夏は購買及び行動が活発になるので、取引先も様々な企画プランを練って、売上をアップさせる取組をしている。	
		変わらない	食料品製造業（総務担当）	・コンビニ関係の店頭で商品を置いてもらえない時があったが、夏から秋に向けて盛り返す予定なので、現状維持で推移する。
			繊維工業（統括担当）	・景気が良くなったと実感するのはまだ先である。
			窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・依然として自治体向けごみ焼却炉の注文が少なく、生産量も現状水準が継続する見込みである。
			非鉄金属製造業（経理担当）	・金属相場及び為替が振れており、影響を受けるリスクが増大する。
一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。			
電気機械器具製造業（総務担当）	・為替の動きにより、先行きを予想できない。			
建設業（経営者）	・当地域の建設、関連産業については良い材料がなく、悪いまま推移する。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（総務担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・秋口より来年の前半にかけて型枠工事等の工種で職人不足が予想され、工期やコスト面でのリスクを避けるため、受注を控える動きが続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業企画担当）	・既存契約のサービスについて大きな見直しの話はなく、継続での契約が多い。
		通信業（営業担当）	・アベノミクス効果もまだまだソーホーには浸透せず、参議院選挙以降に期待する。
		不動産業（総務担当）	・需要時期ではないため、横ばいと予測する。
		会計事務所（職員）	・3月以降はしり上がりに景気が良くなると期待していた中小零細企業にとっては、やや肩すかしをくった格好で全体的にもどかしい気分がある。明らかに業績が好転した業種があれば見通しが明るくなると思うが、今のところ見受けられない。
		コピーサービス業（管理担当）	・景気回復の実感は全く感じられない。取引先の業務量が増加している様子はなく、当社の受注量が増加することも考えられない。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・シーズンであるはずの真アジの水揚げ数量が激減し、ブランド魚であるドンチッチアジも不漁で、期待できない。
		食料品製造業（総務担当）	・原材料の高騰により収支圧迫が避けられない。
		鉄鋼業（総務担当）	・現在の受注増は急激な円安の影響と流通における在庫補充がメインと考えており、市中在庫が充溢した段階で若干のダウンサイドリスクを想定している。
		金属製品製造業（総務担当）	・造船業界からの受注が大幅に減ることが想定され、他業界からの受注ではカバーしきれない。7月から鉄原料価格の値上がりの影響を受け、現状より厳しくなる。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・現在の円安水準により、徐々に国内造船所が競争力を発揮し、受注獲得の話が聞こえ始めている。船主・オペレーターを含めた海事業界全体が望む為替水準は、1ドル105～110円あたりだと思われるため、船用関連業界がその恩恵を受けるまでにはもう少し時間がかかる。
その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）		・受注は順調であるが、価格面で非常に厳しさが増している。	
輸送業（総務担当）		・客から取扱数量が増加する等の情報がない。	
悪くなる	—	—	
雇用 関連 (中国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・アベノミクス効果及び政治状況の安定などのプラス材料が功を奏し、緩やかであるが求人数が増えており、この傾向は2～3か月後も続く。
		人材派遣会社（支社長）	・企業が求める人材と労働市場内の求職者がマッチングしないケースが増えてきており、大幅な改善は見込めないものの、求人は堅調に増加していく。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・採用にふさわしいレベルの学生の確保が難しいという見方もあるが、これからも継続的に採用活動を行う企業が増えていく。
		求人情報誌製作会社（マネジャー）	・自動車産業や建築不動産系、小売流通で採用ニーズが強まる。中途採用も同様に、自動車・建築不動産系で改善の動きが強くなる。
		職業安定所（雇用開発担当）	・26年3月卒の新規学卒者に係る求人の業務説明会を開催したところ、参加事業所が前年よりも2割強増加し、新規学卒者の採用計画がある事業所は増えている。
		民間職業紹介機関（職員）	・株価下落などの不安要素はあるものの、円安基調は続いており輸出産業は元気を取り戻しつつある。事業拡大のための人材増員などは今後の景気を浮揚させる。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・国の経済対策が進行中であるため、当面は景気回復傾向にあるというイメージから、消費も上向きになる。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・これから、大幅に良くなるような要素も見当たらず、先行きは不透明なのが当たり前になっている。良くても現状維持と感じる。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・住宅・建設業界の求人数は、前年同月比で確実に増えている。少し前までは営業職や不動産事務など、営業サイドのニーズがほとんどであったが、5月、6月に入り、技術職のニーズも聞こえるようになった。この需要供給バランスを見極める必要がある。
求人情報誌製作会社（採用支援担当）		・1～3月ごろは上向き期待を持てたが、その後は求人広告依頼が伸び悩み、あまり景気が改善しているという実感は持てない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	・株価は上昇したが、実体経済の回復はこれからである。インフレ率をコントロールするのは難しく、財政健全化目標を堅持しつつ、財政出動したり締めたりしながら、増税をやり遂げるのは綱渡りである。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	・新規求人に占める正社員求人の割合が増減を繰り返しており、安定的とは言えない。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	・求人倍率は3か月連続で0.01ポイントずつの増加で、目立った変化はない。
		学校〔短期大学〕(学生支援担当)	・良い方向に向かっていると感じるが、実体の変化が現れていない。
	やや悪くなる	その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕(職員)	・輸入業者からは為替変動で利益が出ないこと、あるいはホームセンター経営会社からは消費税増税により先行きが極めて不透明なことを理由に、来春の新卒採用を見送るとした声が寄せられるなど、今後の採用行動に慎重になっている企業が少なくない。
	悪くなる	—	—

9. 四国(地域別調査機関:四国経済連合会)

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	商店街(代表者)	・商業施設のバランスが時代の需要に合った形になっていく必要がある。そのなかでコンビニ的の小型店の乱立が起こっているが、適正な供給量のなかで勝ち残っていく工夫が必要になってきた。
		百貨店(総務担当)	・衣料品を含む高額品の売上が好調に推移している。
		百貨店(営業担当)	・来客数が増えると予想している。
		コンビニ(店長)	・購買力の高い建設業の客が増加しており、売上増のけん引役になっている。今後もこの傾向が続くと見込んでいる。
		コンビニ(商品担当)	・米飯全体で対前年比で100%を超えるようになってきた。特に土日のおにぎり・弁当類が伸長しているので外出する気運が高まっているのではないかと思う。
		その他専門店〔酒〕(経営者)	・景気が少しずつ上向いてきており、やや良くなると予想する。
		旅行代理店(支店長)	・7月の参議院選挙までは旅行する方の動きが多少鈍ると思われるが、景気回復感や首都圏の遊園地の開業記念イベント等があり、夏休みの旅行需要の増加が期待できる。
		タクシー運転手	・建設業界において、7月以降に公共事業が出るという情報を客から聞いた。また、祭り等の予定もあるので、やや良くなると判断する。
		通信会社(企画)	・特に集合物件の一括加入が増加傾向にあり、やや良くなると思われる。
		観光名所(職員)	・例年、夏休みは来客数が増加するため。
	設計事務所(所長)	・建設単価が次第に上昇してきている。	
	変わらない	商店街(事務局長)	・株価や為替の乱高下が景気回復への期待感に水をさした格好になった。原材料価格の高騰や消費税増税に対する警戒感が家計の直近の課題となっている。このままでは地方の消費マインドが再び低下してしまう。
		一般小売店〔乾物〕(店員)	・消費税増税を懸念している。
		スーパー(店長)	・特に景気が変わっていく要素が感じられない。
		スーパー(企画担当)	・可処分所得は増えておらず、一般消費財への支出は厳しい状況にある。
		スーパー(企画担当)	・景況感の推移にはほとんど影響は出ないとみる。夏季賞与の支給状況により購買量は増減するが、まだ増加の方向には向かないと想定する。
		コンビニ(総務)	・いまだ地方の景気は先行き不透明感が強い。この傾向はしばらく続くと思われる。
		衣料品専門店(経営者)	・公務員や会社員へのボーナス支給がほぼ終わったので、7月のバーゲンの売上の推移が一番の関心事である。
衣料品専門店(総務担当)		・客との会話からも景気の良い話は聞こえてこず、来店を控えている客も多い。依然として、景気が良くなっているとは感じられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月は暑さのため夏物商品の動きが非常に良かった。しかし、必要なものにはお金をかけられるが、その他の商品の動きは今一つとなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車投入効果で一部の販社は好調のようだが、市場全体では厳しい状況にある。
		乗用車販売店（役員）	・6月の新車登録台数は前年を割る状況で、7、8月も前年並みを確保することは難しいのではと危惧している。上半期は動きが少し鈍いと予想するが、ピークを1-3月に持って行ける状況である。
		住関連専門店（経営者）	・円安と株価上昇によって、良くなるような感じが一時したが、株価が下落し、円安の悪い面が出ており、景気は不安定になっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・買物の姿勢に慎重さが目立つ。
		観光型旅館（経営者）	・7月の予約状況は悪くはないが、現段階、昨年と同じ予約状態であり、あまり期待はできないと感じている。
		都市型ホテル（経営者）	・2-3ヶ月先の宿泊の予約状況はあまり良くない。一方、バンケットについては、悪いなりに少し上向き傾向にあり、全体でみると今とあまり変わらないと思う。
		通信会社（営業担当）	・夏季商戦も終盤を迎える時期なので、販売数量は低下するが、例年並みで推移すると思われる。
		ゴルフ場（従業員）	・昨年よりは、若干良い水準にあるが、一時的なものかどうかはまだ判断出来ない。
		美容室（経営者）	・景気回復の実感がないまま、各種値上げにより消費マインドが低く抑えられている。
		美容室（経営者）	・良くも悪くもない。
		住宅販売会社（従業員）	・消費増税前で来場者数は増えているが、まだ様子見の客が多い。受注につながるにはもう少し時間がかかると考えている。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・消費者マインドはかなり上昇しているように思うが、公務員の給与・賞与が下がり、民間も含めて上がる要素はない。今後も消費者の財布のひもは固いのではないと思う。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・梅雨に入り、繁華街の人出が少ない。お盆が近づけば御供え商品が売れ始めるが、今年は人出が悪いので厳しいと思う。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・中元商戦は大手スーパーの割引や送料無料には太刀打ちできない。小売店は厳しい状態である。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の高止まりが続く中、四国ではついに、自動車の販売台数に占める軽自動車の割合が50%を超えた。この傾向は今後も続くと予想され、主に小型車以上のクラスを販売している販売店の業績は今後厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・参議院選挙は良い影響が出る要素が無いように思う。景気が早く上向いて欲しい。
		乗用車販売店（従業員）	・新車販売台数は前年比8-9割程度になっており、この状況がしばらく続きそうだ。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・電気料金値上げを始め、消費が上向く要素がない。
		タクシー運転手	・暑くなると、お遍路も少なくなる。今年は2-3か月先の予約がほとんど入っていない状況であり、加えて街の状況を見ても、景気が良くなっている雰囲気は全くない。良くなる兆しもない。
悪くなる		衣料品専門店（経営者）	・アベノミクスによって大企業は競争力を取り戻し、売上は回復しているが、従業員の給料にまだ反映されておらず、今のところ物価上昇にしか過ぎない。
		スナック（経営者）	・例年、夏は来客数が減少傾向にあるため。
企業動向関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・マスコミの報道等にかかっていると感じる部分は大きいと思われるが、中国等の新興国の今後の不透明性がはっきりとしてきたなかで、日本への期待感も持続・継続するよう思う。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・復興・復旧、防災・減災で全国的に受注及び販売が活発になる。
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・消費者が店舗を選ぶ傾向は続き、明暗が分かれていくように思われる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・太陽光メガソーラー関係の引き合いは多く、受注量が少し増えると予測している。
		通信業（部長）	・取引先の話から、政治の安定感が見られ設備投資も伸びると思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資担当）	・地震・津波対策の公共工事予算が増加する見込みで、今後その波及効果が期待できる。消費税引上げ前の駆け込み需要でマンション購入の増加も見込まれる。
		広告代理店（経営者）	・地元資本の得意先は広告費削減あるいは前年並みの話が多い。一方、全国ネットの県外得意先の一部にはM&Aによる社名変更及び店舗数の増加等もあり販促費の増加が見込まれる。全体としては、やや良くなる見込みである。
		広告代理店（経営者）	・来年度教材への動きが始まることと、年末・年始の教材が動き始める。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・価格修正を依頼しているが、小売の抵抗が大変強く、まだ充分上昇するムードにはなっていない。そのためコスト割れの案件を止めて、コストに合った案件を伸ばしていく方策をとっている。
		電気機械器具製造業（経理）	・客先からの受注見込に大きな変動がみられない。また、一定割合の官公需を有しており、その分野における予算執行に関しても特段の変動はないものと想定している。
		建設業（経営者）	・公共事業の予算、執行予定の様子からみると、上半期に大きな変化はないと思われ、変わらないと予想する。
		建設業（経営者）	・現状景気はなかなか回復しそうにない。
		輸送業（経営者）	・輸出産業にとってはプラスになったかもしれないが、内需に関して景況感が良くなるには、まだまだ時間がかかると思う。
		輸送業（営業）	・景気低迷による荷動きの停滞を受け、前月に引き続き取扱物量は前年割れとなった。経営の安定に取組んでいるが、貨物輸送量の減少に加え、燃料油価格の高止まりや運賃水準の下落が経営を圧迫する中、自助努力も限界に来ており、倒産や廃業に追い込まれる同業者も出始めた。運送業界では、運賃水準の底上げが喫緊の課題となっており、荷主に対して燃料油高騰分を含めた運賃値上げを受け入れてもらえるかどうかが生き残りの鍵を握る。
		公認会計士	・為替が100円台から90円台に後戻りし、不動産価格の上昇がみられず、今後の政府の政策が読めないことなどから、設備投資を来年に延ばすという話を経営者から聞いており、変わらないと予想する。
	やや悪くなる	○	○
	悪くなる	鉄鋼業（総務部長）	・スポット的な見積案件はあるが、成約には至っていない。
		輸送業（支店長）	・定期修理等長期的な生産停止並びに輸送量減少による。
	雇用 関連 (四国)	良くなる	—
やや良くなる		人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクス効果による公共工事の活況により、建設業の現場求人ニーズが高くなっていることから、雇用者数の増加に寄与するものと思われる。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・例年通り8月は求人数減少が予想されるが、9月以降は増加に転ずると予想されるため。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気改善の報道から消費者マインドは改善されつつある。また、内装工事の発注が多く、従業員が足りないとかハウスメーカーへの相談件数が増えているとの情報がある。確実に消費増税前の駆け込み需要が増えている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・良くなっているのは都市の一部だけで、当地にはまだ至っていないという雰囲気がある。
変わらない		人材派遣会社（営業）	・消費増税、電気料金値上げ等による影響で、消費意欲は少し控え目の状態が続く様子である。また、地方への景気回復感はまだまだといった様子である。
		求人情報誌（営業）	・引き続き、人材不足（企業が必要としている層の不足）状態が続くと予想されるため。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率は先月と同率、前年同月比では0.17ポイント上昇している。
		職業安定所（職員）	・企業の再編の動きに注目しているが、景気に大きく影響することはないと感じている。
		民間職業紹介機関（所長）	・新年度が始まったばかりで採用人数を増やそうという企業は少ない。また、企業内でのリストラチャリングで、社員の有効活用を考えているところも多く見受けられる。
やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・生産現場での減産が目立っており、雇用に期待がもてない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	<ul style="list-style-type: none"> 信用調査会社の調査によると、倒産リスクがかなり高いとされる企業の割合が6社に1社ある。県内での企業倒産は今後増加傾向となることが懸念されている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	住関連専門店（店長）	・新築分譲物件が夏から秋口にかけて多くなることと、物件の提案をさせていただいている客がその時期に集中しているため、インテリア購入につながると推測している。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税にかかわる請負工事の経過措置の指定日（9月30日）までは受注が伸びる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・客は基本的に預貯金を持っているが、今までは先がみえない、景気がどうなるか分からないという不安感があって、なかなか購入しなかった。しかし、アベノミクスによって、現実には良いとは言えなくても、将来が少しは良くなるのではないかという期待感を持って購買行動へ移っているため、多少良くなっていく。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・高価な商品でも堅調に売れている。
		百貨店（販売促進担当）	・景気が回復しているとは一概に言えないが、高額品、衣料品ともに動きが良くなってきている。
		百貨店（企画）	・シーズン通して伸び悩んだ反動がクリアランスへの起爆剤となる。
		百貨店（営業統括）	・7月は参議院選挙もあり、ギフト等で若干マイナス影響があるものの、政治の安定化が見えてきて、継続的に高額品の売上が好調に推移する可能性が大きい。
		スーパー（店長）	・競合店が昨年5月にオープンしてちょうど1年経ち、6月から売上が104～105%で推移している。これが1年続くと考える。青果の方が少し厳しいが、1年間は前年並みでいける。競合店の影響がなくなるので、ほぼ前年並みかそれ以上の売上が期待できる。
		スーパー（総務担当）	・価格競争の傾向は続くが、顧客の購買意欲は少しずつ上昇傾向になりつつある。
		スーパー（業務担当）	・以前より計画されていた大規模な価格強化策が間もなくスタートする予定である。客単価と購買点数の増加が期待できる環境が整いつつある。
		家電量販店（店員）	・株価は乱高下しているが、総じて上昇傾向にあるので、経済効果は非常にある。消費者の動向として、景気が良いと思えば消費は増えるので、このような雰囲気が続けば良くなる。
		家電量販店（従業員）	・暑くなり冷房家電が売れる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・ここ2、3か月先をみると、特に夏場のシーズンということもあり、中元の進物等もよく出る時期になる。毎年のことだが夏場の売上は、年間を通して2番目に売上が上がる月になる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・客の購買力に活気が戻ってきた。まとめ買いする客も出てきた。購入単価が上がっていけば更に売上は増えていく。夏休みに向けて楽しみである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・消費マインドはまだまだ上向いていないが、夏らしい夏として天候が良く気温が高めに推移すれば期待できる。梅雨明け時期もポイントであるが、昨年の北部九州豪雨災害など天候に左右されることがなければ堅調に推移する。
		都市型ホテル（副支配人）	・福岡市全体がMICE中心に、9、10月まで大きな団体、大会等が開催されて客が増えている。
		旅行代理店（従業員）	・国内は富士山の世界遺産登録の話題もあり、富士山関連ツアーは昨年の倍増となった。海外もハワイ・アジアリゾートを中心に予約は順調である。
タクシー運転手	・今後、自由民主党が参議院選挙に勝利して、今後の政策を実施するうえでやりやすくなると思うので、景気がいくらか良くなる。特に低所得者に対して配慮がかなり出ている。		
理容室（経営者）	・季節が少し暑くなって客の来店までの日数が少し短くなるので、来客総数が増えてやや良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアで景気回復とっているが、私たちもやや良くなるという期待感を持って商売にまい進している。春から夏のボーナスシーズンを迎えて少しでも向上していると思いたいのが現状である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・高齢化率の上昇とともに介護サービス付きの高齢者住宅が増加しており、市場の動きが活発になっている。
		設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込み需要がある。
		住宅販売会社（従業員）	・株価の上昇がいつまで続くか分からないが、景気対策がうまくいけば景気はそこまで悪くならない。原料関係も値上げとなったが、住宅やマンションを消費税が上がる前に確保しておきたいという客の動きが若干ある。ただ、客も予算が非常に限られてきているのが現状である。
		住宅販売会社（代表）	・前年と比べても来客数は増えている。新築、リフォーム共に増えているが、新築に関しては、来年、再来年ぐらいで減少していく方向になる。リフォームに関しては、集合住宅を購入してリフォームする層が増えている。また、退職した60歳前後の方々のリフォームも増えているので、リフォームは、年代別にこれから先も増えていく。
	変わらない	商店街（代表者）	・報道されているようなアベノミクスによる景気の良さは全く実感が無いが、一時期のどん底の不景気感からは脱却している。
		商店街（代表者）	・参議院選挙が始まると売上がかなり下がってくる。選挙後、個人消費が伸びるとい理由がないので、このまま悪い状況で推移する。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・数日前に宮崎の公務員関係のボーナスが出た。例年はギフト、お中元商品がぐっと伸びるところだが、なかなか数字が伸びない。ギフトがその状態なので、小売の他の商品も厳しいか横ばいとなる。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・状況が全く変わらない。売れる気がしなくなっている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・今年は暑くなるのも早かったが、特に長い夏になりそうで、売上への影響はかなりある。
		百貨店（売場主任）	・まだ、夏のボーナスが増えていないので、本当に必要なものしか購入せず、自分へのご褒美等の消費につながっていない。
		百貨店（営業担当）	・中元ギフトの受注が始まり、減少傾向にあったお届け件数が微増している。また、盆提灯会場への来場も多く、紋入れへの関心が高い。クリアランスと全店DM催事を同時開催したため、来店客が増加している。また、客の購買意欲も向上しており、ヤング・ミセス婦人を中心に好調である。工芸品・リビング用品の家具等耐久商品の受注も増加して、購買意欲の増加が感じられる。
		百貨店（業務担当）	・これから参議院選挙等で、幾分、人や物の動きが制約されることが見込まれる。夏物需要が活性化する材料は見当たらない。
		百貨店（店舗事業計画部）	・先の流行や季節商材を先取りする動きが少なく、大半の客は、本当に必要な気候や時期になってから購入しているため、変わらないと判断した。特に今後2、3か月先の夏場はその傾向が極端になる。
		百貨店（売場担当）	・2、3か月先は特別なマイナス要因はない。ただ天候要因で、冷夏になるのか、それとも猛暑になるのか今のところ判断つきかねるが、気温でかなり左右されてくる。客単価、1品単価は、今年の春以降落ちておらず、底堅い動きをしている。入店客数もほぼ前年並みで推移しており、今月の売上も102～103%と前年を割っていない状況が続いている。
		百貨店（営業政策担当）	・好調な中元ギフトに関してはあくまで先食いの感が強い。この先は夏本番に向け、盛夏衣料の動向にかかっているが、今のところ衣料品全般は低調気味で、先行きは不透明である。今以上に景気が良くなるような楽観はできない。
		スーパー（経営者）	・増税や各種手当の解除等、手持ちのお金が目減りする可能性がある。
		スーパー（店長）	・単価、販売量共に大きな変化はない。価格志向は相変わらずだが、生鮮品で高品質、高価格の物は3か月前と大きな変化はない。
		スーパー（店長）	・今後、値上げで状況が悪化する。夏休みとなりギフトの時期になるが、単価もなかなか上昇しない状況が続くと予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・消費税増税前の高額耐久消費財や日用品の売上増が見込める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・景気の先行きに明るい兆しがあるような報道がなされるが、なかなか食品スーパーなど末端では、そのような状況を実感しない。最近の株の乱高下で将来に対する不安もあり、消費者心理とすれば様子見といった感じを受ける。今後、景気の回復で食品スーパーがプラスになることは難しいと見ている。
		コンビニ（経営者）	・景気が良くなるのではないかと期待感だけで、客も含め、実体経済が良くなった話は聞かない。また、今後良くなるような話も聞かない。
		コンビニ（エリア担当）	・参議院選挙の結果次第で大きく景気に変化する。夏の賞与のアップにより販売数が伸びるかどうかはこれからだが、見通しは厳しい。
		コンビニ（販売促進担当）	・特売品の売出しで一度底値で買うと、その価格でしか買わないようになるので、購入数量も減っている。良くもなく悪くもなく横ばいでいくのではないかとみている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・移転3年目で少しは伸びしろがあるが、7月になると近くに新しい競合店ができるのでプラスにはならない。
		衣料品専門店（経営者）	・まだまだ郊外に客が流れている。大分の中心街に人が集まらない。
		衣料品専門店（店長）	・アベノミクスの効果がまだ地方へは浸透していない。
		衣料品専門店（店員）	・夏セールのスタートが遅くなり、セール売上は減るが、秋物の立ち上がりも早くなっているので変わらない。景気変動するような要素が見当たらない。
		衣料品専門店（チーフ）	・来年の消費税増税により、客の購買意欲も下がる見込みである。
		衣料品専門店（取締役）	・3か月先の9月は、気候に左右されるこの業界では、残暑か涼しくなるかが大きな問題である。ボーナスが出た後で、高額商品は一部動いているが、全体的に財布のひもが緩むかどうかは全く分からない。
		衣料品専門店（総務担当）	・経済全体の指標はかなり上向いているようだが、私どもの顧客の収入は現時点でそれほど上昇しておらず、地方においては、これから1年の消費が盛んになると感じられない。
		家電量販店（総務担当）	・販売数量は多少回復しても、単価減少が続いている。
		家電量販店（広報・IR担当）	・好調な商品はあるものの、現状維持が妥当と考える。
		乗用車販売店（従業員）	・消費税が8%に上がるのが決まれば受注台数も増える。
		乗用車販売店（総務担当）	・年末まで新型車の投入がないので、2、3か月先も新車販売は現状のまま低調に推移する。
		住関連専門店（経営者）	・今月も株価の乱高下があり、景気の先行きは不透明である。物価は上昇しているが、地方では給与所得が上がるような話は出てこない。必要に迫られた置き家具の購入はあるが、修理依頼などの必要最小限度に出費を抑えたい、物を大切にという考えの高齢者が増えているようだ。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・来店する顧客から聞く賞与支給の状況は、前年比微増又は前年並みとの情報が多く、積極的に消費に回したいとの話は少ない。ボーナス商戦において高額洗車等のカーケア商品の拡販を期待したいが、前年並みを予想している。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・単純に株価が多少上がっているだけなので、本格的な景気回復の実感はなく、ボーナス前の買い控え感が強い。
		高級レストラン（支配人）	・予約数が伸びない。
		高級レストラン（専務）	・アベノミクス効果で景気は少し良くなったようだったが、また少し不安な状況となり、客もあまり高いものや余計なものを取らなくなっている。
		一般レストラン（スタッフ）	・現時点では何も変わる気がしない。
		居酒屋（経営者）	・良くなってほしいが、周りの店舗や取引先の話聞いても良い話を聞かない。
		観光ホテル（総務）	・今後3か月間の予約状況及び収入予測により変わらないと判断した。
		観光型ホテル（スタッフ）	・7月は参議院選挙がある。例年選挙がある月は自粛ムードとなり宴会等が冷え込むが、宿泊は昨年と同等を見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（販売担当）	・これといった解決策やメディア情報、官公庁などの税金緩和などの話もないので、今後も変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は昨年並みである。7月末からの高校総体で町中にはにぎわうことが予測されるが、ホテルの予約状況に大きな動きはない。
		都市型ホテル（総支配人）	・今後のイベントや宿泊状況はあまり変わらない。現状としては先行きが不明であるために変わらないと判断。
		旅行代理店（企画）	・2、3か月先に景気が上下したことを実感できるような要因は見当たらない。
		タクシー運転手	・客との会話のなかで、景気回復が自分たちの収入に反映されておらず、ガソリン代、食料品代、その他の物価は上昇傾向にあるので、不安のほうに立つという意見が聞かれる。
		タクシー運転手	・今のところ予約状況も良く、7月後半からある大きな大会の予約も順調に入ってきている。しかし、企業関係が今のところ少し弱くなっているため、先行きは分からない。
		通信会社（販売部）	・新商品はほぼ出そろっているため、来客数や販売数が向上する要素が見当たらない。
		通信会社（総務局）	・伝送路の光化が8月末完成予定であるが、それまでは純増件数の大きな伸びは期待できない。
		通信会社（企画担当）	・夏季賞与という季節要因を除いた場合、基調としての販売量拡大や減少は想定できない。
		ゴルフ場（支配人）	・7、8月は猛暑と少雨が予報されており、真昼時間帯のプレー敬遠が例年以上に懸念される。大企業の少ない地方では賃金やボーナスが増えたと言う話は顧客から伝わっておらず、レジャーなどの消費が増えることは期待し難い。
		競輪場（職員）	・景気自体は上向いているが、それが顧客の購買意欲に浸透してくるまでには相当期間を要すると考える。
		美容室（店長）	・経済の見通しが立たないので財布のひもを締めて、余計なものを買わない様子が多くみられる。
		美容室（店長）	・固定客の減少と新客の増加がほぼ同等なので、変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・2、3か月先はやや悪くなる。客の声を聞くと、収入は増えておらず、地方の消費者は日々の生活に危機感をもっている。農業県は今が農繁期であり、梅雨明け後も猛暑が続き、9月までは客も少なくなるので辛抱しなければならない。
		商店街（代表者）	・婦人衣料は、7～9月は消費が落ちる時期なので少し悪くなる。
		商店街（代表者）	・7月の出荷分で小麦粉、マーガリン、バター、シーチキン等の値上がりが発表されている。これに消費税増税が加わると、いよいよ客の買い控えが激しくなる。アベノミクスにより景気が良くなると言っているが、我々には全く関係ない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・ギフトとしての切り花の需要が控えられる夏場になるので、新しい販売方法を見つけないと、2、3か月先までは厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・株が非常に乱高下したにもかかわらず、6月も業績からみて底堅く消費は推移しているので、ある程度株価に落ち着きが出てくると良くなる。企業業績も輸出業を中心にかなり改善されているようなので、これからもう少しお金が回り始めるともっと良くなる。その兆しは見えてきたと判断した。
		スーパー（総務担当）	・単月でいうと参議院選挙や為替の影響から輸入商品の単価上昇が避けられないこと、また、国内調達品も原材料価格が上昇しており、円安影響が懸念される。低単価は相変わらず購買の大きな動機につながっており、低単価維持の限界もあるため、今後、業績や収益に影響が避けられない。
		コンビニ（店長）	・夏休みが明けて、落ち着く。
		衣料品専門店（店長）	・先が読めない。悪くなるというより、良くなる材料がない。
		住関連専門店（店長）	・今月我が社は、商品の原価アップに際し、売価の値上げに踏み切った。これからは価格競争に走らずに付加価値の部分で戦うという戦略に出たが、消費者側は「より安く買いたい」という傾向がまだまだ根強い。よって、来客数の減少という問題に直面している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の予約状況を見ると、かなり厳しい状況である。7月21日に参議院選挙があり、法人関係が選挙の応援に回るの で、7月はなかなか法人関係が動かず、当店にとってはかなり苦戦の材料である。アベノミクス効果は大分県の当店に全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		高級レストラン（社長）	・参議院選挙が控えているため。	
		タクシー運転手	・来月は参議院選挙があるので昼、夜ともタクシー利用が少なくなる。	
		通信会社（業務担当）	・7月は人気商品が更に品薄で、目新しさもなくなり、販売が伸ばせない状況になると予想される。	
		ゴルフ場（従業員）	・7、8月の予約状況からみて、特に8月は予約が入っていない状態で、思わしくない状態が続いている。思ったより地方の景気は上向きに進んでいない状況である。地元の団体等予約も昨年割れし、予約も目減りして厳しい状況にある。	
		競馬場（職員）	・来場者数の状況が改善しない。	
		音楽教室（管理担当）	・これからは受験期に向かうので、稽古ごとは少なくなっていく。	
		設計事務所（所長）	・特にない。	
	悪くなる	商店街（代表者）	・景気が良くなる見通しが全くない。弊社では商品開発に力を入れているが、それが数字に反映されるのは当分先の話である。	
		スーパー（店長）	・原材料の高騰に伴う値上げや将来の不安、消費税増税等、景気が回復するような要因がまだ見えてこない。	
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・食料品のような必需品ではないため、全体の販売傾向は景気に左右されがちである。夏のボーナスは期待できそうだが一向に明るい兆しがみられない。	
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・7、8月は本格的な夏到来でビール消費に比例して焼き鳥等が伸びる。大手加工メーカー筋の原料肉も、秋口は年末に合わせた生産に入るため引き合いが強くなる。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・9月締め企業が多いことから、通年の受注量予測として、若干は良くなると想定される。	
		金属製品製造業（企画担当）	・復興特需や大型補正予算の執行により、当社が主に属している公共投資関係業界は引き合いが多くなってきている。	
		電気機械器具製造業（取締役）	・売上に占める大手の割合が大きいため、当社への影響は大きい。医療・健康関連の引き合いは強く、太陽光ビジネスは今期一杯は活況が予想される。	
		精密機械器具製造業（従業員）	・今期9月までの生産計画では、受注量が上向きで、上期は確実に黒字を見込んでいる。	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・生産台数は増加する。	
		建設業（従業員）	・現在、見積案件も数多くあり、消費税増税による駆け込み需要が見受けられる。公共工事もそろそろ出始めるので是非とも受注に結びつけていきたい。また、マンション等の外壁大規模改修工事なども近年増えている。これからリフォーム工事が多くを占めるようになり競争も激化する。	
		建設業（社員）	・2012年度の補正事業の発注を終えたが、途切れなく2013年度の発注をお願いしたい。今の状態でも充分ではあるが、備えは必要なので今後の発注に期待する。	
		通信業（経理担当）	・消費税増税を前にして、取引が活発になってくることが予想される。	
		金融業（従業員）	・株価や為替レートの乱高下などにより、一頃に比べ先行きにやや慎重な見方が増えてはいるが、足元では公共工事関連企業が多く受注残を抱えており、マンション建設などの計画も大幅に増加している。景気は回復傾向をたどるとのムードが次第に広がってきている。	
		経営コンサルタント（社員）	・銀行が積極的に貸し出しを始め、事業家の投資案件が増えてきた。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・受注見込み案件の数も増えてきており、企業の投資意欲は上向きつつあると判断している。	
		変わらない	食料品製造業（経営者）	・納入先の客数及び売上は昨年と比較してかなり減少しており、得意先の情報でも今後景気が良くなる見込みは当分見受けられない。富士山の世界文化遺産登録など、話題に事欠かない東日本とは異なり、特に南九州には景気を押し上げる材料が乏しい。
			繊維工業（営業担当）	・今がピークで元に戻るだけだが、やや悪くなるか、良くても現状維持だろう。繊維関連の景気が良くなるのは、まだまだ先だ。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家具製造業（従業員）	・上昇傾向だった受注件数や受注額の伸びが鈍化している。 右肩上がりの受注、物件情報量が一段落した状況である。
		化学工業（総務担当）	・当社の賃金は、業績悪化のため上がる可能性がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今後、夏場に向かって商品が売場的にも少なくなるので、何とか量的なものや特注等を無理して取りにいかなくてはならない状況だ。
		一般機械器具製造業（経営者）	・各ユーザーの担当者との打ち合わせのなかで、明確な発注回答が得られないのと同時に不明な点が多すぎる。様々な外的要因で明確にならないと思うが、もう少し具体的になったらというのが我々の希望である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今まであまり取引のなかったユーザーより、先を見据えて会社状況の問い合わせや訪問がある。直接の引き合いではないが、活発な動きがみられる。この先仕事が増える予感がする。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現状を維持する方法と新規に事業を開拓する方法の2通りを考えている。現状を維持するにしても新規開拓するにしても、それを維持していく従業員の教育を根本的に実施しなくてはならない。この問題の解決が早急に我が社では求められている。事業内容の改善も行政も含めて今進めている。
		輸送業（総務）	・株価上昇、円安、参議院選挙等が景気を左右する状況が続いているが、まだまだ景気が良くなっている実感がない。
		通信業（職員）	・年度当初の予想よりも受注が伸びておらず、今後も大きな変化は見込めない。
		金融業（営業担当）	・年商1億円前後の中小企業には、受注量の増加に見合う利益の増加までには至っていない。利益の増加を実感するのは大企業のみであり、この短期間で中小企業への好影響をもたらすまではいかない見込みである。
		金融業（調査担当）	・景気回復過程は現状と同じ水準である。資金需要も大きな変化はない。
		不動産業	・不動産業界は、消費税増税前の駆け込み需要で売買の動きは活発と思われているが、大幅に上がってはならず緩やかに現状維持程度に推移していく。
		不動産業（従業員）	・商業施設部門の売上が横ばいで推移する。
		新聞社（広告）（担当者）	・「通信販売」は昨年を下回る出稿量の見込みで、その他の大型出稿案件がないため、「化粧品（通販）」や「住宅設備」の広告がどこまで伸びるのかにかかっている。
		広告代理店（従業員）	・今月6月の折込枚数は前年同月比101%と前年を超えたが、このまま推移するとは思えず、依然環境に変化はみられない。7月に参議院選挙を控えているので、そこまでは前年を超える折込枚数になるかもしれない。
		経営コンサルタント	・現在の沈滞気味の状況は急には変わらない。
		やや悪くなる	
鉄鋼業（経営者）	・新規に着工する建築物件はある程度持っているが、需要家の希望する買値は下落の一途であり、メーカーの採算がとれるレベルではない状況が続いている。原料価格が内外ともに弱いため、需要家の指値は厳しく、製造メーカーとしては減産で対応するしかない。		
輸送業（総務担当）	・荷動きが悪いなかで円安により値上げの動きがある。今後、ますます荷動きが悪くなる傾向にある。		
広告代理店（従業員）	・先月は前年並みとなったが、今月は少し落ち込んだ。先月が特別とみて、今後はあまり期待できない。		
経営コンサルタント（代表取締役）	・経営者の方々と話をした感触では、参議院選挙までは非常に商売としてやりづらく、売上も上がらないというのが大半の意見である。選挙後はよほど景気が回復しない限り、良く現状維持である。		
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・公共施設の改修工事や土木工事等を受注できるのは、同じ市町村内の業者に限られる場合が多いため、福岡市内にあるコンサルタントは、他市町村の業務と直接関係がない。福岡市の調査や計画・設計等の発注は、昨年度に前倒しで発注されているため、今年度はその分少なくなるのではないかと推測される。		
悪くなる	—		
雇用	良くなる	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・中小企業は、良い人材の雇用確保が難しい時期を経験しており、企業の業績が上振れすると同時に人材不足となることを懸念し雇用確保に動いている感がある。継続すれば雇用条件の改善等、複合的な効果がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・先月に引き続き、注文も順調に増えている。中元時期の注文も既にいただいているので、8月までは売上も良い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ガソリンなどの高騰により諸物価は上がっているが、求人は活発に動いている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・参議院選挙後、経済再生の動きがどのように地方に波及してくるかが、企業活動や求人の動きを左右する。
		職業安定所（職員）	・新規に求職を申し込んだ人数は前月のマイナス7%となっており、6月の数字でみる限り今後は景気が良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・景気回復といわれるが、実質の営業単価等には何の影響もない。
		人材派遣会社（営業）	・ヒアリングで、求人ニーズが2～3か月後も現在と変わりが無いとの声が多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人募集の状況を見ると、これまで医療、福祉系や教育が中心だったが、流通やサービス関連も増えてきた。ただ、給与が上がるにはまだ時間が掛かり、景気回復の実感までは届きそうにないようだ。
		職業安定所（職員）	・新規求人は、建設業、製造業で前年同月比を大きく上回っているものの、管内主要産業である卸・小売業、サービス業からの求人はわずかに減少しており、やや求人意欲が低下している。
		職業安定所（職員）	・中小零細企業が大半の地方においては、今のところ景況感が良いという話が聞こえてこない状況にあり、ここ2、3か月では変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・求人総数から大きな変動はなく横ばいであるが、為替の影響か貿易関連の業務が4月以降増加している。特にアジア向けの輸出関連企業は好調の兆しがあるが、その他の業界では目立った動きはない。
民間職業紹介機関（社員）		・急な契約終了の動きも少なく、また急な増員の動きも予定されておらず、落ち着いている。	
民間職業紹介機関（支店長）		・求人数が前年よりも2、3か月にわたり増加すれば、景気はやや良くなる。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人数の増加に加えて内定状況の数字がある程度みえてくると、景気動向が明らかになる。現時点では変わらないと判断している。	
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	一般小売店〔菓子〕	・参議院選挙が終われば景気対策が本格化していくと推測する。また、乱高下している株価や為替が落ち着くのではないかとみられる。
		コンビニ（経営者）	・近隣のマンションに入居が始まり、客数増が見込める。
		衣料品専門店（経営者）	・少しずつだが、客が多くなってきている。また、新しい商品を探している客も多く、全体的に購買意欲は上がってきているように見受けられる。これから少しずつつながり良くなっていくと見込む。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の悪い時期が続いたので、そろそろ良くなる頃だとみている。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・8月は旧盆やエイサー祭り等多くのイベントが催される。目抜き通りのW i - F i 事業も始まる。多言語の対応策も積極的に提案されてきている。日本人だけでなく海外の観光客にも安心して対応できるようになるかもしれない。
		観光名所（職員）	・予約状況が良い。
		ゴルフ場（経営者）	・商品に自信はあり、今しばらくすれば景気とは別に評価が上がり今よりは良くなるかとみている。
その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・県外観光客のレンタカーの予約状況は前年同期比105%で推移しており、今後も伸びてくるものと予想される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（総務・企画分野）	・消費税増税前の駆け込みを意識する客は、今後も増えると予想される。また、住宅販売業者としても、その情報を提供していくので、数か月先の住宅販売の受注は増えるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	変わらない	住宅販売会社（代表取締役）	・近隣の自社の営業地域において建築需要が見込め、当面の建築相談の増加傾向は続くと思われる。	
		スーパー（販売企画担当）	・前年に開店した競合店が一巡したことで前年比は回復してくるものと考えられたがその効果は無いように見受けられる。	
		コンビニ（経営者）	・アベノミクスの効果が出ていない。	
		コンビニ（エリア担当）	・本島、離島含め前年より観光客が増えているため、絶対数の増加でこの先は期待できる。また暑さが続くため飲料を中心とした商品での底上げが予測される。夏場の売上と利益が確保できれば、冬場への体力温存にもつながる。	
		コンビニ（エリア担当）	・観光、公共事業等安定しており、県経済は当面順調に推移すると判断する。	
			観光型ホテル（マーケティング担当）	・現在の予約状況から推測される販売量、すなわち稼働率は、今月と同様に前年同月の実績を下回る見込みである。沖縄県の入域観光客数自体は増加傾向にあるものの、新規ホテルのオープンなど供給過多の傾向が感じられる。
	やや悪くなる		百貨店（営業企画）	・今月は天候とクリアランスのスタートを早めたことでプラスに転じているが、7月はその反動と選挙によるギフト動向の鈍化を懸念している。8月は旧盆のズレで中元ギフト販売期間が短くなることから、前年比100%前後で推移するものと推測される。
			スーパー（企画担当）	・競合店が開店する予定があり、近隣店での苦戦が見込まれる。
			その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・全体としては、街の動きは活性化しているように感じるが、食料品、燃料の値上がり等で、地元客の外食はかなり減っている。来年の消費税に対する心理的な防衛本能も感じられる。
			通信会社（店長）	・ブランド力、話題性において他キャリアに負けており、対抗策を出しても一時だけの好調で終わってしまい対抗策が無いようにみられる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・アベノミクスに期待はしているが、現実的には、商店街に客は多少はいても財布のひもは固く、なかなか売れない危機的状況が続いている。アベノミクスの効果が出るのはいつごろになるか、今後どうなるか大変危惧している。	
企業動向関連 (沖縄)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	建設業（経営者）	・モデルハウスや住宅完成見学会に来場する有望見込客数が増加している。	
		輸送業（本社事業本部）	・通販業務の増加傾向に期待感が有り、更に外食系の出店計画の話も出ており、2、3か月後には幾つかの店舗が開店予定となっている。受注量は微増ではあるが増加の可能性がある。	
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・横ばいの見通しである。	
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島共に公共工事は低下しているが、民間工事が散見される。	
		広告代理店（営業担当）	・民間企業の販促投資は、業種によってバラツキはあるものの、全体的には横ばい傾向と感じている。	
		会計事務所（所長）	・一時的な株価上昇の反動で、経済は様子見の状況であるとみている。参議院選挙の結果により経済政策がどのように具体化、実行されるかという状況を見てから消費者心理が変動するのではないかと。	
		コピーサービス業（営業担当）	・アベノミクス効果は、沖縄に来るのに2～3年はかかるので、当分は変わらないとみている。	
	やや悪くなる	食料品製造業（総務）	・現在の状況が劇的に変わる見通しが無い。政府機関による具体的な支援策が出てこないかと改善は厳しいのではないかと。	
		通信業（営業担当）	・4月の段階で案件が延期になり、いずれ案件の依頼が来るかとみていたが、現時点でも延期の状態で案件が出ていない。	
	悪くなる	—	—	
雇用関連 (沖縄)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	○	○	
	変わらない	人材派遣会社（総務担当）	・夏場に向けて、イベントの受付や接客業の受注増もあり、今のままの良い状態が続くと推測されるが、企業側の参議院選挙後の景気情勢を見極めたいという姿勢が感じられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社 (営業担当)	・求人数の大幅な増加は見込めない。
	やや悪くなる	○	○

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—